

337

119

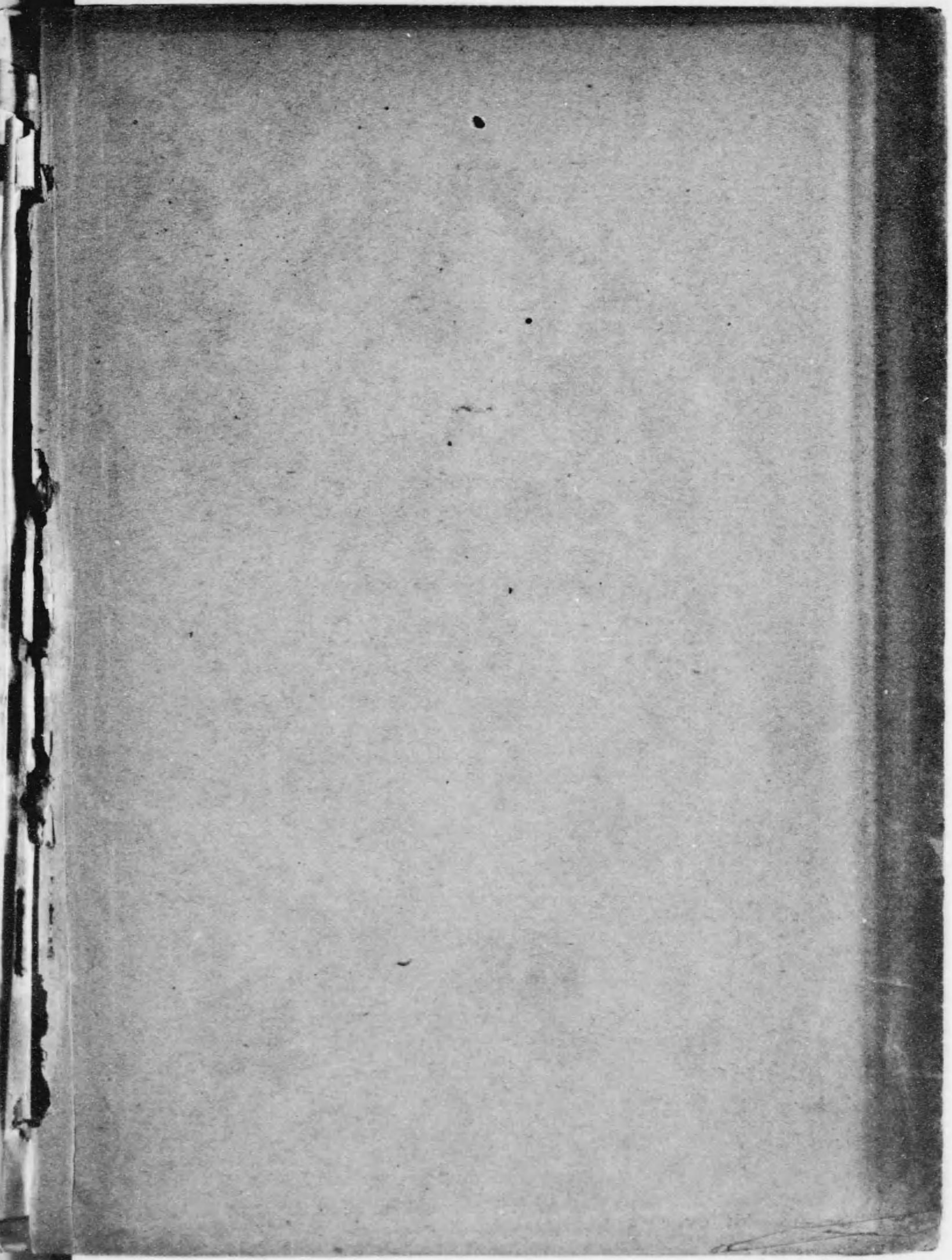
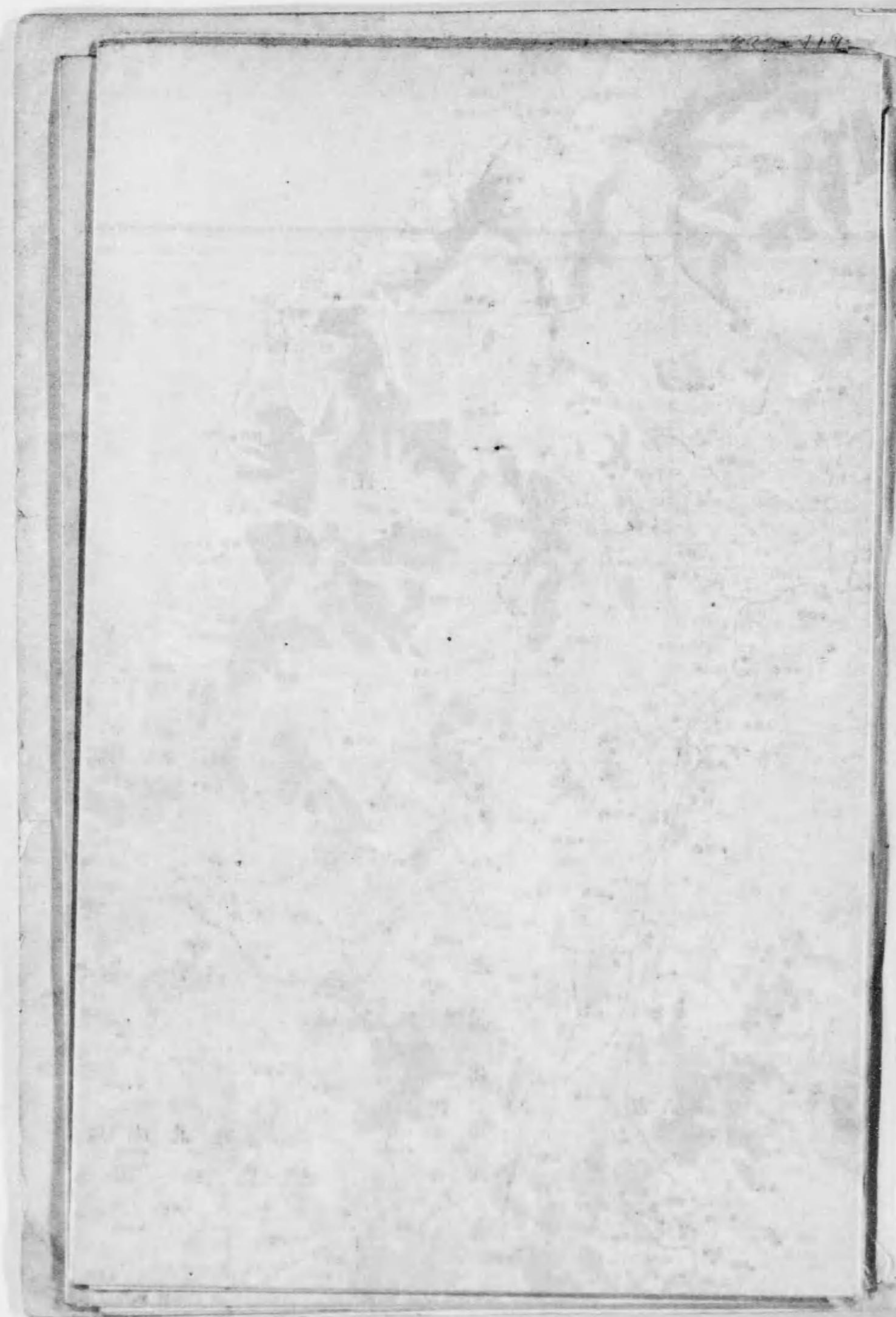


始



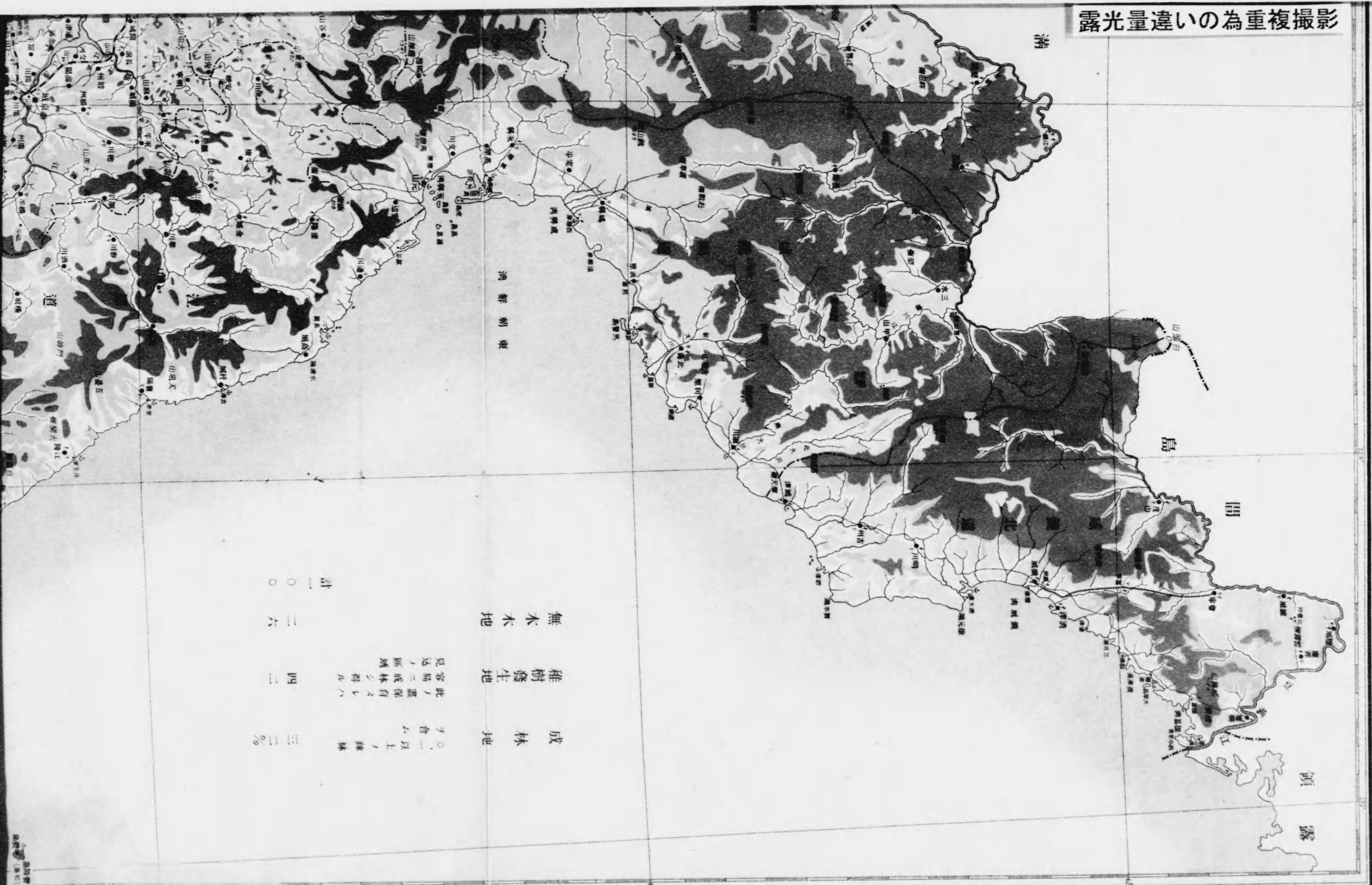
385
119

朝鮮森林視察復命書



朝鮮林野分布概観

露光量違いの為重複撮影



朝鮮林野分布概圖

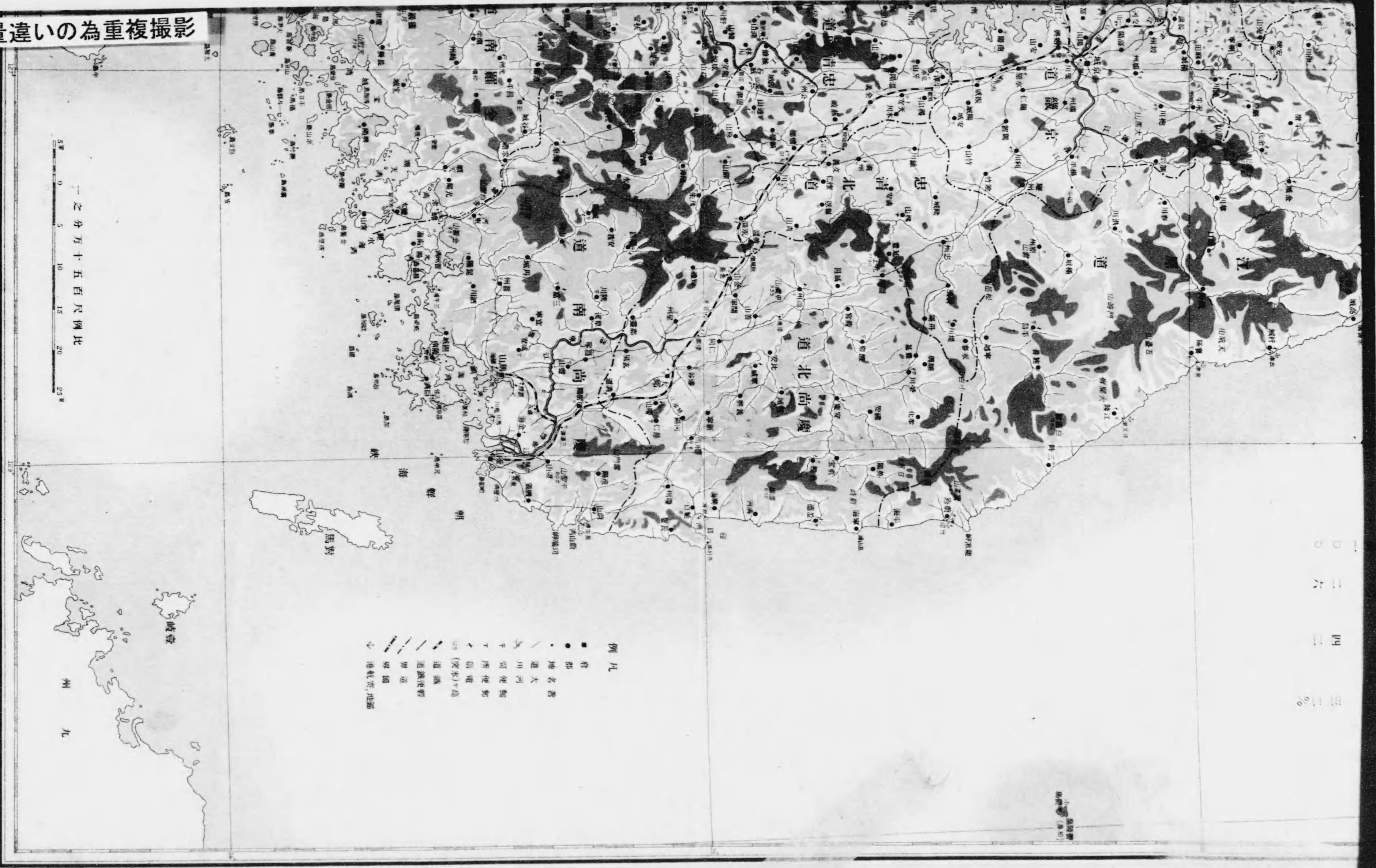
影撮重複の爲の量光露



成林地
 準備地
 無木地

1. 成林地
 2. 準備地
 3. 無木地
 4. 其他

露光量違いの為重複撮影



露光量違いの為重複撮影



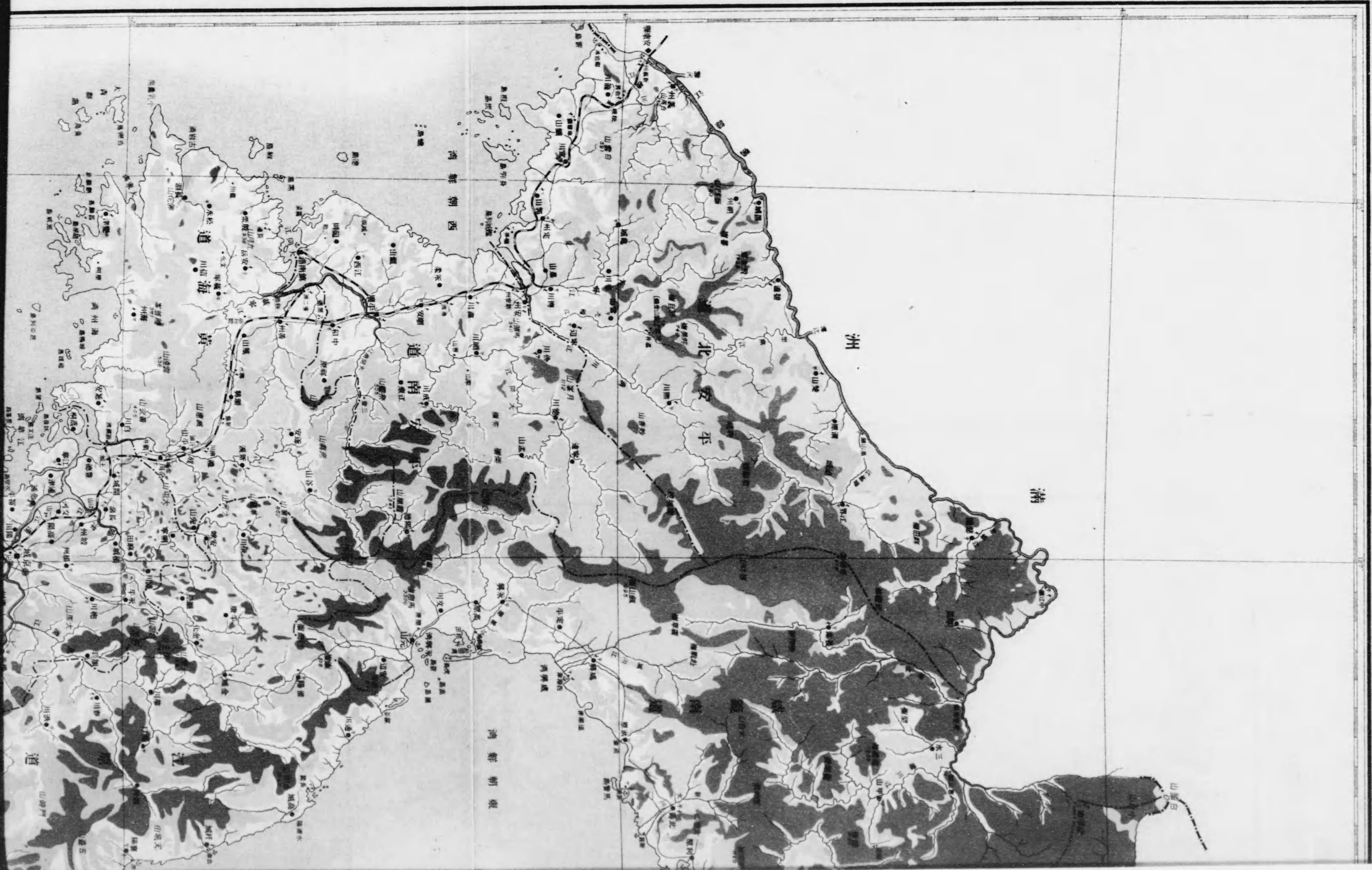
二百里五十分

時分

凡例
 ● 市界
 ○ 町界
 □ 村界
 〃 河川
 〃 山脈

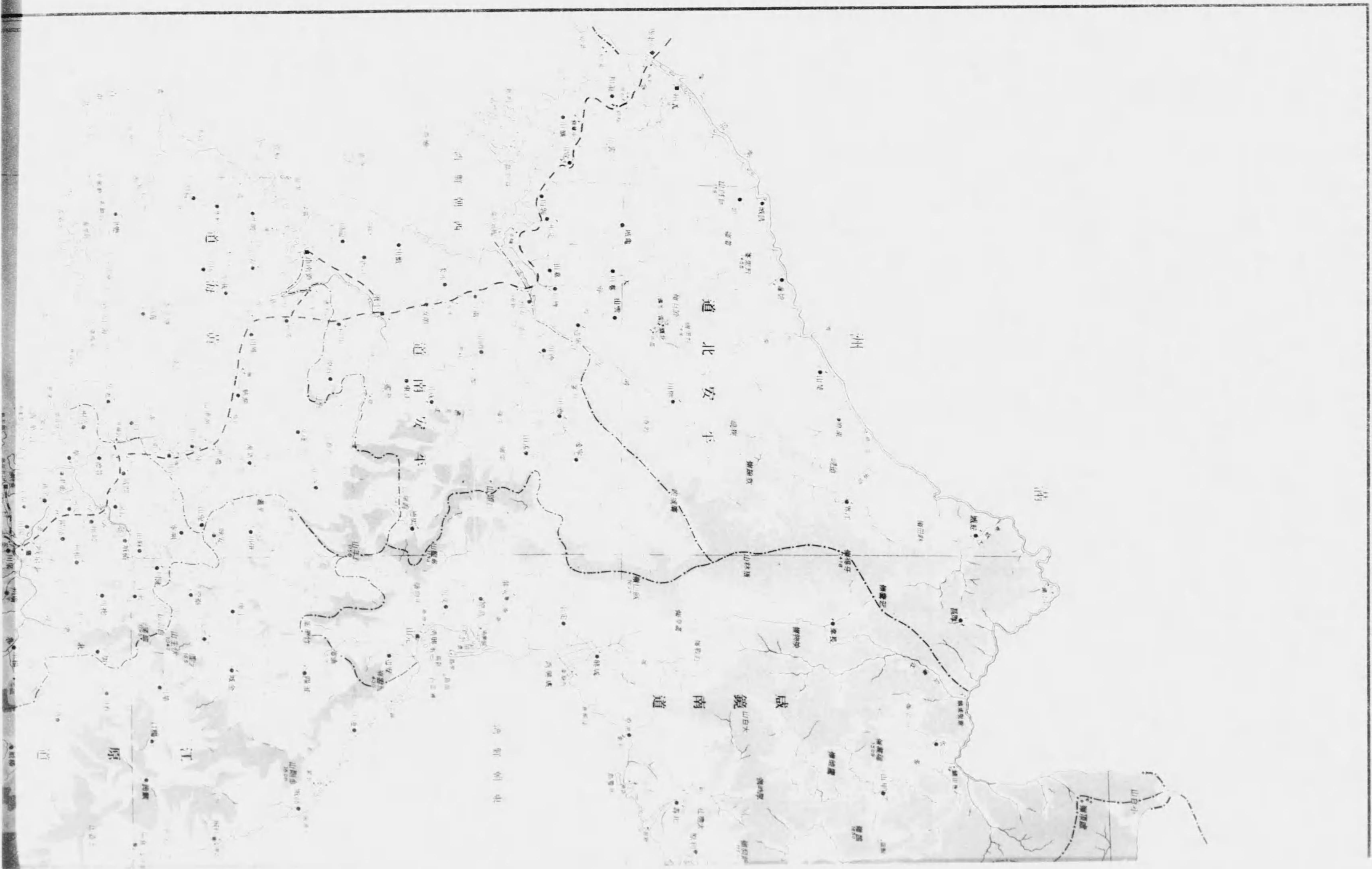
和野分分布概況圖

影撮為之的差光量露



和野分分布概況圖

影撮為之的差光量露



露光量違いの為重複撮影

東京國文社印行



露光量違いの為重複撮影

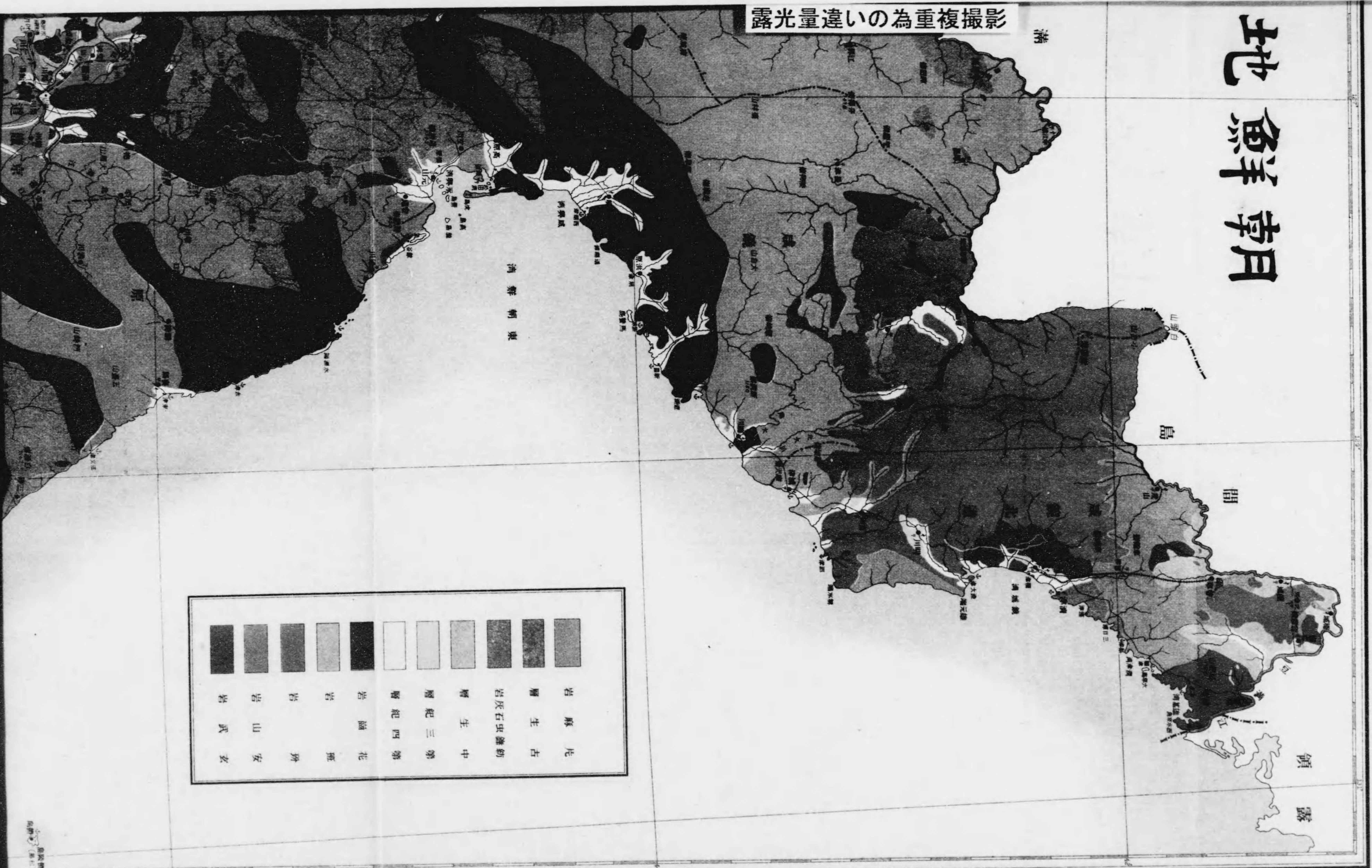


東京國文社印行

一九三五年五月十五日

朝鮮地

影撮重複の爲の量光露



	玄武岩
	安山岩
	玢斑岩
	花崗岩
	第四紀層
	第三紀層
	中生代
	新羅石炭灰岩
	古生代
	麻生層
	元古岩

朝鮮朝地

露光量違いの為重複撮影



影 射 光	影 射 光
暗 射 光	暗 射 光
明 射 光	明 射 光
暗 射 光	暗 射 光
明 射 光	明 射 光
暗 射 光	暗 射 光
明 射 光	明 射 光
暗 射 光	暗 射 光
明 射 光	明 射 光

露光量違いの為重複撮影



安山
玄武岩

例凡

- 府部
- 地名著
- 大河川
- 河川
- 河川便所
- 河川便所 (安永) 高
- 道鐵
- 道鐵便輕
- 界道
- 界道
- 港航寄, 地線

一之分万十五百尺例比



九州

崎登

馬野

海

朝

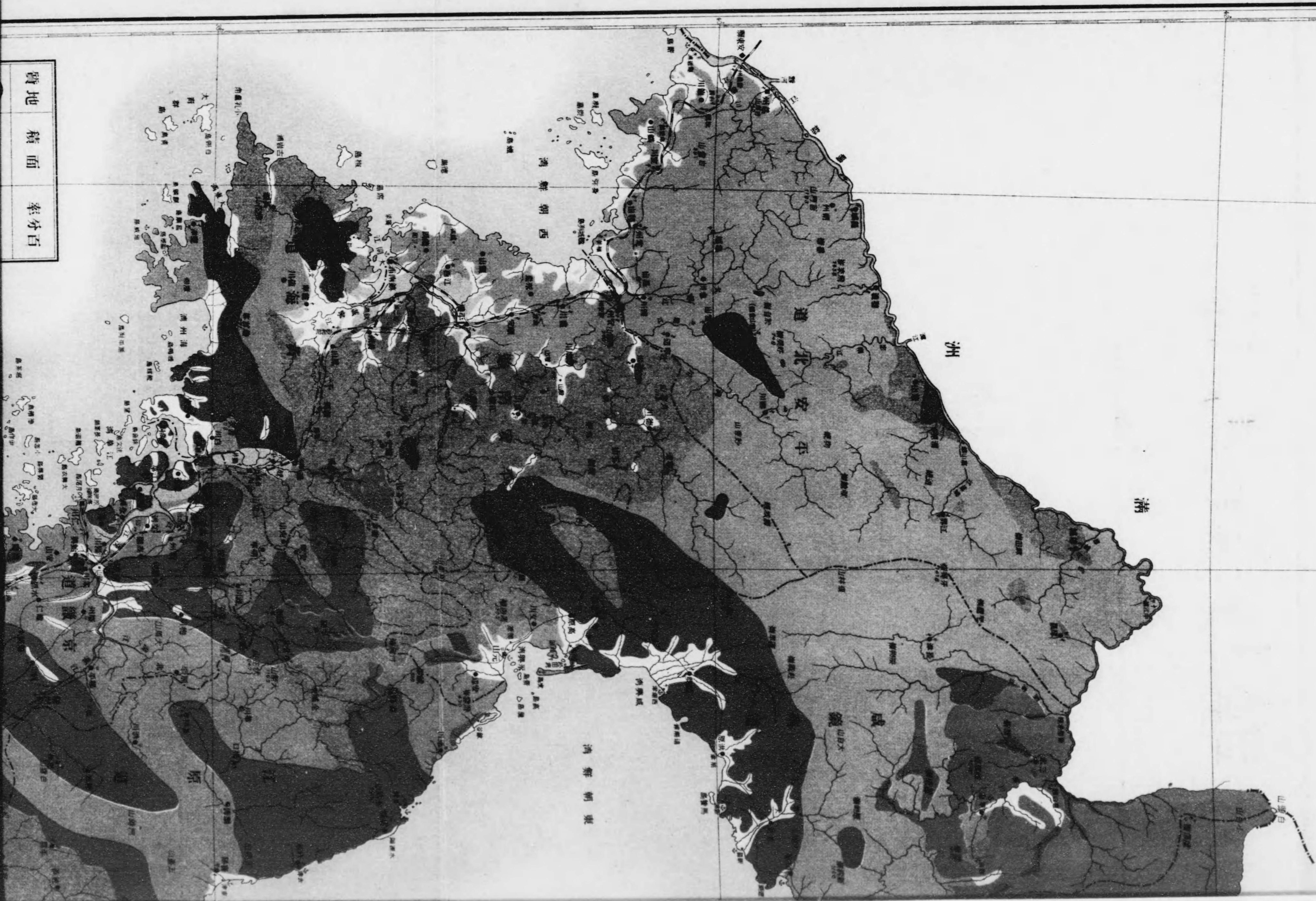
道北尚慶

道北全

國地

露光量違いの為重複撮影

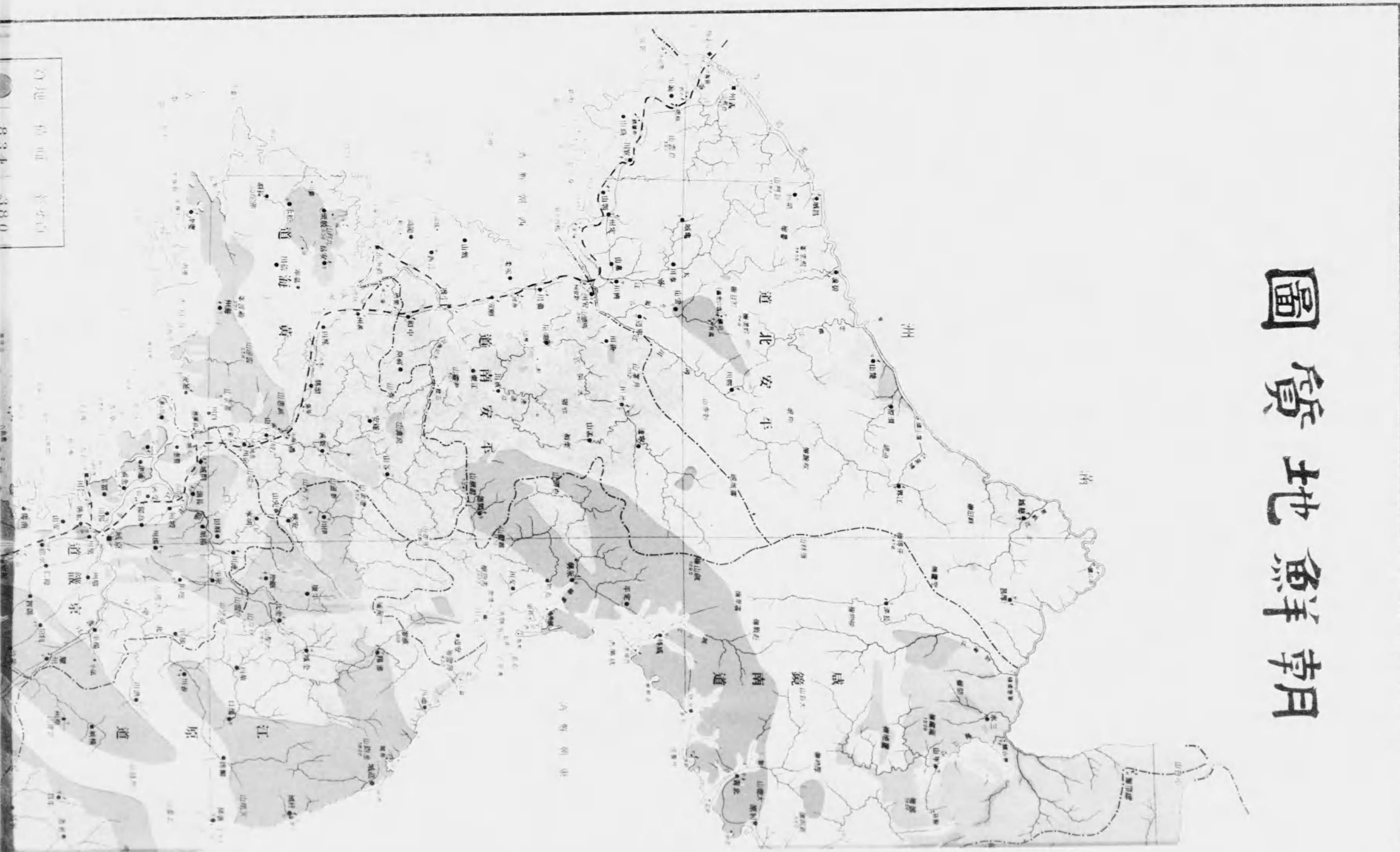
朝鮮地質圖



質地 積面 率分百

露光量違いの為重複撮影

朝鮮地質圖

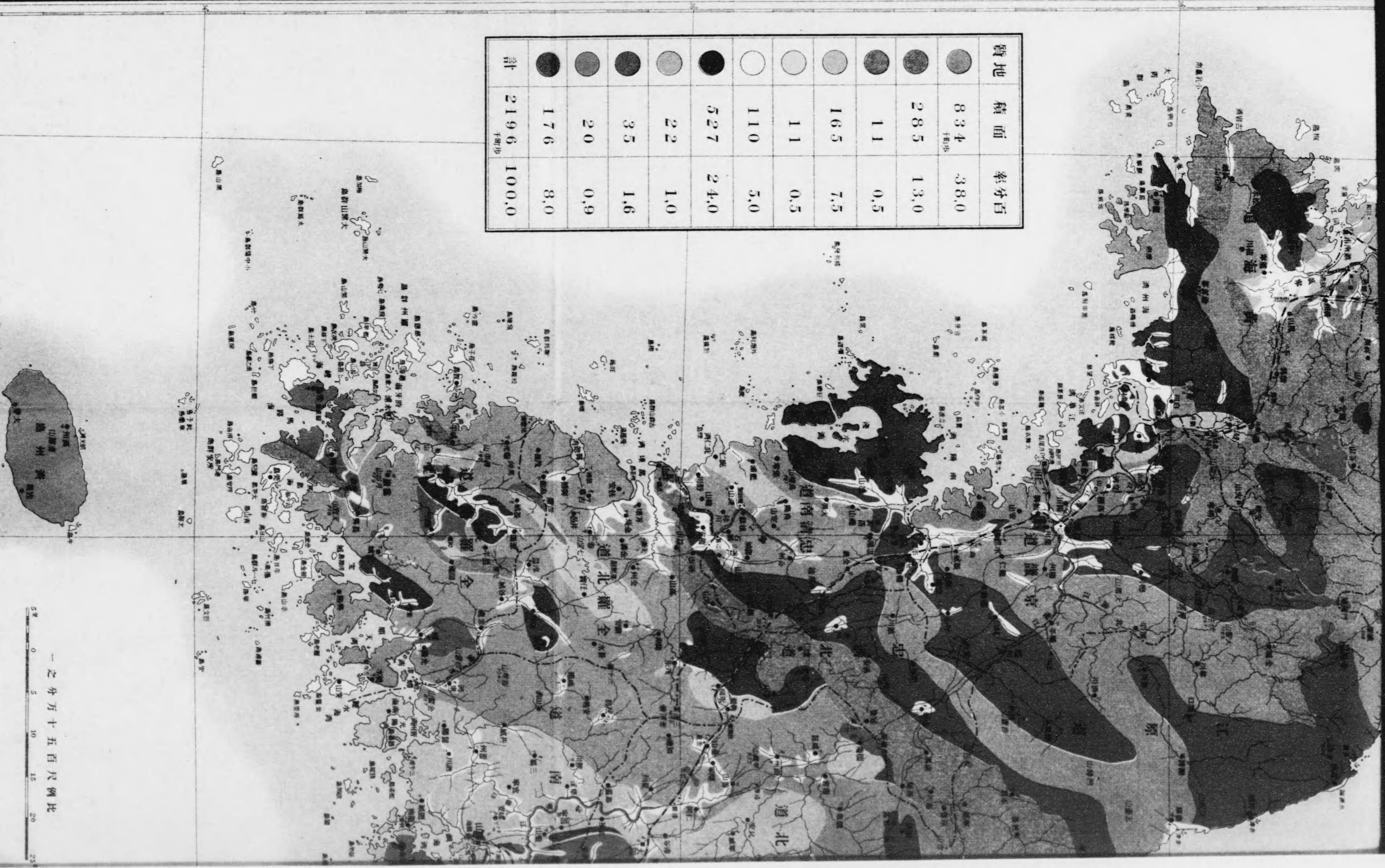


山地 平原 水澤

1:500,000

露光量違いの為重複撮影

露光量	面積	率(%)
●	834 千平方	38.0
●	285	13.0
●	11	0.5
●	165	7.5
○	11	0.5
○	110	5.0
●	527	24.0
○	22	1.0
●	35	1.6
●	20	0.9
●	176	8.0
計	2196 千平方	100.0



一之分万十五尺例比

露光量違いの為重複撮影

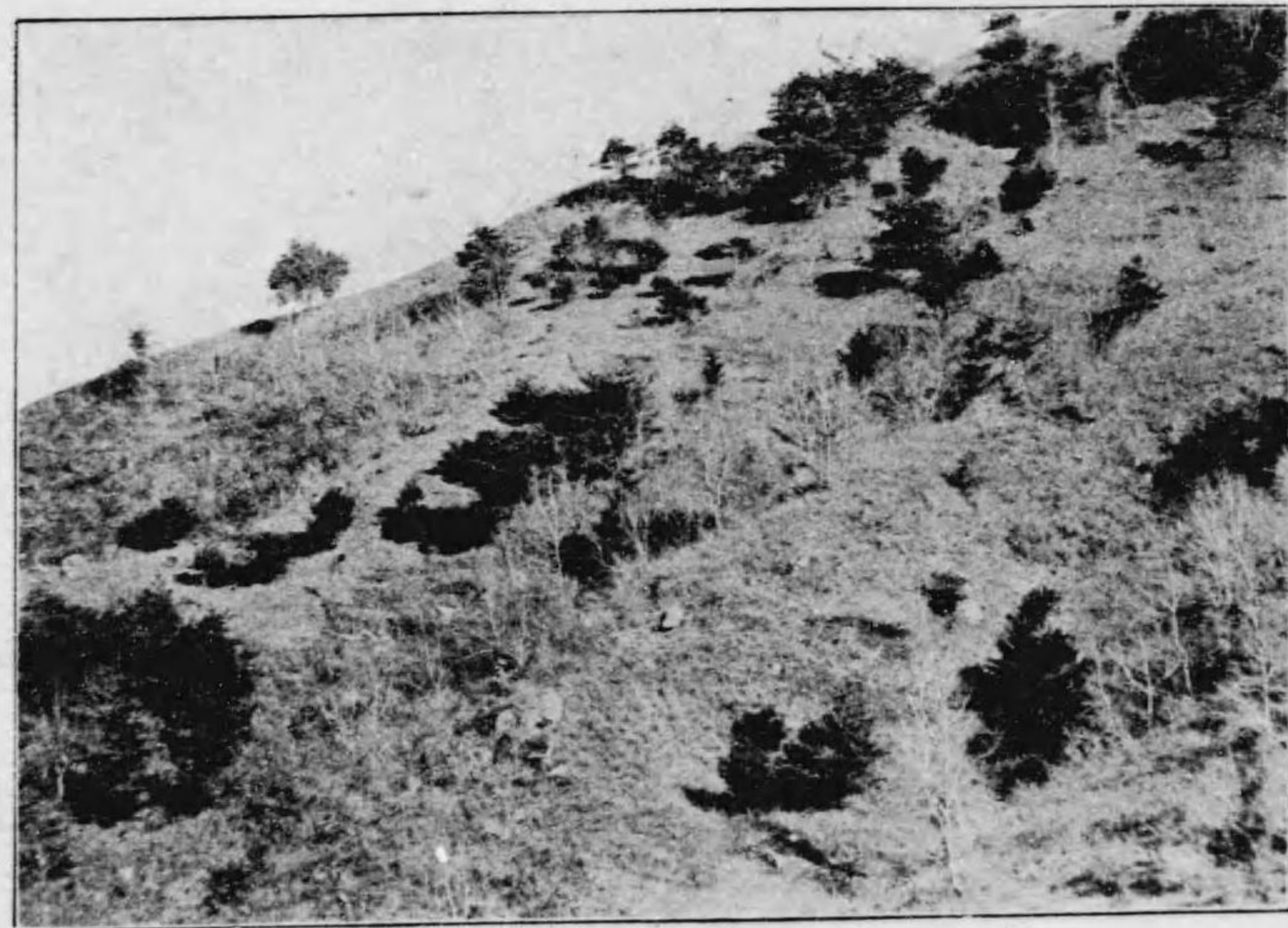
各地	積雨	平均
○	11.4	100.0
○	20.7	100.0
○	1.1	0.7
○	16.7	7.7
○	1.1	0.7
○	11.0	5.0
○	7.7	2.0
○	7.7	1.0
○	2.0	0.5
○	1.0	0.5
○	21.0	100.0



1934年11月1日

1934年11月1日

337-119



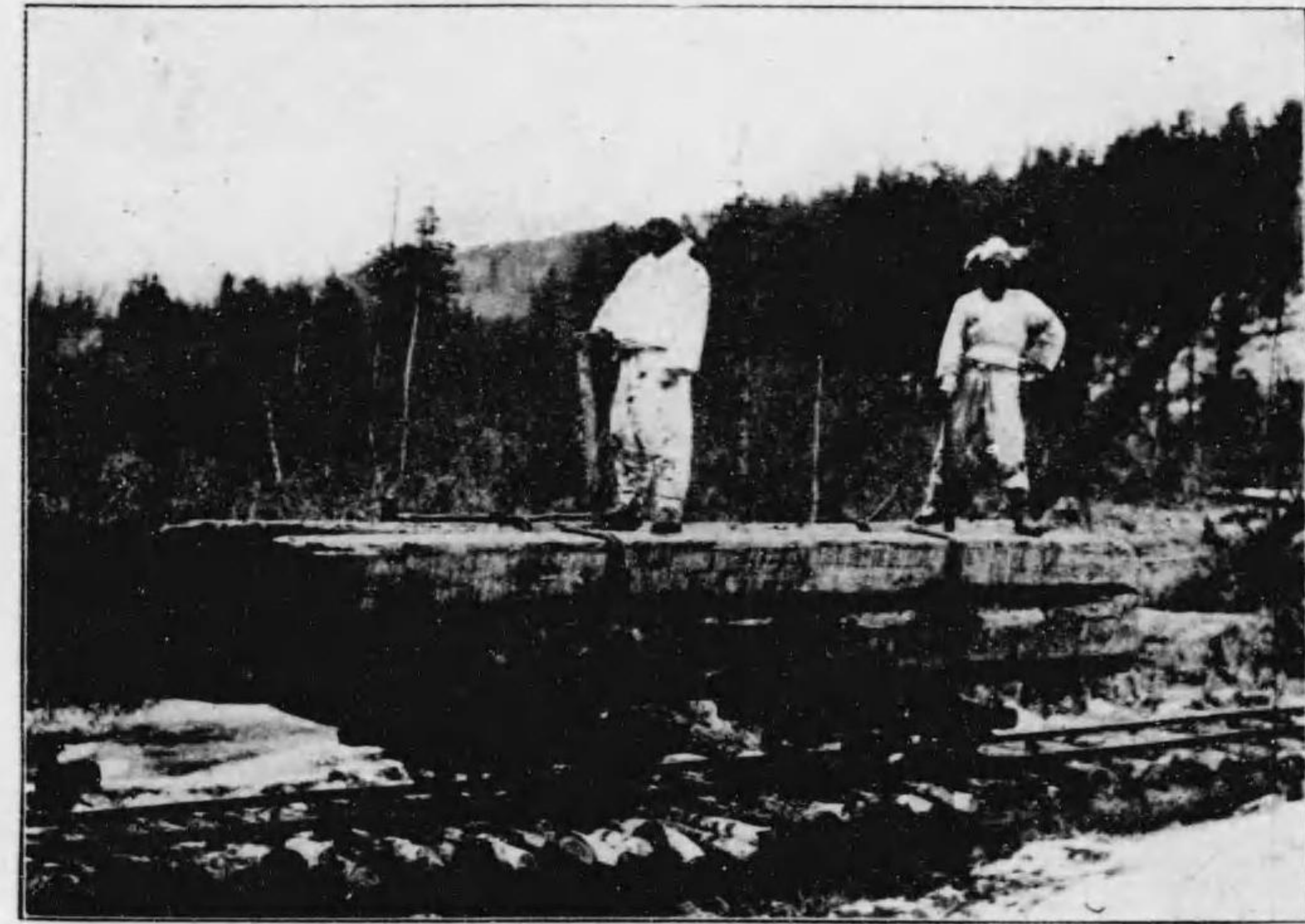
林浴混樺白、松赤(尺百五千三拔海)山異智



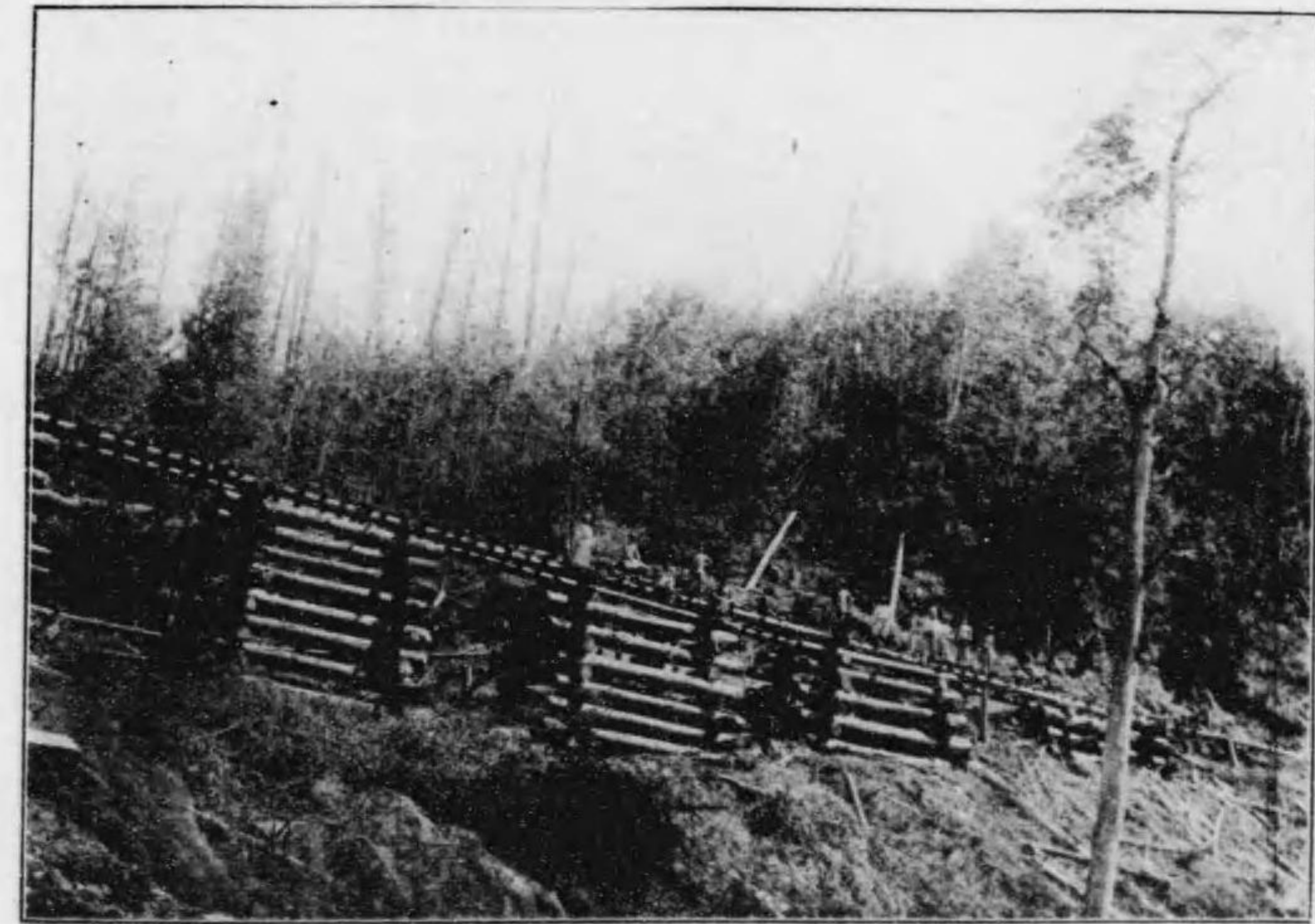
林、デシ¹ルス存ニ園周ノ祠神山峠名無ル到ニ山異智ヲヨ陽成



林浴混松兼朝、楡唐、松葉落河南通



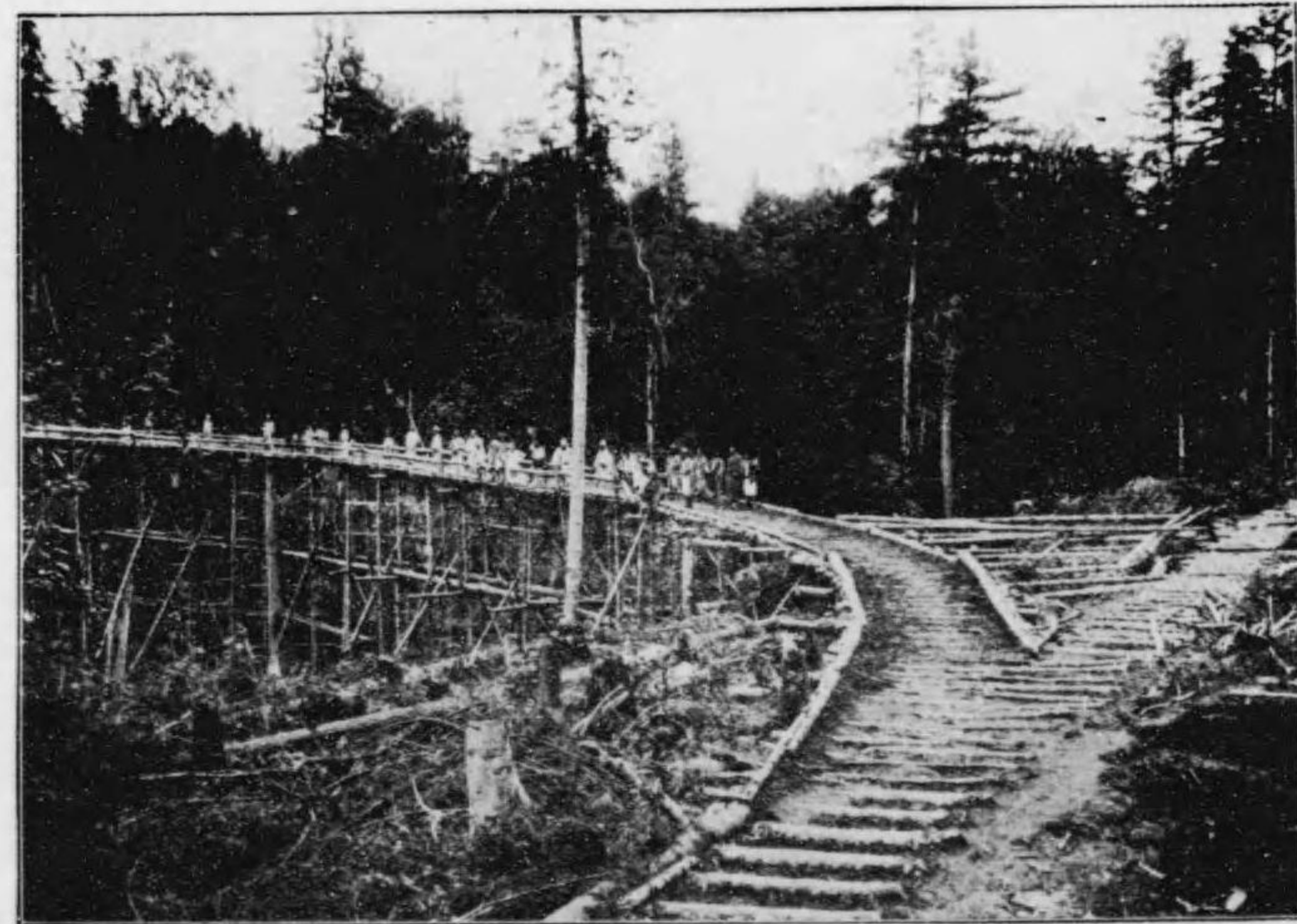
材運道軌ノ河南通



材運道軌ノ河南通



道羅修ノ洞花明



道馬木ノ洞花明



(生年十八、七松葉落)地探伐太丸洞南通



惠山鎮全景



通南河木馬牛曳運材



通南河牛轆運材



後流ノ近附洞南通



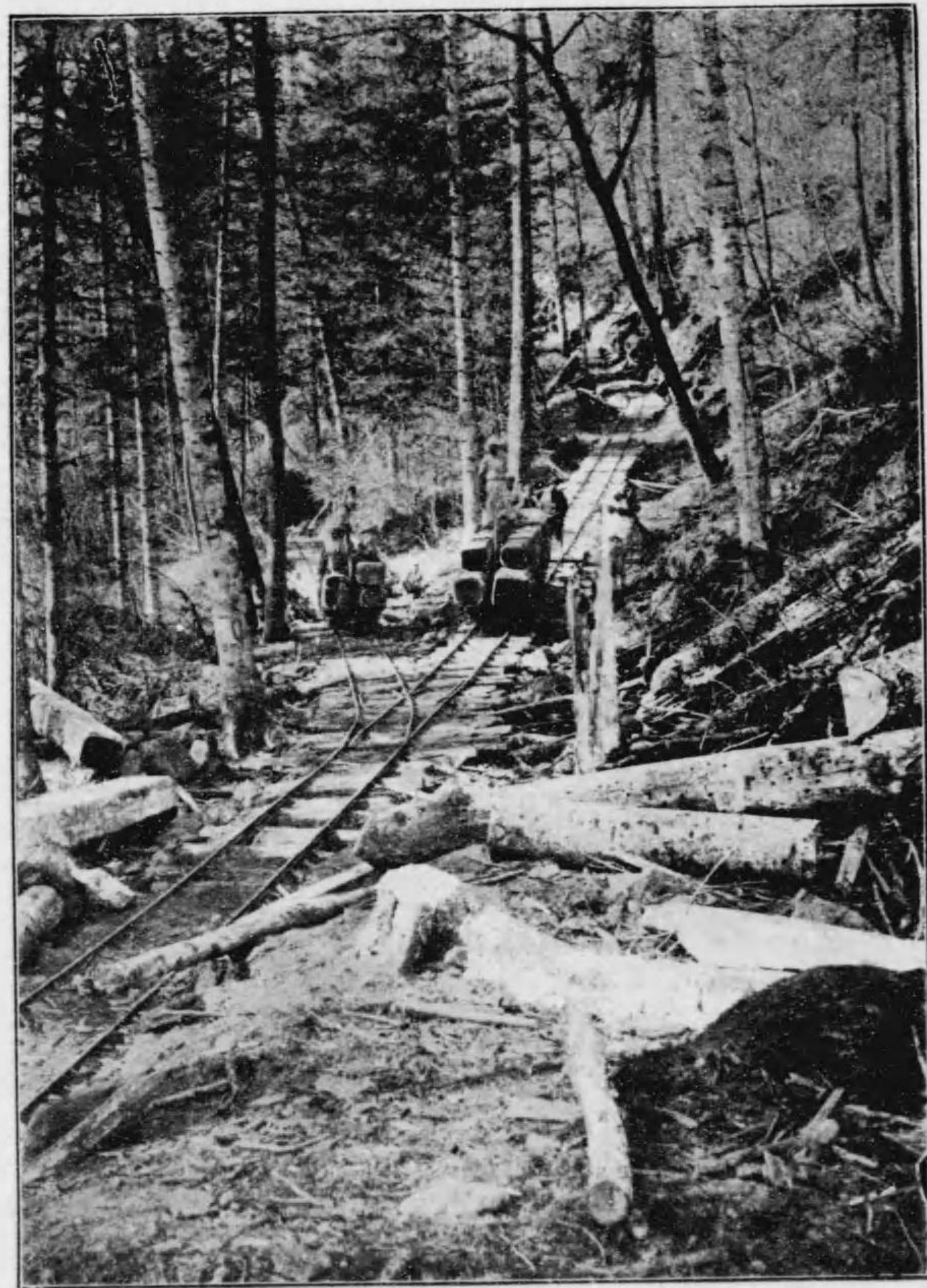
後流ノ流本江綠鴨



後流ノ堡暖羅



府白長國清ルセ見望リヨ側鮮朝



材運道軌 / 洞南通



堰袋流 / 近附洞薪東



袋流 / 近附洞南通



長箭店ヨリ金剛山脈ノ一部ヲ望ム



△望ヲ峰一ホロビ¹山剛金リヨ所高最ル到ニ街可麻リヨ寺帖楡



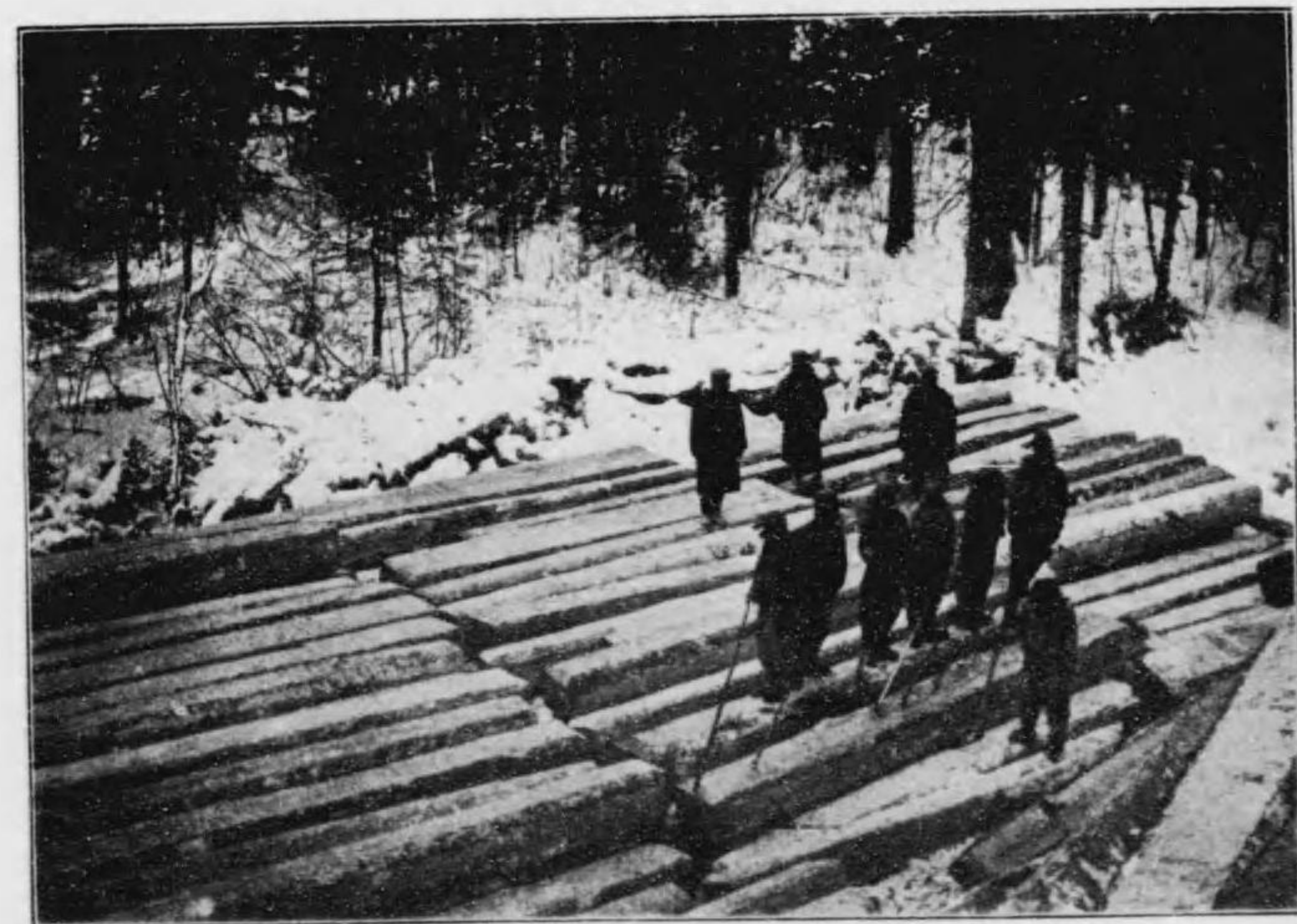
（ノ尺千ニ萬三材角連ニ）場土洞南通



場材集機牛溝開新



(生年百二至乃年百)材造木伐松鮮朝



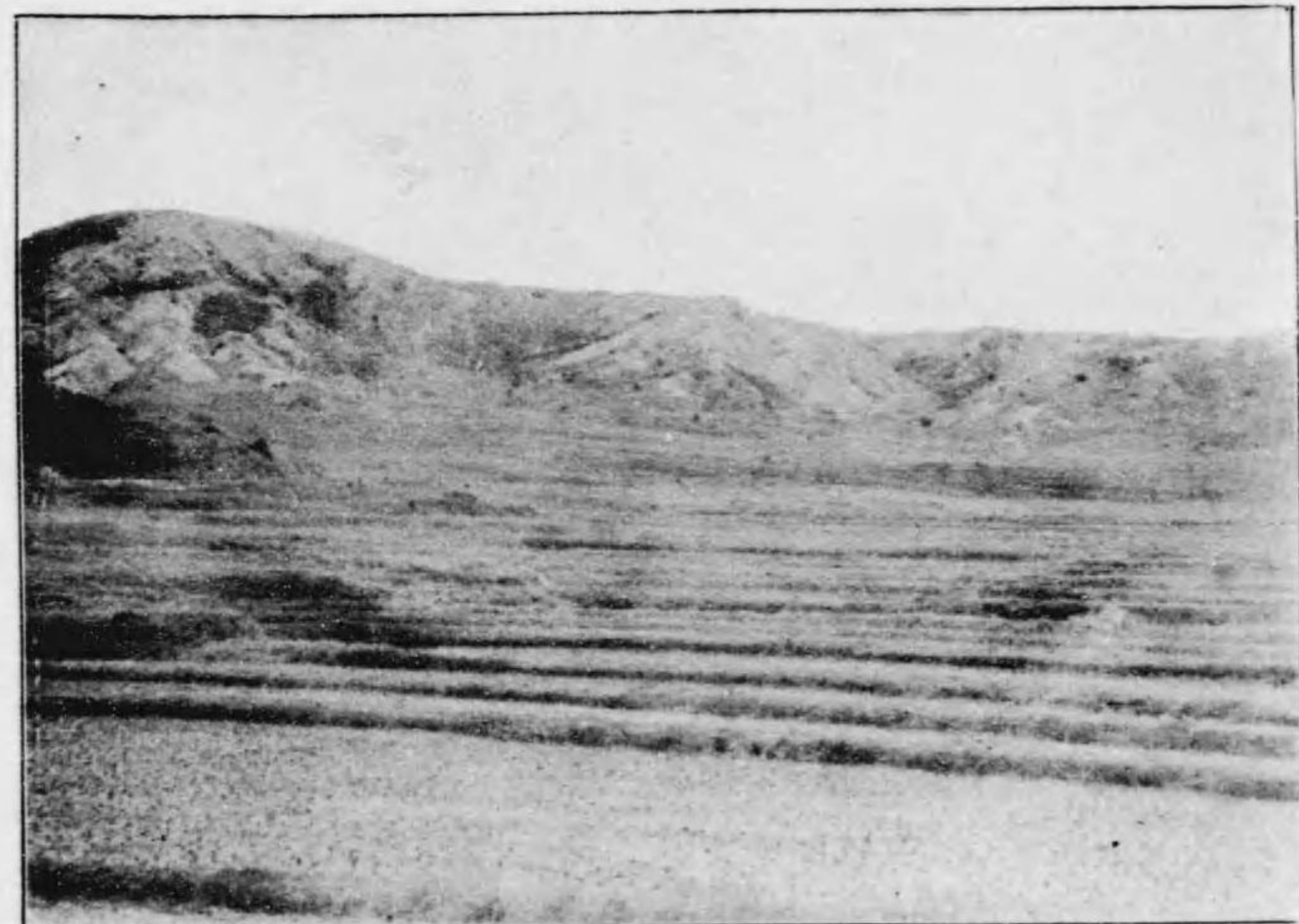
(材角間二松)場材集洞南通



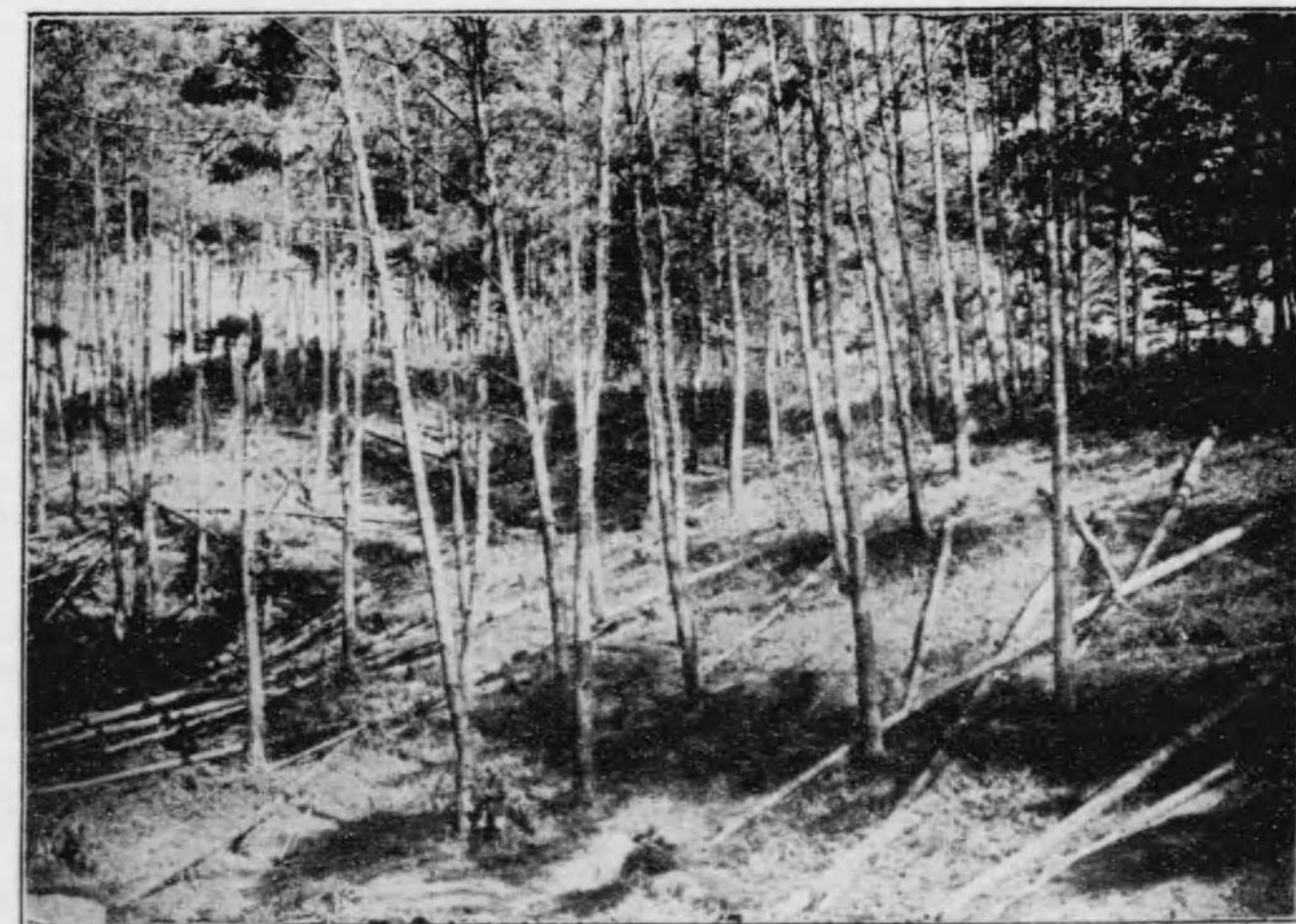
(材角間二松)場材集洞南通



場土洞南通



全羅北道附近山秃(片麻岩)



全羅北道山邊赤松林



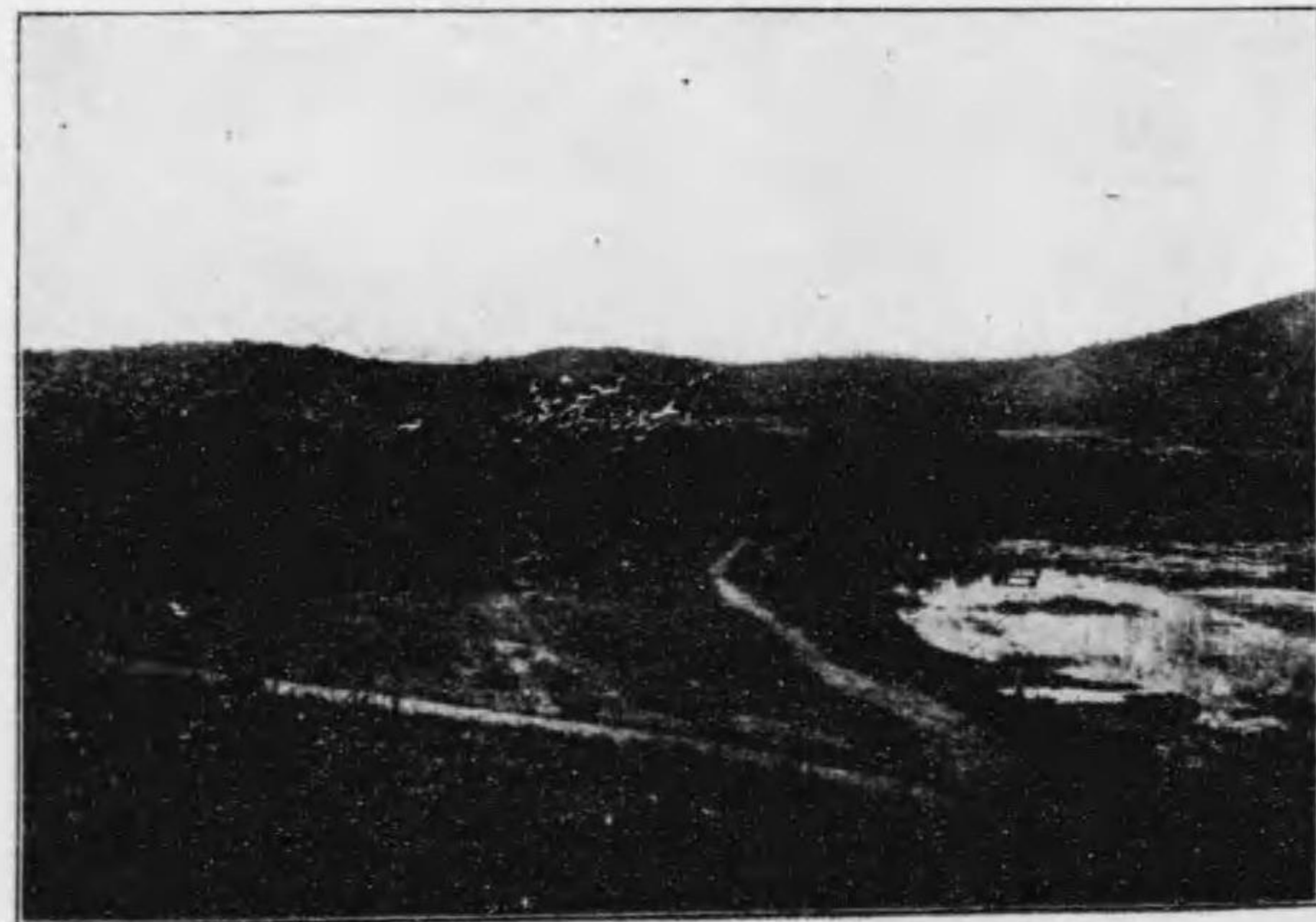
邊山ノ赤松林



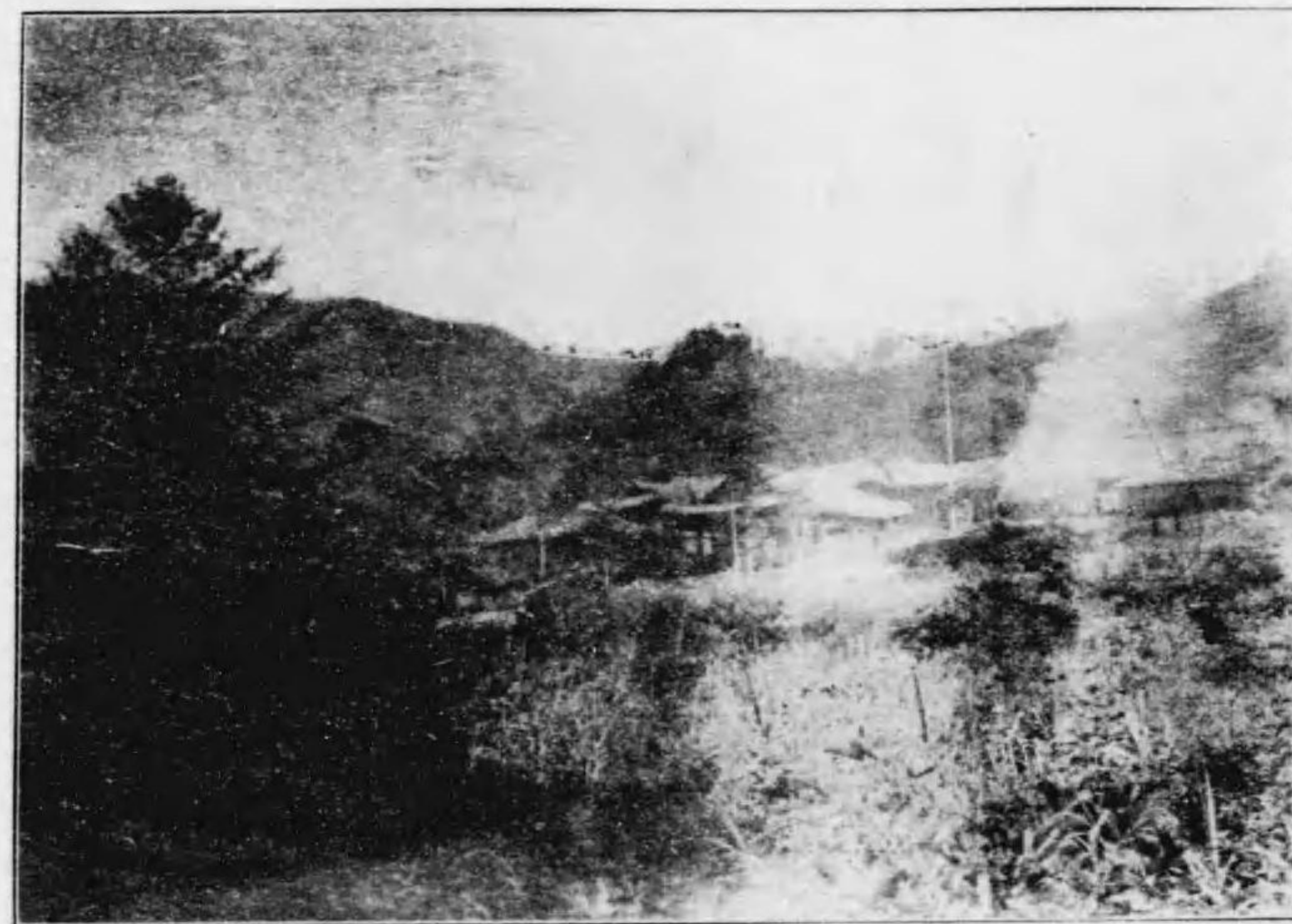
邊山ノ針澗混濔林



東洋拓殖會社々宅敷地内ノ白松



地林造楊赤及桐内場範模業勸府督總鮮朝



(松鮮朝ハ木若ノ方左)景全寺崎楡山剛金道原江



ム望ヲ部一ノ脈山剛金リヨ店箭長道原江



智異山中ノ火田跡地



田火及相林ノ近附洞信義山異智



京城昌德宮内赤松天然林



昌德宮内なら、かしはノ大木



金剛山(千四百十米突ノ地ニ於ケル)ノホノミ原生林



林海密樹稚葉潤ノ方地郡溪新道海黃



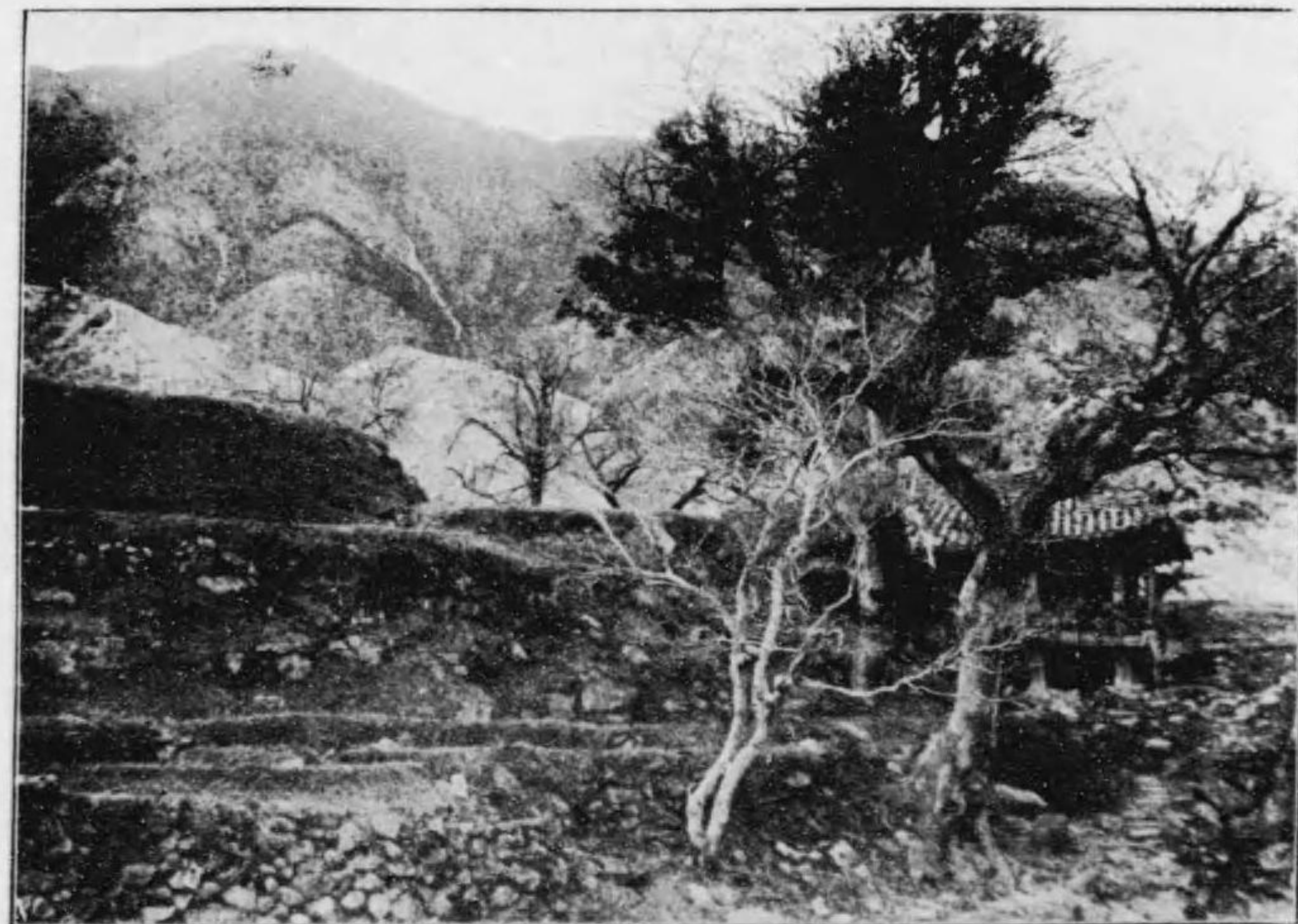
智異山寒温兩帶境ノ「エゾ」松



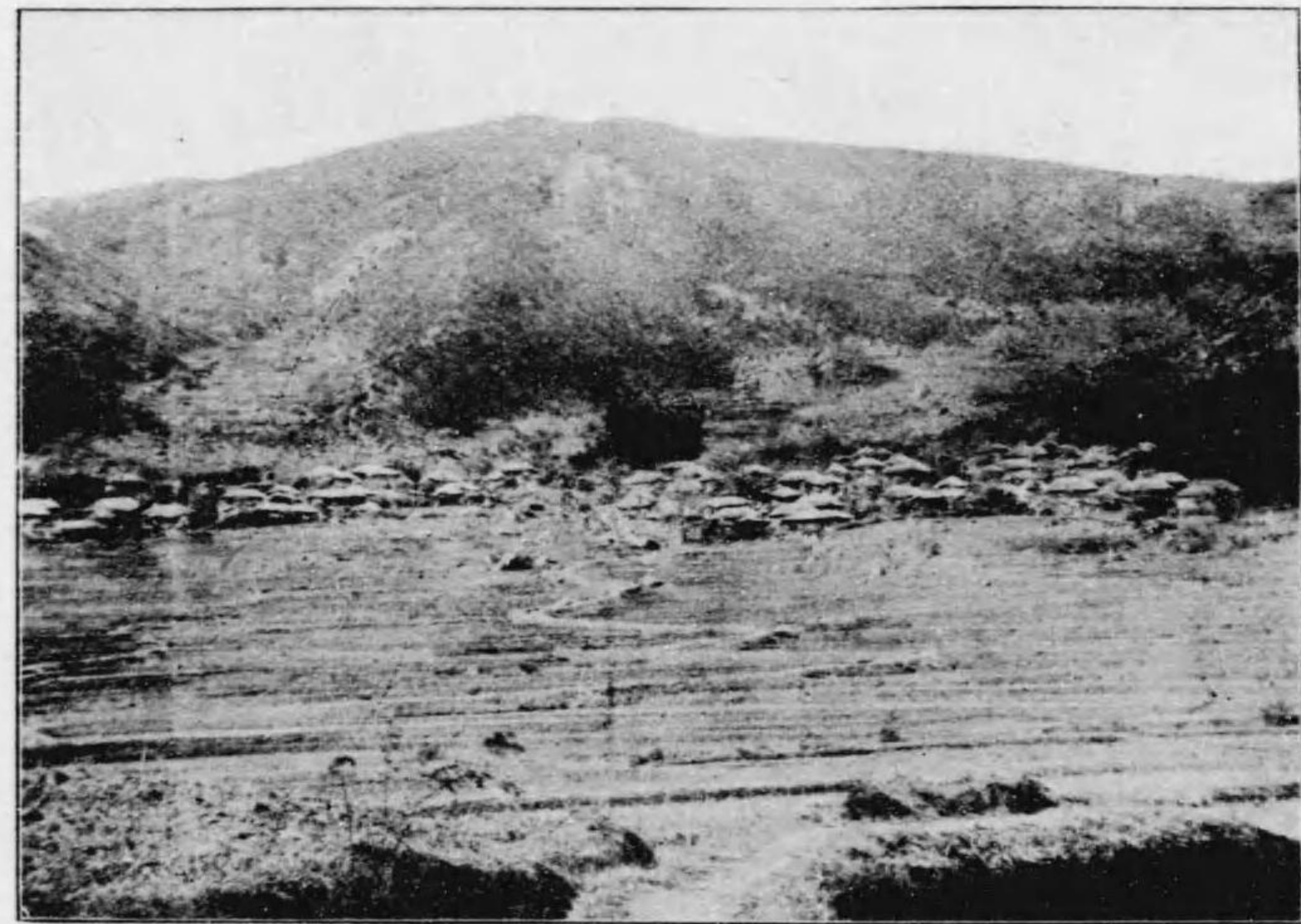
智異山寒温兩帶境ノ「エゾ」松



(林松赤) 藪ノ洞山龍郡昌居道南尙慶



林松赤ノ近附昌居道南尙慶



林樹稚松赤ノ近附義安道南尙慶



笹熊ルス存生ニ尺千三拔海)山異智道南尙慶



載積馬木場木伐河南通



堰筏流ノ近附洞薪東



堰筏流ノ近附洞薪東



金剛山鶴壽臺ノ森林



金剛山中ノ赤松林



全羅南道長城郡白石岩ノデシ林



長城郡附近ノ墓地林



材運道軌ノ洞南通



林森ノ近附崎山剛金



金剛山麻可街附近ノ森林



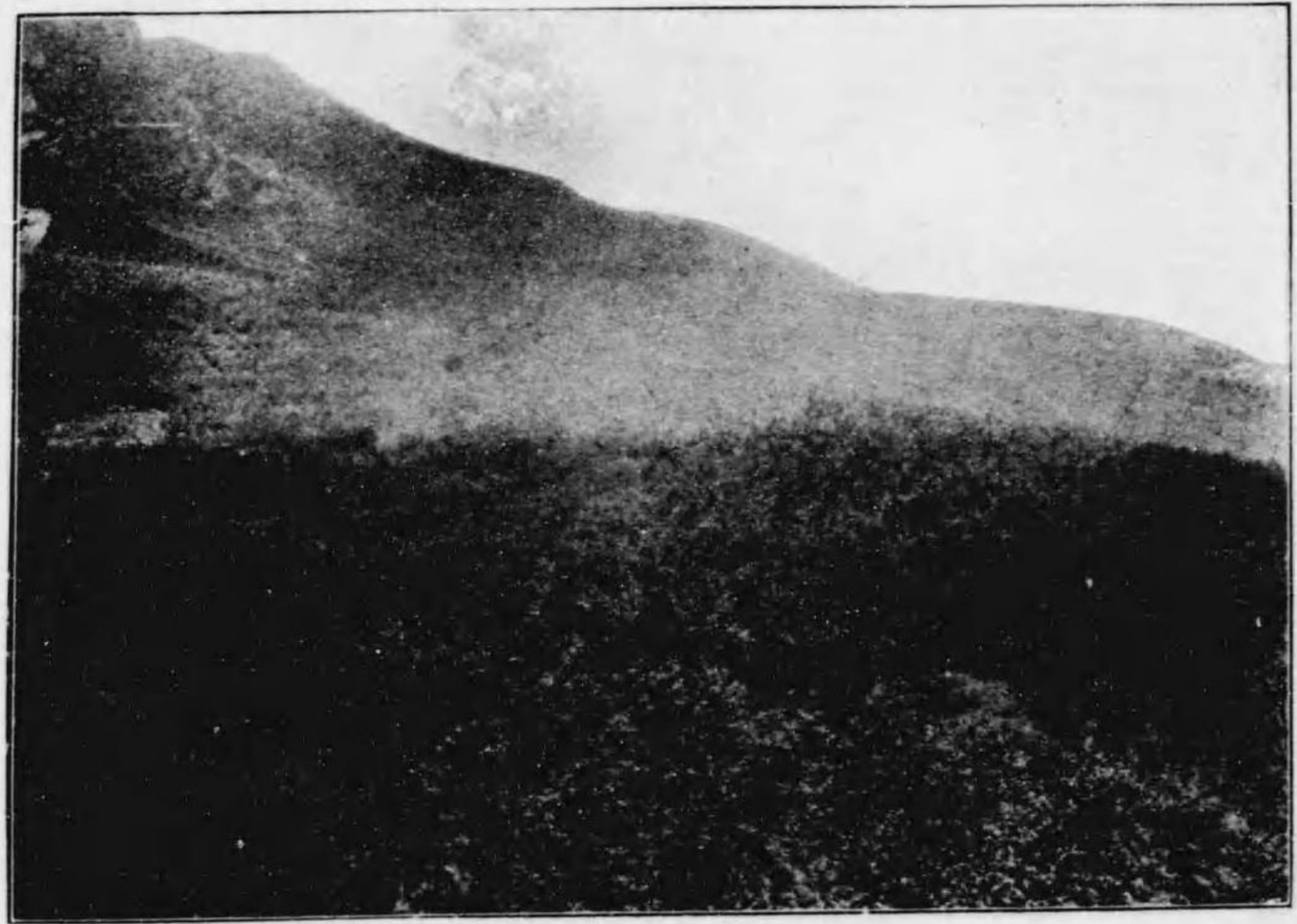
上圖ハ慶尙北道星州附近ノ栗林
 下圖ハ全羅南道莞島ノ森林(中腹以上ハ落葉樹ニシテ以下ハ檜類ナリ)



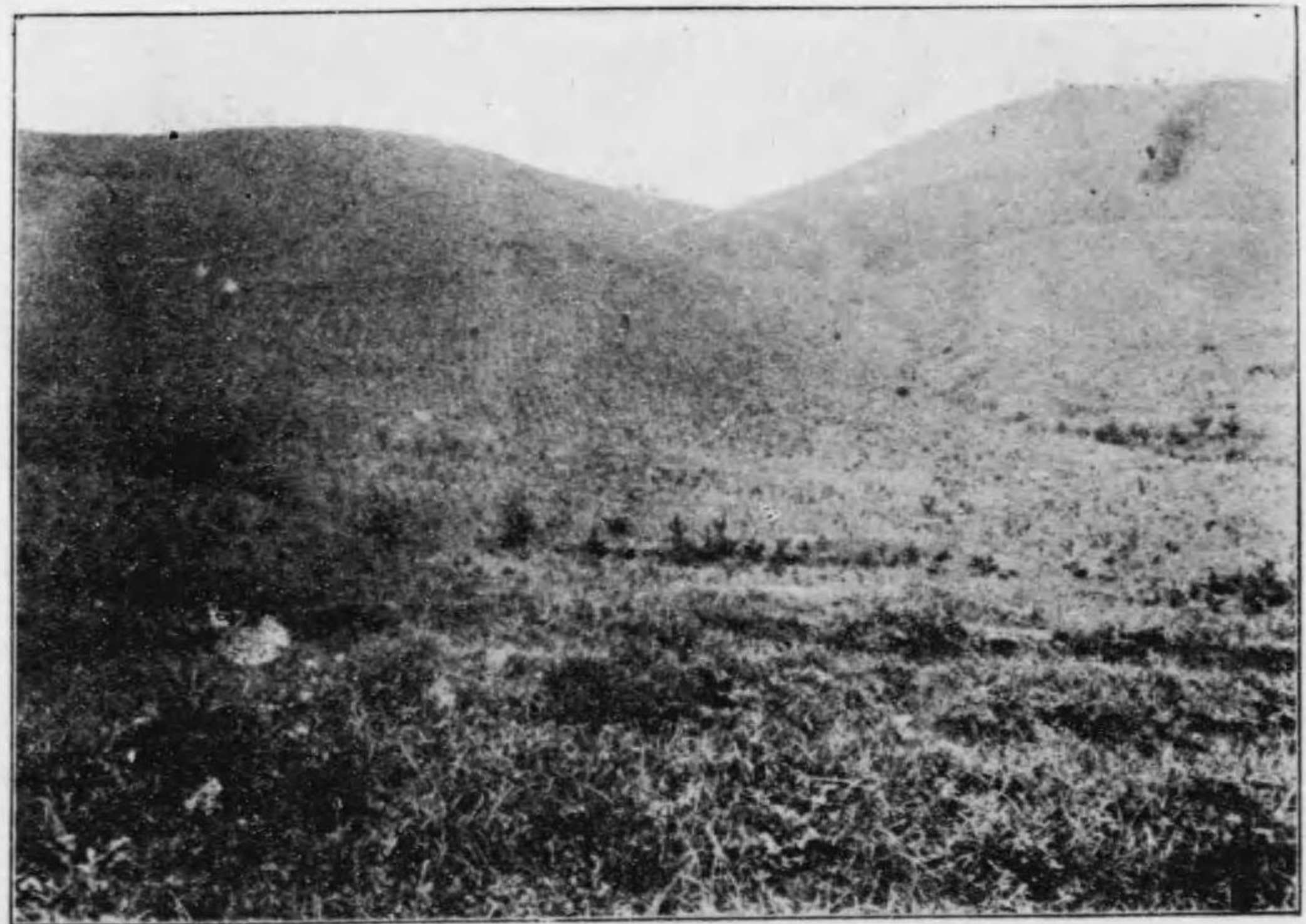
流上ノ江同大)田火ノ方地郡山谷道海黃



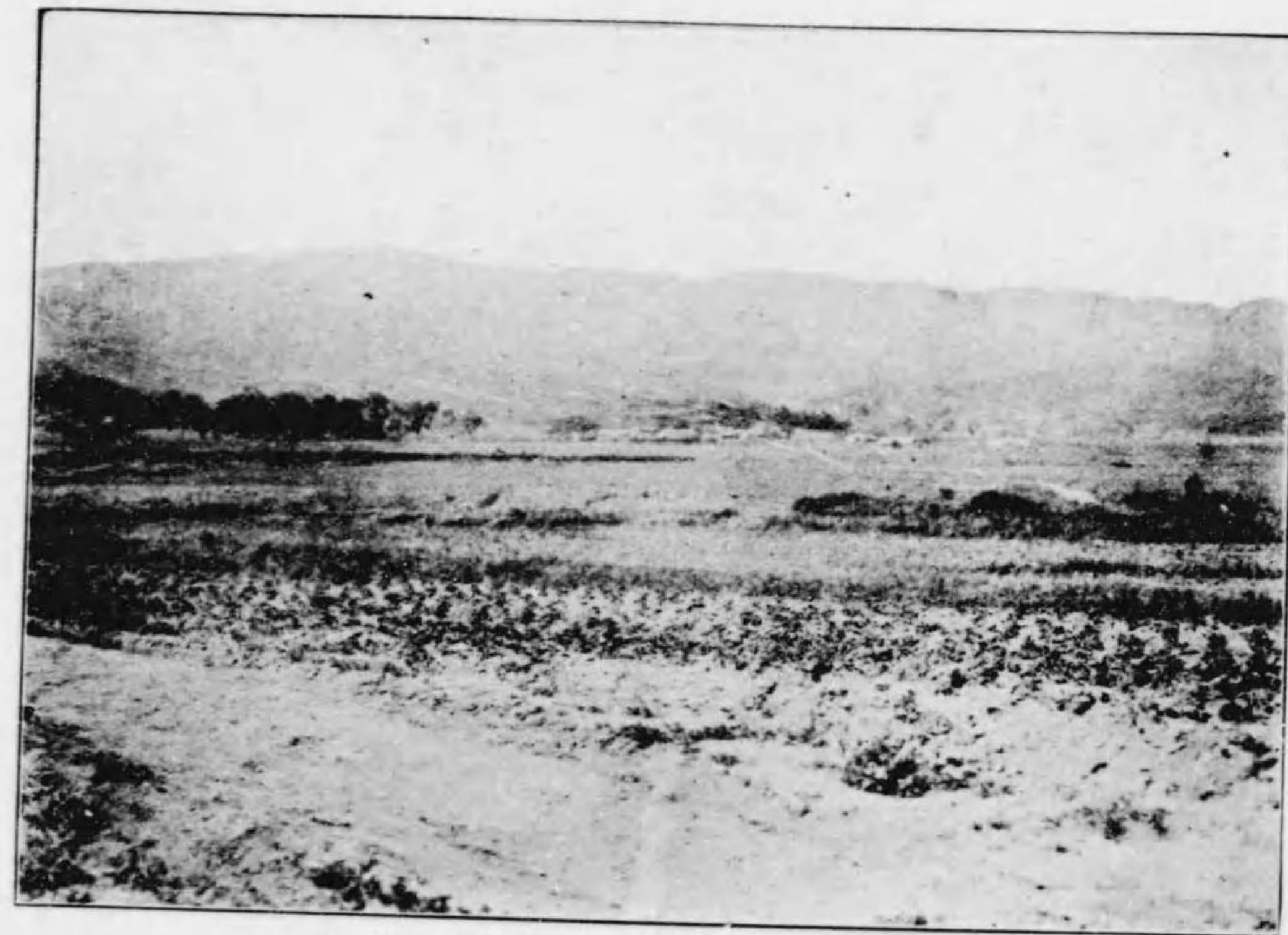
林風防ノ柳洞墨郡和中道南安平



地林造源水道水國民留居山釜



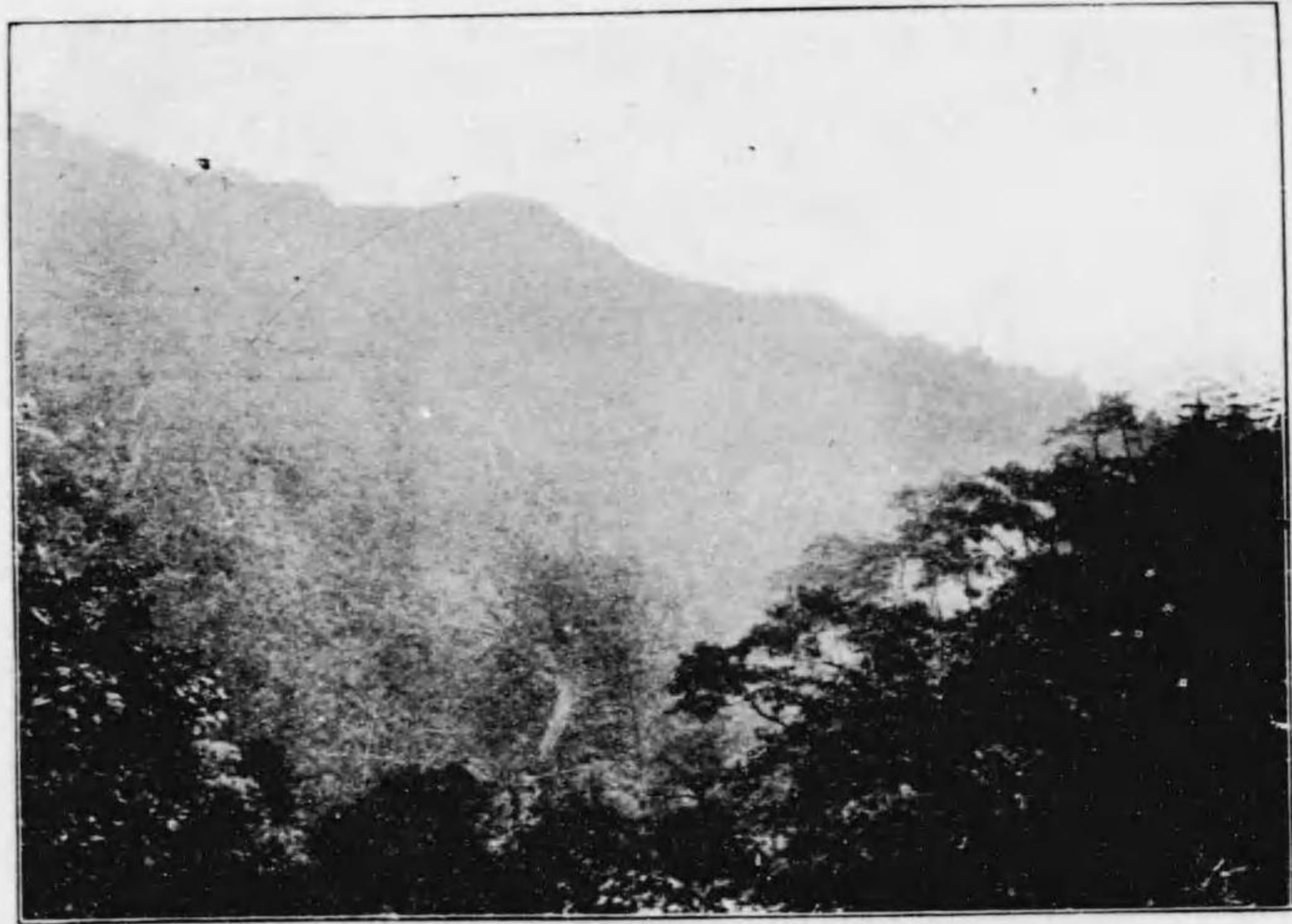
地林造源水道水國民留居山釜



△望ヲ山馬白 田場車停馬白道北安平



地 壘 開 ノ 山 馬 白



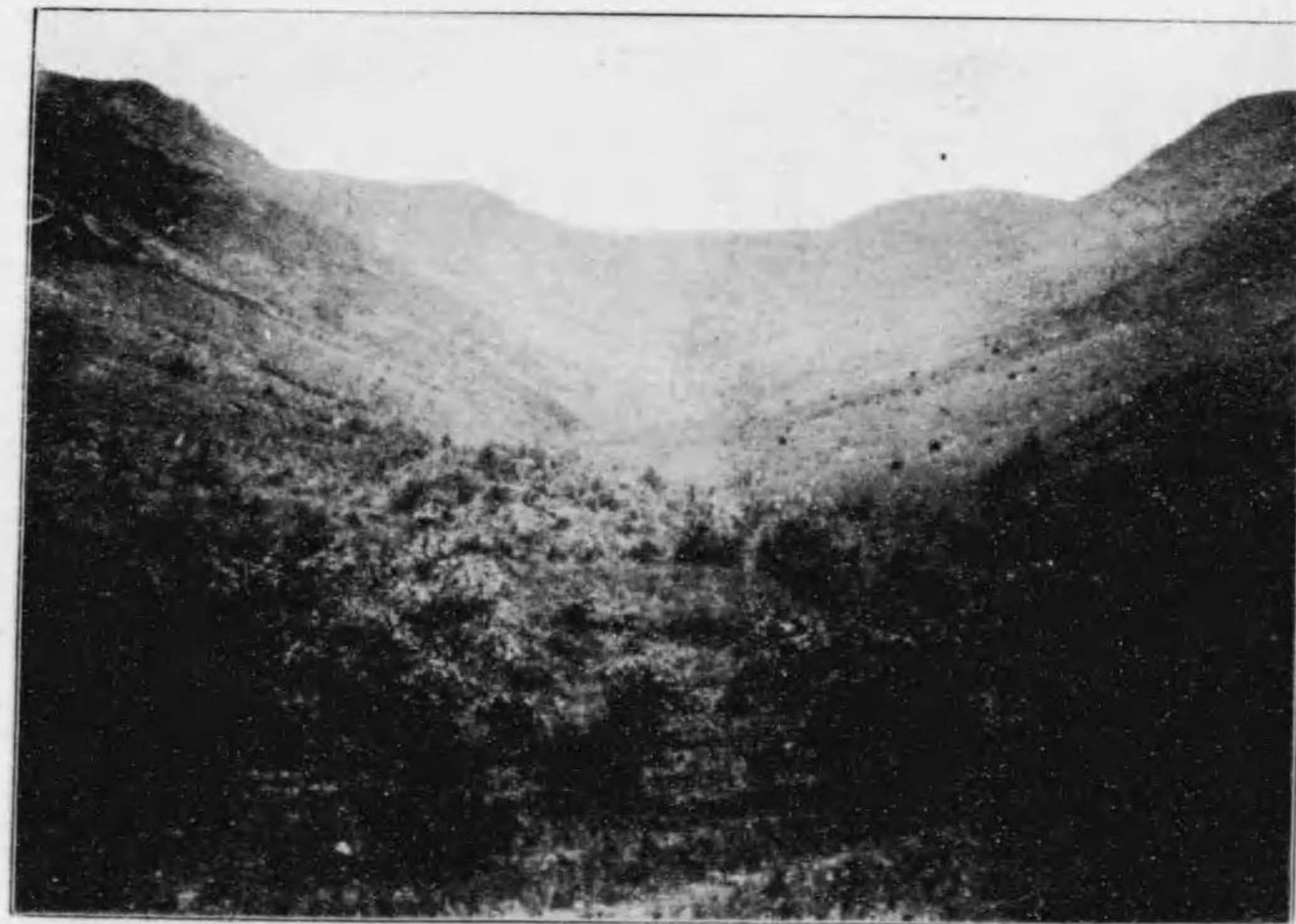
林松赤ノ腹中山剛金



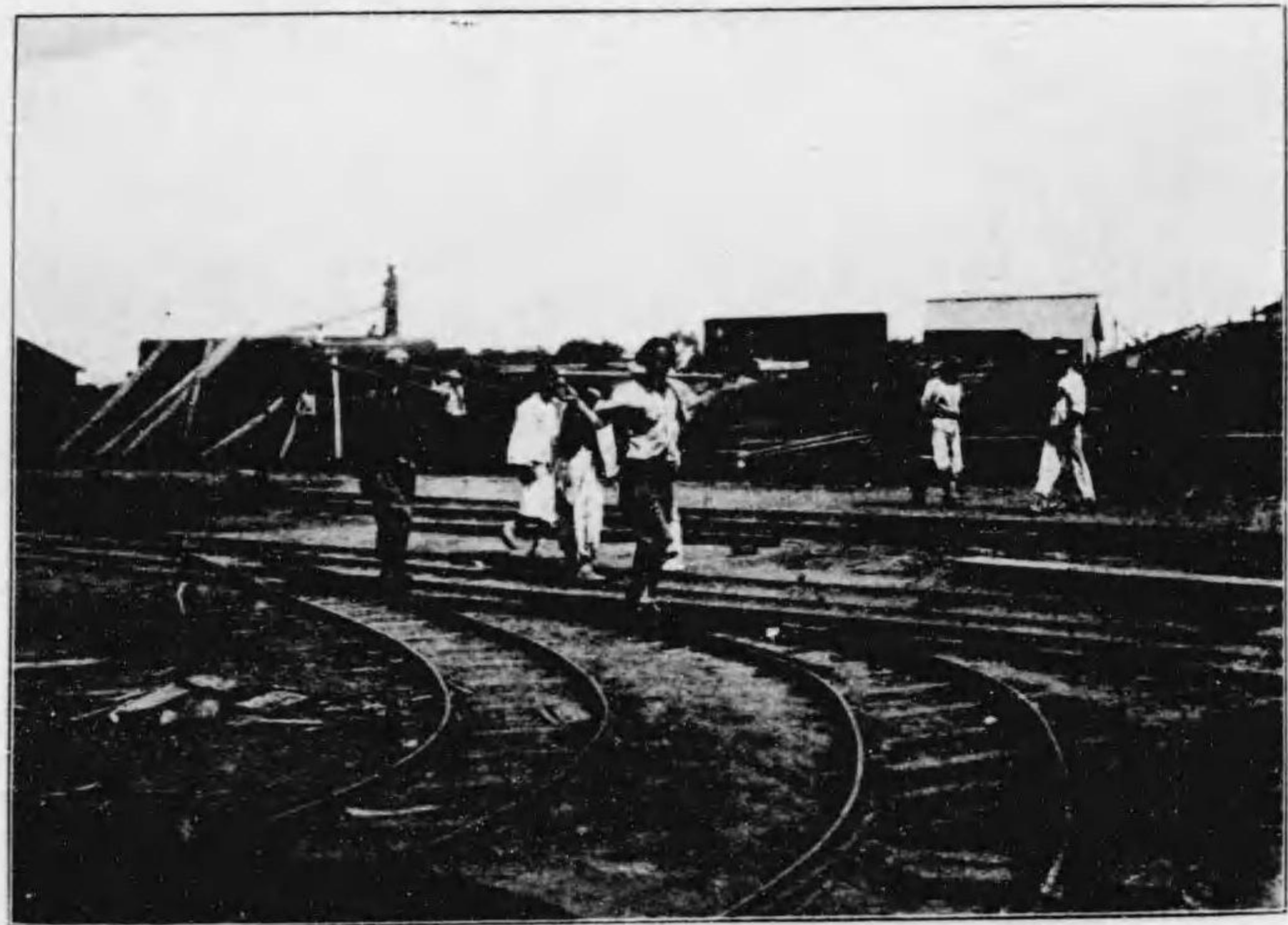
(バンナム、フナヅミ、フマンセウチ、ギ、ライ、バラシ、ツマナエ) 林帯塞ノ山剛金



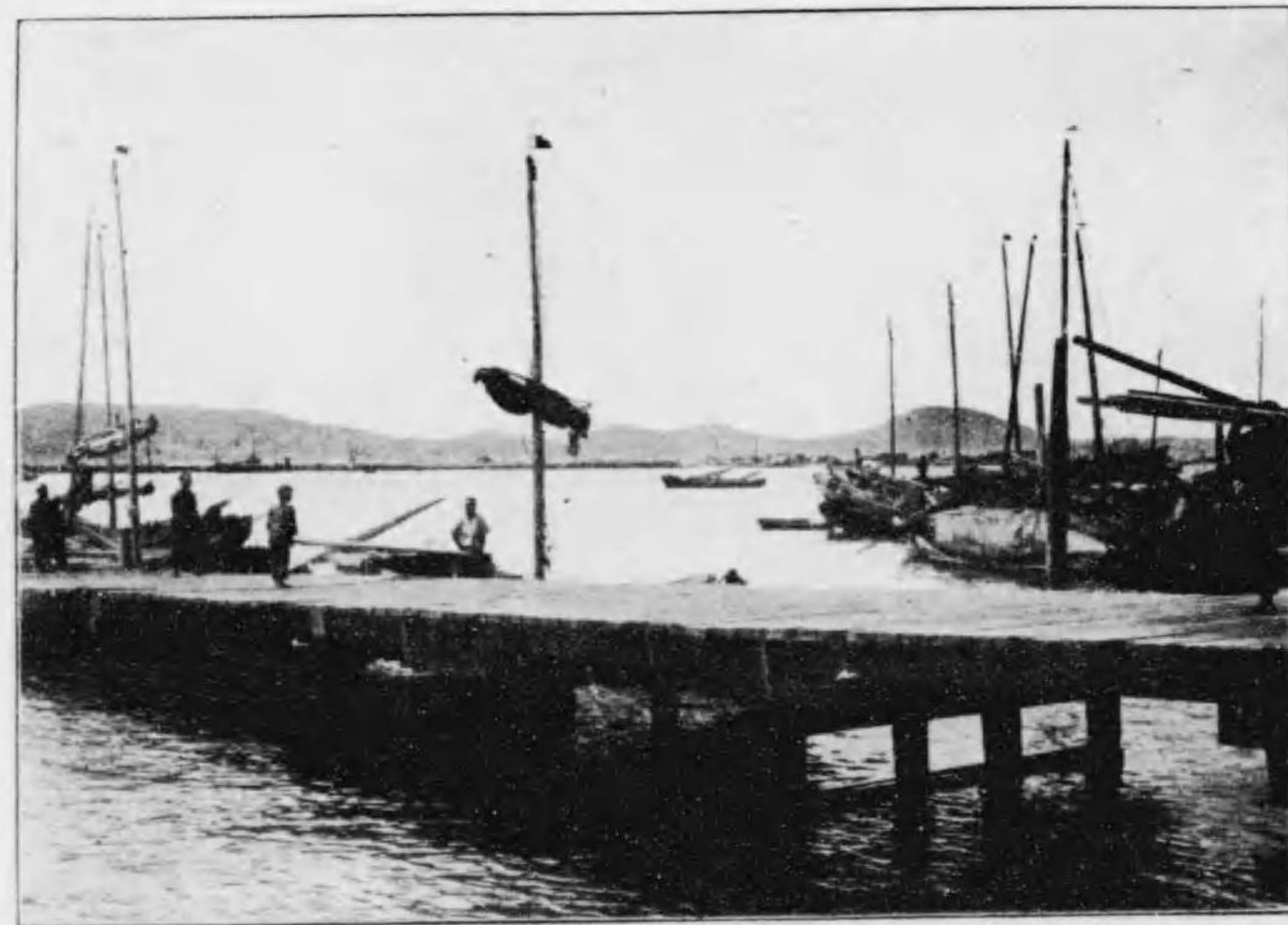
林栢内場範模業勸府督總鮮朝



地林造源水、道水團民留居山釜



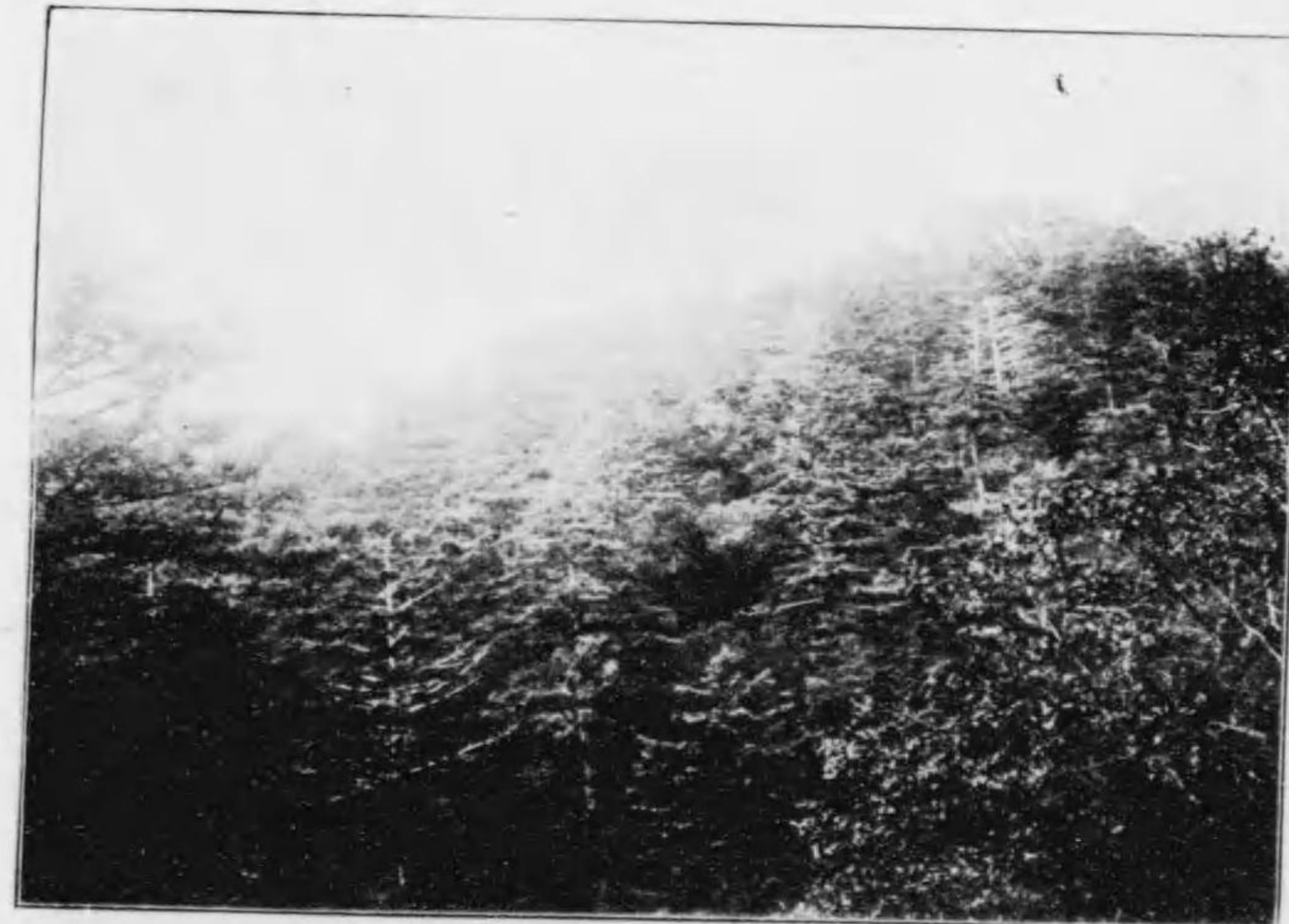
所材製廠林營



橋棧屬附所材製廠林營



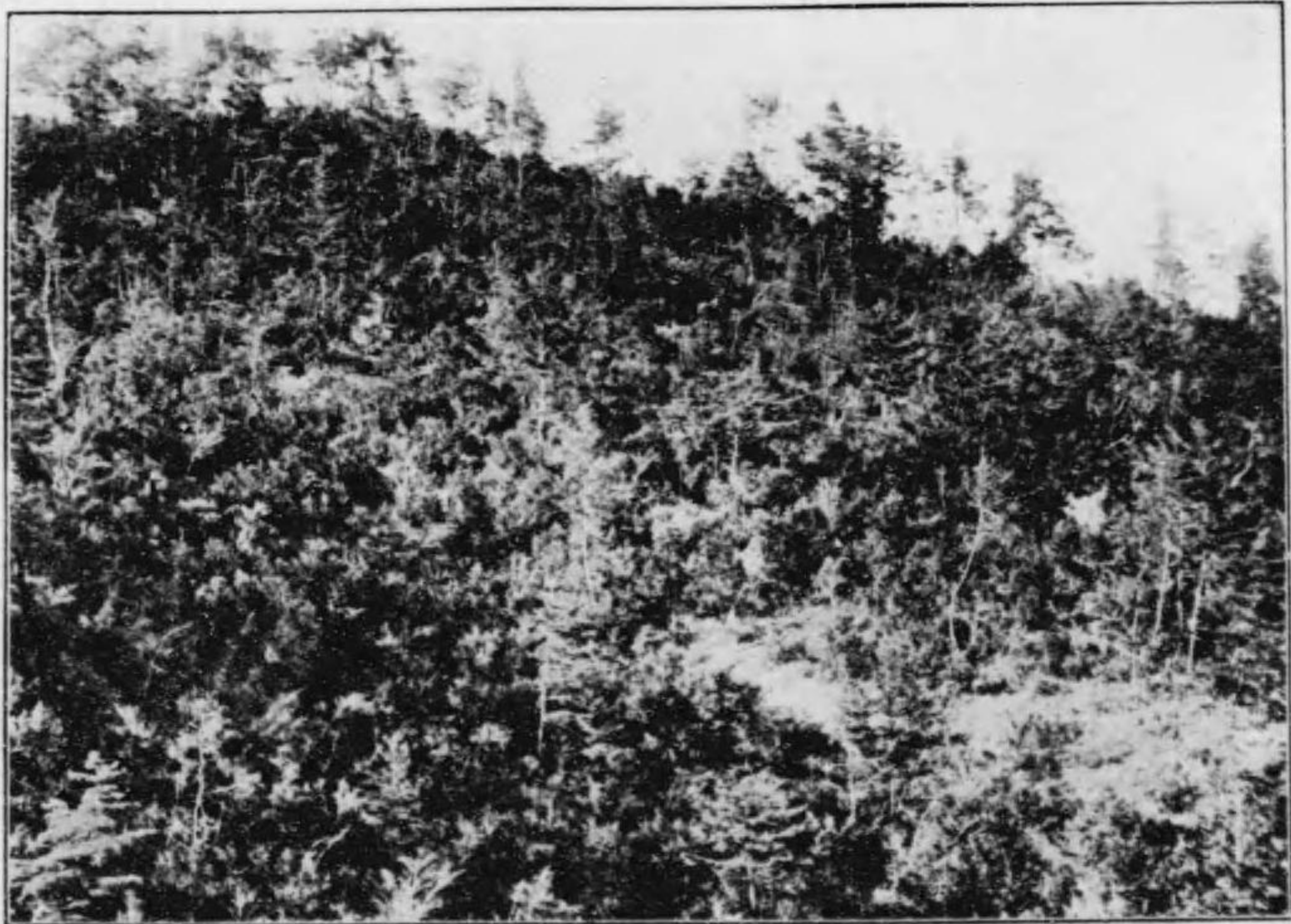
林帶寒ノ峰ーホロビ⁷山剛金



林帶寒ノ山剛金



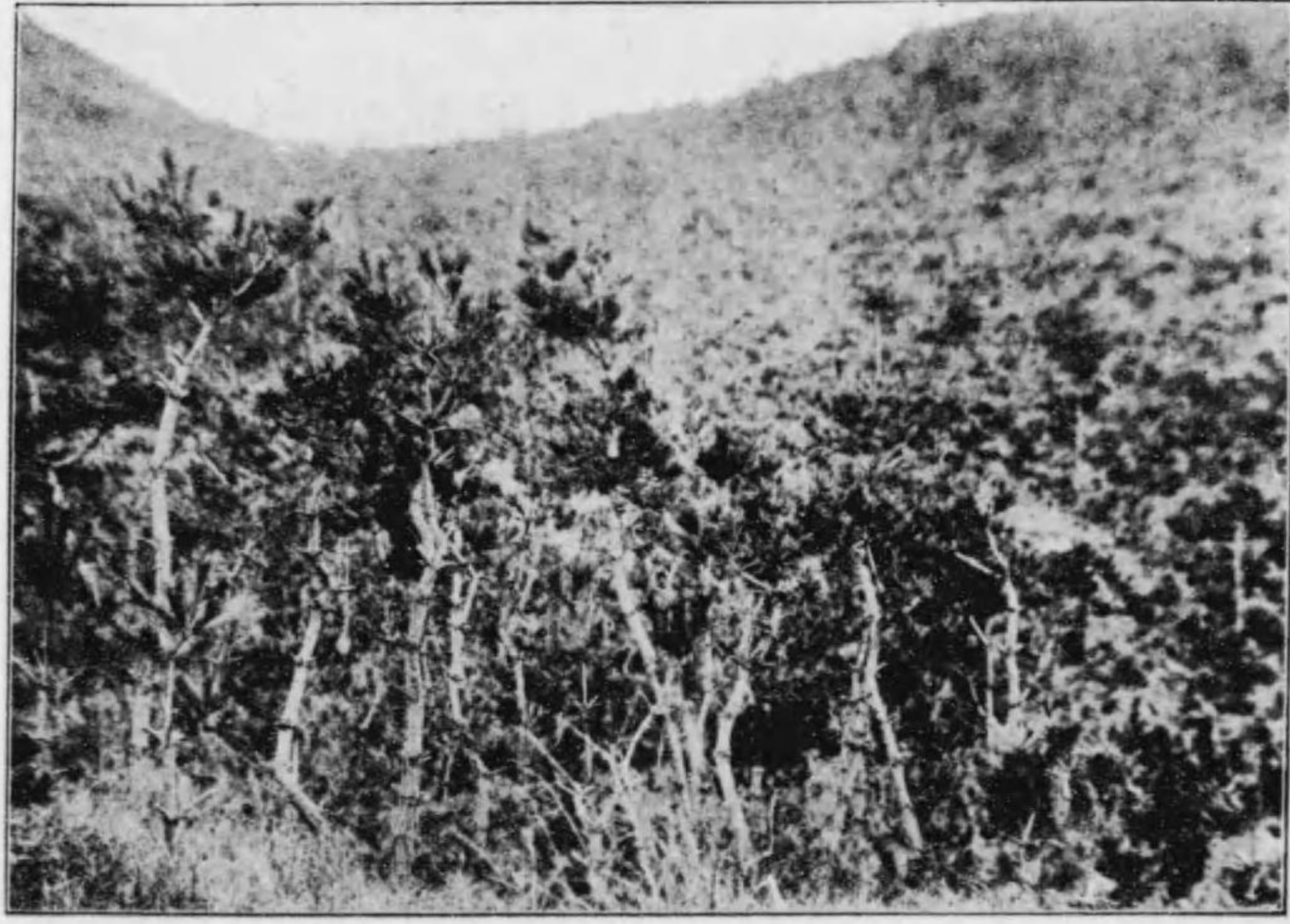
(林帶暖 / 里菁邑) 林森 / 島莞



(林滄混 / 樅、松赤) 林森 / 島莞



林松赤 / 近附州全



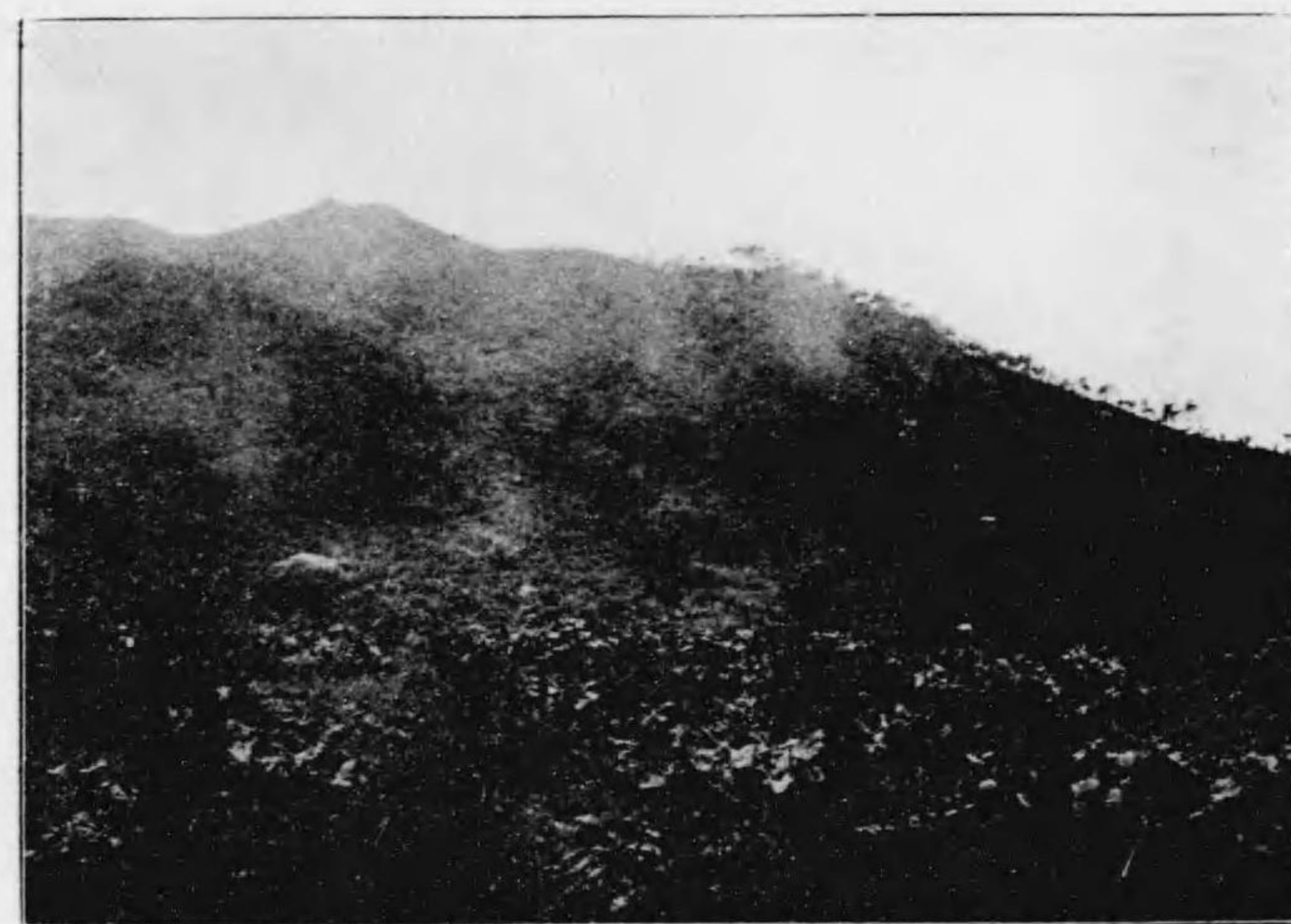
林松赤 / 近附州全



林老松赤山裏ノ衙郡川通



林沿混縦松ノ後前門山寺安長山剛金



林松赤ノ麓山骨龍道北安平



木大ノ松黒港山釜

復命書

小官

竊ニ熊本大林區署勤務中朝鮮出張ノ命ヲ拜シ明治四十四年六月十六日熊本市出發同九月十五日歸著即チ三箇月ノ期間同地林務ニ關スル狀況ヲ視察シ別記ノ通り茲ニ復命書奉呈仕候也

大正元年八月 日

林務官 平熊友明

農商務大臣男爵牧野伸顯殿



朝鮮森林視察復命書

目次

第一章 森林制度	一
第一款 總論	一
第二款 林政ノ沿革	二
第一節 新羅時代及其以外	二
第二節 高麗朝時代	二
第三節 李朝時代	二
第四節 林政ノ弛廢	七
第三款 森林ノ所有者及森林經營者ノ種類	八
第一節 所有者	八
第二節 經營者	十二
第四款 林役權	十四
第五款 森林ノ租稅	十五
第六款 森林盜伐、火災ノ狀況及之ヲ取締	十六
第七款 造林獎勵ニ關スル行政	十八
第八款 森林思想並森林ト地方人民トノ關係	二十五

第九款 森林ニ關スル管理監督	二十七
第二章 森林狀態	三十
第一款 地勢氣候	三十
第二款 森林ノ分布及狀況	三十五
第三款 林木ノ生長量	三十九
第四款 未利用林ノ蓄積及面積	四十四
第五款 適應樹種	四十四
第六款 森林ノ價格	四十六
第三章 造林	四十七
第一款 特殊ナル造林法	四十七
第二款 造林地ノ成績	五十
第三款 朝鮮ニ適應スヘキ人工造林樹種	五十五
第四款 造林事業上ノ餘論	五十八
第四章 森林ノ利用	五十九
第一款 施業ノ方法	五十九
第二款 實行ニ關スル事項	七十
第一節 概論	七十
第二節 伐木造林ノ方法	七十四
第三節 集材運材ノ方法及經費	七十八

第四節 木材ノ市場價格ト生産費トノ收支關係	八十四
第三款 木材ノ供給力及販路	九十一
第四款 林業労働者ノ狀態	九十四
第五章 山地住民ノ生活ノ狀態及木材以外ノ林產物	九十七
第六章 林業ノ經濟	百
第一款 農牧業ト林業ノ關係及其收益部合	百
第二款 主要ナル森林地方及木材市場ニ於ケル金利物價及勞銀	百六
第七章 林業教育	百三十二
第八章 主要市場ニ於ケル木材商業	百三十七
第一款 總說	百三十七
第二款 主ナル材種及木取法	百四十四
第三款 相場及其立方	百四十九
第四款 木材消費地ニ於ケル需用上ノ嗜好	百四十九
第五款 主ナル木材業者	百五十
第六款 取引ノ慣習方法及狀況	百五十二
第七款 運賃及諸掛	百五十五
第八款 製材所及貯木場倉庫ニ關スル事項	百六十一
第九款 將來ニ於ケル日本材輸入ニ關スル意見	百六十一
第九章 營林廠ノ木材供給及需要ノ關係	百八十五

第一款 營林廠事業ノ概況	百八十五
第二款 木材供給及需用ノ關係	百九十三
第十章 結 論	二百八
第一款 林政上ノ急務	二百八
第二款 林政ノ現状カ林業ニ及ボス影響	二百十二
第三款 朝鮮林産物商業ノ趨勢ト内地林業及木材商業トノ關係	二百十四

朝鮮森林視察復命書

第一章 森林制度

第一款 總 論

東西俗ヲ異ニシ古今風ヲ替ユト雖トモ誰カ大自然ノ雄偉ニ對シテ畏敬ノ念ノ湧カサルモノアラシキ往昔自然崇拜ノ信仰ハ此ニ起リ森林ハ即チ神靈ノ實在セル所トナシテ之ヲ冒スモノナク萬年斧鉞ノ禍ニ罹ルコトナシ即チ禁伐林ノ制度ハ當時遺憾ナク實行セラレシナリ然ルニ人口ノ増殖ニ伴ヒテ生存競争ノ勢ヲ増シ思想漸ク複雜トナリテ社會組織ノ形成ヲ見ルニ至リ財產ニ關スル觀念自ラ發達シ神ノ所在タリシ森林ハ人類ノ左右スヘキ財產ト變シ力ノ及フ所ニ從テ之ヲ伐リ盡サスンハ天與ノ利分ヲ空フスルモノナリトノ欲念ハ遂ニ山林ノ荒廢ヲ來シ諸種ノ害毒之ニ應ジテ臻ルニ及ヒテ漸ク其非行ヲ反省シ法制ヲ定メ之ヲ強制シテ所謂百年ノ長計ヲ樹テントスルニ至ルハ孰レノ國モ常ニ繰返セル歴史ナリ朝鮮モ亦其數ニ漏レスシテ積年ノ濫燒暴伐ハ今日著シク其山容ヲ革メ今ヤ森林ノ經營上爲政者ヲシテ策ヲ施スニ多大ノ奮發力ヲ努メシメ林政創設ノ概ヲ以テ營林ノ目的ヲ達成セントセシメツ、アリ即チ之ヲ奈落ノ邊際ヨリ救ハントスルナリ朝鮮山林ノ現狀實ニ斯ノ如ク憫ムヘキモノナリト雖モ之ヲ往時ニ遡レハ森林ノ美善到ル處ニ横ハリ其之ニ對スル庶政ノ迹ヲ觀レハ其實行ノ如何ハ保障スル限ニアラスト雖モ制度トシテ讚辭ノ値スルモノナキニアラス朝鮮山林現狀ノ下ニ立チテ之ヲ思ヘハ當時爲政家ノ苦心達誠ヲ思ハサル能ハス民ヲ率キ國ヲ榮エシムルニ方テハ事毎ニ一國固有ノ歴史ヲ知ルコト政道ノ要訣タルノミナラス山嶽ナル國ノ榮エ緒キモノ、枯ル、ハ各國統計ノ指ス所ニシテ林政ノ弛張ハ能ク一國命運ノ盛衰ヲ語レルモノナレハ玆ニ其梗概ヲ摘ミテ朝鮮林政ノ沿革ヲ敘スルハ實ニ其施政ノ變遷ヲ知ルノ便アルノミニ止マラサルヘシ

第二款 林政ノ沿革

第一節 新羅時代及其以前

當時ノ林政ニ付テハ殆ント文字ノ徵スヘキモノナキカ故ニ其ノ詳細ニ至テハ之ヲ知ルコトヲ得スト雖支那ノ教化ヲ享ケ周唐ノ文物及制度ノ浸漸ヲ被リ山林川澤田畝ハ悉ク是レ王有タリ王用ヲ完フセンカ爲メニ存在スルモノニ外ナラストナシ唯一定ノ貢賦ヲ納メ一定ノ制限ノ下ニ於テノ民ノ必需ニ充ツルコトヲ許シタルニ過キサリキ周禮ノ山有三等曰大山中山小山官有三等曰大麓中麓小麓各置官十二人爲之守禦仲冬斬木而又萬民斫材有期日邦土掄材無禁制凡竄伐有刑罰ハ當時林政ノ基準タリシモノナリ

第二節 高麗朝時代

當時ニ及ンテハ伐採ノミヲ事トシタル時期ヲ過キ漸ク造林ノ必要ヲモ感スルニ至リ森林養護ノ考慮モ進ミ來リ盜伐ヲ嚴罰セシハ云フ迄モナク六百十餘年前忠烈王二十年ニ於テ總材ノ缺乏ヲ告グルニ至テハ製鐵ヲ中止シテ用材林ヲ保護シタルノミナラス用材ノ伐採ハ個人ニ許サ、ルコト、ナシ唯功臣ニ對シテ田柴科ナル制ヲ布キ其官階ニ應ジテ田及樵柴ノ土地ヲ給與シタルニ止マル加之地方ニハ酋長アリテ部民ヲ自己ノ私民トナシ鄉制ニ依リテ中央政府ノ遣派セル守令ト共ニ州治ノ事ヲ審議シ殖産増福ノ道ヲ講シ山林ノ如キ其保護撫育皆其部落ノ團體ニ任セシムルコト、ナシ營林ノ美制樹立セシモ此等ノ土豪漸ク鳴張ヲ擅ニシテ後世王權陵夷ノ因ヲ作シ王命振ハサルニ至テ山林養護ノ事又昔夢ヲ語ルニ過キサルコト、ナレリ

第三節 李朝時代

李成桂國ヲ建ツルニ及ンテ高麗朝ノ前鑑ニ顧ミ其短ヲ去リ長ヲ採リ開國後百年ニシテ經國大典ヲ頒布シ官職ノ制ヲ設ケテ其權利義務ヲ定メ産業ヲ興シテ國家致富ノ基ヲ拓カントシタルコトハ明ニシテ林政ノ如キ當時都城内外山及外方

山ノ二大別アリシモ共ニ王需ニ供スル以外ハ凡テ用材林木ノ伐採放火ヲ禁シタルノミナラス柴場ノ如キモ高麗朝ノ弊果ニ鑑ミ之ヲ一人ノ私有トスルコトヲ罷メテ單ニ當該官署管理ノ下ニ置クコト、ナシ私ニ柴場ヲ獨占スルモノニハ杖八十ノ刑ヲ科セリ而シテ一般ニ山ニ官吏ヲ配シテ之ヲ管理セシメ以テ護林ノ實行ヲ計リ一面植樹ヲ獎勵シテ森林官吏ノ監察ヲ享ケシメ其ノ官吏ノ監察ヲ怠リタル場合又ハ植栽者ノ過失怠慢ニヨリテ其枯損ヲ生シタルトキハ各之ニ刑罰ヲ科セリ又地方制度トシテ五戸ヲ統トシ五統ヲ里トシ統ニ統主アリ里ニ里正アリ里ヲ括シテ面トナシ面ニ勸農官ヲ置キ邑令之ヲ監督ス此ノ如クニシテ面里ノ盛衰寧否ハ一ニ懸テ其住民ノ勤惰ニ支配セラル、コト、ナレルカ故ニ山林ノ如キモ互ニ相依リ相戒メ濫伐私占ハ互ニ率制禁止シテ之ヲ共同保護シタルハ事實ニシテ其造林ノ如キ王需ノ爲メニ進貢スルコトヲ目的トシテ獎勵セラレ各邑ノ適地ニ適樹ヲ植栽禁養スルコト、ナリ栗棗柏子楡桔桃榲子銀杏桑桐漆箭竹等ハ主ナル進貢物ニシテ又獎勵セラレシ植樹各種ナリシナリ

次ニ英宗ノトキ大典通編ヲ頒布シ山林ニ對スル賞罰ヲ明ニシ禁松ノ制ヲ定メ宮闕ノ松木ヲ偷斫スルモノハ無期ノ流刑トナシ京城十里内ノ松木ヲ犯斫スルモノニシテ其生松ノ根株一箇以上枯松ノ根株二箇以上ニ互ルモノハ共ニ杖一百徒三年生松ノ枝葉枯松ノ桠柯ヲ伐取スル者ハ竝ニ杖一百之ヲ掩置シテ官ニ告ケサルモノハ家長ハ犯人ト同罰犯人ヲ藏匿スル者ハ之ヲ遠配ス

西山標内ノ木根沓根ヲ採取スルモノハ共ニ生松ノ例ニヨリテ斷ス 諸道封山ノ禁松ヲ犯斫スルモノハ重刑ヲ以テ論スルコト、ナレリ又松田ニ放火スルモノハ刑律ヲ科シ唯封山ノ失火中封山外ノ元田(毎年耕種スル田畝)ノ焚灰即チ火耕ノ飛火ヨリ延及シタルモノナルトキハ之ヲ封山ノ放火ト區別シ杖一百ニシテ定配ス其嶺阨禁養ノ箇所ノ定標内(山腰ヲ以テ限リトス)ニ放火スルモノハ松田放火ノ例ニヨリテ處斷ス又山腰以上ヲ冒耕スルコトヲ禁シ山腰以下ハ舊田ハ之ヲ論セス只新ニ斫木作田スルコトハ一切之ヲ禁斷シ其封山ノ禁標内ヲ冒耕スル者ハ盡ク之ヲ還元セシメ其封標内ニ庄ヲ設クルモノハ杖一百流三千里ニ處ス 又關防ノ重地封山、禁地ヲ僞フ公山ナリトシテ指告スルモノハ杖一百徒三年ヲ科刑ス

以上凡テ森林官吏ニシテ其罪狀ヲ摘發スルコトヲ得サルトキハ或ハ不覺失囚律ヲ以テ論シ其贖ヲ受ケテ故ラニ縱容シタルモノハ枉法律ヲ以テ斷シ犯人ト共謀シテ生松ヲ偷出スルモノハ邊遠ニ定配ス刑罰ヲ定ムルコト斯ノ如シト雖又一面外邑人私ニ松ヲ植ウルコト千株ニシテ材ト成ル可キモノハ當該守令親審シ觀察使ニ報シテ之ヲ論賞スルノ制ヲ布ケリ

當時ノ山林ヲ其所用ノ目的ニ從テ名稱區別スル所ニヨリテ其大體ヲ陳スレハ

一、國用材採取ノ禁山

ナルモノアリテ全然火田冒墾ヲ嚴禁シ宮室用材船艦材及黃腸ノ封アル宗室内ノ棺槨材ヲ供給スル山林ニシテ安眠島莞島ノ如キ海島ニ付テハ萬戶(海軍ノ官名)邊山長山串ノ如キ陸地接續地ニ付テハ海運判官夫々之カ管理保護ノ責ニ任シタルモノナリ

二、邊關防備ノ爲メノ禁山

ナルモノアリテ關防ノ養木ハ築城ニ勝ルトナシ又師旅ノ駐屯ニ方テハ探樵ヲ以テ重トナシ或ハ關西江邊ノ七邑海軍ノ中山七鎮嶺南ノ鳥嶺竹嶺雲峰端川ノ磨雲嶺等之ヲ道臣師臣ニ分付シ地方官及邊將別定監官山直ニ嚴飭シテ盛ニ禁伐制ヲ執リ其要害ノ地ニシテ既ニ童濯セルモノハ雜木松樹ヲ植栽セシメ其禁養ノ實地檢察トシテ監兵使又ハ其福神不意ニ看審摘奸シ其勤惰ヲ視テ賞罰ヲ嚴示セリ

三、風致保存ノ爲メノ禁山

ナルモノアリテ京城四山ノ松樹其他ノ莫樹桑漆ニ至ル迄之カ伐採ヲ禁スルノミナラス毎年其植栽ノ數量ヲ審察スルモノニシテ南北兩營及總戎廳之ヲ監督ス胎封山陵園山林皆之ニ屬シ前者ハ寺僧之ヲ管掌シ後者ハ參奉ナルモノ守陵軍ヲ指揮シテ之ヲ管理ス

四、海島

玆ニ武將ヲ置テ重鎮トナシ屯田ノ兵制ヲ布キテ一般人民ノ入耕伐木ヲ許サハルモノナリ

五、香炭山

之ハ元來單ニ陵園用ノ薪炭ヲ供シタルニ止マリ之以外ニハ庶民ノ伐木耕牧ヲ禁シタル山林ニシテ初メハ公山ノ樹木アルモノニ對シ一定ノ區域ヲ劃シテ之ニ充當シ落葉枯柯ハ之ヲ山直及附近住民ノ採收スルコトヲ許シ其報償ノ義務トシテ春秋彼等ニ植栽ヲ賦課シタルモノナレトモ後ニハ寺院境内ノ養林ヲ封シテ禁伐ノ制下ニ置キ毎年其進貢ノ數額ヲ定メタルモノ多シ然レトモ寺院ノ勢漸次衰微シ無賴不逞ノ徒輩カ盜伐侵墾ヲ防クノ力ナク去リトテ香炭山ノ起元要素タル陵園ヲ距ルコト百有餘里ニシテ薪炭ヲ之ニ供スルノ便ナキモノモ遂ニハ其盜伐ヲ防クノ方法トシテ薪炭ノ實物ニ代フルニ香炭金ヲ以テシ毎年之ヲ上納シテ封山禁伐ノ威力ノ下ニ編入セラレコトヲ請ヒ許サレテ寺門ニ封山ノ標杭ヲ建ツルニ至リシモノアリ

六、鄉校林

鄉校ハ一邑一箇アリテ孔子ヲ祭ル此校領地ハ松林ニシテ民ノ斫伐ヲ禁シタルモノナリ

七、風潮防備林

海岸ヨリ三十里即チ現今内地ノ約三里迄ノ松林ニシテ風潮防備ノ爲メ住民ヲ賦役シテ植栽セシメシモノニシテ樹下ノ柴草ハ其住民ノ入會採收ヲ認許シタルモノナリ

八、陵園墓ノ制

陵園墓ノ制ハ王室ノ墳墓ニ關スルモノニシテ直接山林自體ノ制度ト云フコト能ハサレトモ其墳塋ノ壯嚴風致ヲ保持スルカ爲メニ周圍ニ松樹ヲ植栽シ其大ナルモノニ至テハ周回約四里ニ達スル美林ヲ形成セルモノアリ其之ヲ不可侵トナシ之カ管理保護ノ周到ヲ致セシコト皆王威ノ尊嚴ヲ瀆サ、ランカ爲メニシテ童齡多キ朝鮮ニ於テハ眞ニ紅中ノ一翠トシテ今日猶此土ニ旅行スルモノ、驚異ヲ買フモノナルカ故ニ少シク之ヲ摘錄セント欲ス此制ハ李王家歷代ノ墳塋ニ對スル尊崇祭祀ノ禮典等ニ關スルモノヲ定メタルモノニシテ少數新設ノ墳塋中所謂内外垓字ノ區別アルモノ、外全ク此ノ區別ノ無キモノ若ハ不明ノモノ多數ナリト雖トモ要スルニ皆多少ノ附屬林野ヲ有セシコトハ明ニシテ往

古ヨリ存在シタル制度ナリシコトヲ疑ハス

陵トハ健元陵綏陵仁陵健陵洪陵裕陵顯陵穆陵徽陵崇陵元陵景陵獻陵隆陵光陵睿陵及禮遷ニ係ル陵等ノ諸陵アリテ皆其尊崇ノ程度祭祀ノ儀禮ニ差異アリト雖トモ悉ク歷代ノ王及其妃ノ墳塋ヲ云ヒ

園トハ歷代ノ生母又ハ世子ノ墳

墓ハ園ニ祀ラレサル王子王女又ハ嬪等ノ墳

(胎封山ハ歷代王ノ胞衣ヲ埋メタル所)ヲ云フ

古ハ家人之官ナルモノアリテ公墓ノ地ヲ管掌シ其兆域ヲ辨シテ之カ圖ヲ作レリ先王之葬ハ中ニ居シ昭穆ハ左右ニ位ス王室ノ隆運振張スルニ伴ヒテ公墓ノ勢力延ヒ其占有地域甚ク廣ク田野盡ク荒レ後世民ニ芻牧ノ所ナキニ至レリ又之ヲ侵スモノニ對スル刑罰モ峻嚴ニシテ試ニ陵園刑制ヲ見ルニ取レ土取レ石開レ窖放火燒山者俱昭前首斬、從軍擾斷敢有開レ山取レ石安ニ挿墳墓者依レ古官山築馨臺池者廢邊充軍盜ニ園陵樹木ニ若ニ用斧鋸斫伐一驗有ニ捨捨ニ爲首比律斬爲從邊遠充軍

尙刑律ノ外各陵ノ林野禁養ノ方法トシテ其數四ヲ掲ケレハ

- 一、毎日陸軍々人二名宛ヲ發シテ山ヲ巡視シテ樵採ヲ嚴禁シ官員亦頻々親シク自ヲ摘奸スルコト
- 二、犯斫人捉ハレタルモノ、中生松及大木ノ盜伐ニ係レル重罪犯ハ之ヲ禮曹ニ論報シ律ニ依リテ定配シ次者ハ本官ニ報シテ囚治シ又次者ハ齋中(令若ハ參奉)ヨリ重キニ從テ罪ヲ治ス
- 三、塋域内ノ放牧ハ一切之ヲ禁斷ス
- 四、齋室朝夕ノ點火祭官各房ノ燧燧及常時ノ炊爨等ハ冬春ノ燃料トシテ落葉ヲ用キ夏秋ハ則雜草ヲ採リ而シテ生木ノ斫伐ヲ禁ス
- 五、祭享ノ際其火材木ハ風落木アラハ用ウヘシ則チ禮曹ニ報シテ之ヲ採リ然ラサルモ蟲害ニヨリ又ハ立枯レノ柴アラハ報シテ之ヲ用ウルヲ得

六、各陵ノ火巢(境界)内及火巢ノ外接近要害ノ地凡ソ林木疎落ニシテ丘岡ノ童濯ナル箇所アラハ一々躬審シテ廣ク植栽ヲ加フヘキモノトセリ

第四節 林政ノ弛廢

以上ノ如ク法令ヲ布キ制度ヲ定メ諸臣ノ建言ヲ納レテ山林ノ養護ヲ圖リ歷朝意ヲ此ニ用キサルモノナカリシカ文祿ノ役朝鮮全土豐太閤ノ蹂躪スル所トナリテヨリ諸政漸ク頽廢シ林政亦解弛ニ趨キテ法令ハ徒ニ文飾タルニ過キサルニ至リ識士屢林政ノ反正ヲ企テシモ勢ノ有如何トモスル能ハサリキ

惟フニ文祿ノ役斂マリテ朝鮮上下ノ疲弊甚シク殿樓官衙凡テ灰燼ニ歸シ其造營改築ハ彌多ク民ノ膏血ヲ搾ルニ至レリ加之古來王土王臣ノ主義ハ中央ノ權威漸ク衰フルニ及ヒテ政權全ク地方ニ移リ土地ハ即チ土豪ノ私領トナリ人民ハ即チ其私民ト化シ收歛日ニ重クシテ百姓備蓄ナシ偶々少シク餘財アルモノアラハ忽チ占奪ノ災禍ヲ受ケ漸ク赤裸ノ民ヲ驅テ都邑ヨリ山地ニ遁竄セシムルニ至レリ即チ山林ハ彼等ノ樂園トシテ到ル所冒墾火耕ノ巷ト變シ產業ノ精神滅盡シテ食ヲ以テ足レリトナシ封禁ノ諸山モ朝威ノ衰頽ハ遂ニ擅ニ之ヲ斫伐シテ何等咎ムルモノナク流民ノ田土ナキモノ彼等ノ爲メニ無用ノ長物タル林木ヲ燒棄シテ之ニ火田ヲ開キ剩ヘ邊將守令其火田ニヨル捧稅ヲ喜ンテ敢テ之ヲ禁斷セズ彼ノ香炭山ノ制度ノ如キ時代ノ推移ハ香炭變シテ火栗炭ナル名稱トナリ即チ香炭山ヲ開墾シテ其收穫セル粟ヲ上納スレハ公然火田冒耕ヲ許サル、コト、ナレリ此ノ如クニシテ百年ノ長養ハ將ニ盡キナントスル傾勢ヲ示スニ至リ爾來林政ニ關シ施設スル所ヲ見サリシカ唯タ曾テ光武八年即チ明治三十七年農工商部大臣カ各道ノ觀察使ニ訓令シテ出願許可ヲ受クルニアラサレハ私有林ト雖トモ之ヲ伐採スルコトヲ得サラシムルコト、セシモ何等ノ功果ナクシテ濫伐底止スル所ナク荒廢ヲ加ヘシノミ山制ノ萎靡豈恐レサル可ケンヤ

其後統監府ノ時代トナリ明識達見ノ士屢山林ノ慘情ヨリ延キテ農鑛其他各種產業ノ不振ヲ見森林ノ救濟ヲ呼號セシモノ少カラサリシモ當時日露大役ノ後ヲ亨ケテ庶政未タ其緒ニ就カス林政ノコト直ニ完成ヲ期シ難カリシカ兎ニ角森林

法ヲ施行シテ漸ク茲ニ森林回復ノ機運ヲ示スニ至リ更ニ日韓併合ノ事成ルニ及ンテ森林法及其附屬法令ヲ廢シテ新ニ森林令同附屬令ヲ發布シ林政ノ維新ヲ企ツルニ至レリ

第三款 森林ノ所有者及森林經營者ノ種類

第一節 所有者

朝鮮ニ於ケル林野面積ハ大約一千六百萬町歩ト稱セラル、モ古來國土ノ全部ヲ舉ケテ國有ト觀念セシコトハ既ニ敘スル所ノ如ク中世地方ノ官職ニアルモノ擅ニ之ヲ自己ノ私領トナシタルコトアリシモ現今ニテハ苟モ個人ニ於テ保護植栽シタル證左形跡ナキモノハ之ヲ國有ト定メントスルノ方針ナル以上ハ其私有ニ屬スヘキモノ極メテ少數ノ面積タラサル可ラス未タ土地調査ノ終了ヲ告ケス林地所有ニ付テ官民ノ區分未タ端緒ヲ得ントスルニ過キサル今日見込ヲ以テ云フノ外ナクレトモ九割ハ國有ニシテ民有ハ一割ニ過キスト云フ元ヨリ從來諸種ノ禁山ノ外寺領ノ封山郷校林等ノ制アリテ恰モ國有寺有校有ノ區別アルカ如クナルモ事實ハ然ラスシテ皆其伐採ヲ禁シ所謂自由ノ進退ヲ許サレザリシモノニシテ廣キ意味ニ於テ國有ト云フヘキモノナリシト認ム其寺領ノ林野ト稱セラル、モノハ今日尙各所著名ノ寺院ノ附近ニ存在シ比較的部落ヲ離レタル箇所ナルカ爲メ尙尙林相ヲナセルモノ少ナカラサレトモ中ニハ何レモ其境界不明ニシテ嘗テ之ヲ決定シタルモノナキニ乘シテ冒耕ヲ逞フシテ遂ニ權門勢家ノ私領ニ没入セラレシモノ決シテ少ナカラス又例ヘハ平安北道寧邊妙香山ハ道中第一ノ巨刹ニシテ往時林木鬱蒼タリシモノ甲午ノ役後郡守之カ境界不明ヲ利シ之ヲ開キテ耕地トナサハ民ニ生産ヲ與ヘ國利ヲ増進スルモノナリトノ誤解ヨリシテ大ニ冒耕ヲ獎勵シ今日緒禿昔日ノ迹ナキニ至レル事例モ珍ラシカラス殊ニ今日ノ所ニ於テハ總督府ノ解釋トシテ法ノ上ニ於テ朝鮮ニ僧侶ノ存在ヲ認メス從テ寺院ノ人格ヲ認メサルカ故ニ寺有ノ林野モ亦存セスト云フヘシ(但シ將來ノ政策トシテハ別箇ノ問題トセサル可ラス)

以上陳フル所ノ如ク諸種ノ封山禁山ノ如ク純粹國有タルヘキ性質ノモノ、外從來無主ノ公山ナル名稱ノモノアリテ之ニ對シテハ部落人民ノ自由處分ニ委シタルモノモ性質上部落有トスヘキニ拘ハラス現在ニ於テハ之ヲ國有ト定メ其入會トシテ只慣行ヲ認メテ彼等ニ副産物、採取及放牧ヲ許スニ過キス
斯ノ如クナルカ故ニ現在山林ノ私有ナルモノハ勢限極セラレ場合ニノミ公認セラル、ニ過キスシテ主トシテ其大部分ハ墳墓ノ周圍ニ存スル森林ニアリ、一般ニ朝鮮人ハ墳墓ノ周圍ニ松樹ヲ植栽スルノ習俗アリテ何人モ之ヲ侵害スル能ハサルモノトナシ父祖ヨリ繼承シ來レルモノナレハ他ノ林地ヲ横領センカ爲メニ後ヨリ其林内ニ墳墓ヲ偽設スルモノハ別トシ(近時此徒アルヲ聞ケリ)以上ノ森林コソ私有トシテ認ムルコト最當然ニシテ其大ナルモノヲ李王家ノ所有ニ係ルモノトス而シテ其所有區域ハ墳墓威嚴ノ維持ト祭典施行ニ必要ナルモノトシテ現今左ノ標準ニヨリテ定メラレタルモノ、如シ

- 一、左ニ掲グル墳墓ニ在リテハ從來其ノ陵ニ直接附屬セル林野全部(陵數十五)
- 健元陵、綏陵、仁陵、健陵、洪陵、裕陵、前項ニ掲グル墳墓ト同一林野内ニ在ル墳墓ニシテ各其ノ附屬地ヲ區別シ得サルモノ、附屬地亦同シ
- 二、前項以外ニ於ケル陵ト稱スル墳墓ニ在リテハ左ノ區域以内
 - イ、祖號ヲ有スル歷代王ノ陵ニ在リテハ莎草地外五十間但光陵及睿陵ニ在テハ五十間ヲ超ユルコトヲ得(陵數三)
 - ロ、祧遷ニ係ル陵ニ在リテハ莎草地外三十間但シ永陵ニ在リテハ三十間ヲ超ユルコトヲ得(陵數十九)
 - ハ、其ノ他ノ陵ニ在リテハ莎草地外四十間(陵數十三)
- 三、園及壇(壇トハ李王家始祖李翰ノ墳ナリ)ト稱スル墳墓ニアリテハ莎草地外二十間以内(園數十一)
- 四、墓及胎封山ニ在リテハ莎草地外十間以内但シ瀟慶墓、永慶墓、燕山墓及光海墓ニ在リテハ十間ヲ超ユルコトヲ得(墓數三十、胎封山數二十四)

安義	北上洞面某里	鄭泰均	一〇〇
咸陽	德谷面二丹岩道崇山	鄭淳賢	三〇〇
	德谷面分坪里		同
龍仁	京城	閔泳徽	三〇〇
	京城		縱、赤松老林

第二節 經營者

森林ノ經營者トシテハ政府事業ニ係ルモノハ茲ニ省キ專ラ私人ニ關スルモノヲ陳ヘントスルモノナルカ何レモ未ダ合理的保續ノ施業ヲ執レルモノナク間々内地人ニシテ斫伐ヲ行ヘルモノアレトモ皆所謂山師ニ過キスシテ或ハ寺領林ト稱セラル、カ爲メニ誤リテ其寺院ト契約ヲナシ其寺領内ノ林木一本ヲ二十錢ト定メ任意ニ十萬本ヲ擇伐スルコト、ナシ賣買ヲナセシカ前陳ノ理由ヲ以テ現今寺院ノ人格寺有ノ存在ハ之ヲ認メサル爲メニ總督府ヨリ其契約ヲ無効トシ只便宜既ニ伐採シタル數量タケハ其所有權ノ移轉ヲ許ス旨ヲ宣言セラレ大ニ嗟嘆セル内地人現ニ江原道金剛山麓百川橋ニアリ是等ハ單ニ一時的林木ヲ伐採シテ奇利ヲ僥倖セントスルモノニシテ素ヨリ永遠ニ森林ヲ利用セントスルモノ、類ニアラス其森林經營者ヲ以テ目スヘカザサルハ當然ナル朝鮮林政ノ萎靡久シキ裡ニアリテ獨リ異色ヲ放チ多大ノ人工造林ヲナシ能ク之ヲ管理保護シテ所謂營林ノ事業ヲ繼續セルモノハ屢陳フル所ノ舊家兩班等ノ墳墓附近ノ松樹林ニシテ其規模亦相當ノモノ少カラス

其他内地人ノ經營トシテハ先ツ指ヲ釜山民間及東洋拓殖會社ノ執レル事業ニ屈セサル可ラス即チ前者ハ二箇ノ民間林ヲ有シ一ハ專ラ水源涵養ノ爲メニ造林シ面積百七十町歩一ハ專ラ民間財源ヲ供給センカ爲メニシテ既ニ過半ノ造林ヲ終ハリ面積百三十餘町歩ナリ樹種ハ概ネ「クロマツ」「アカマツ」「ヤマハンノキ」「クヌギ」「アベマキ」「グリ」「スギ」「ヒノキ」「カラマツ」「ハゲシバリ」「マダケ」等ニシテ山中腹ニ幅四間乃至八間ノ防火線ヲ作り谷間ニハ「ハンノキ」「ヤマハンノキ」「山麓ニハ「マダケ」「クヌギ」「アベマキ」「グリ」「裸地ニハ「ハゲシバリ」ヲ植エ「ヒノキ」「クヌギ」ノ混溶林多ク及「クヌギ」「アカマツ」ノ混溶林山腹ヨリ峰筋ニ到ル此他同シク同民間ノ經營トシテ約五百町歩許ニ大部分「アカマツ」「クロマツ」「ヒノキ」等ノ苗圃事業ヲ營ムルアリ

東洋拓殖會社ニテハ稚樹ノ成育ト人工造林ノ目的ヲ以テ初ハ四五千町歩ノ民地ヲ買收スル方針ナリシモ現今約三百町歩ヲ得タル外國有林一萬町歩ノ貸付ヲ出願シテ四十四年黃海道ニ於テ四百町歩ノ許可ヲ得タリ樹種ハ柏、樺及松ニシテ三十九年ヨリ之ヲ造林シ成績良好ナリ而シテ尙薩島ニ十二町歩餘ノ面積ヲ有スル前記同樹種ノ苗圃ヲ設置セルアリ當時三井物産會社ニ於テ朝鮮ニ造林シテ大規模ノ林業ヲ開設セントスルノ計畫アリシカ今日ニ於テ愈之カ實行ニ著手スルコトニ決セリト聞ケリ

以上ノ外舊森林法カ部分林ノ制ヲ布キテ造林希望者ヲ待チシモ土地及林木全部ノ所有ヲ攫取シ得サルカ爲メ彼等ヲ招致スルノ功果薄ク國亦幾分ノ分收ヲナスカ爲メニ其權利保護上多クノ監督ヲ要スルノ煩瑣アルノミナラス林地使用ニ對シテモ何等料金ヲ徵收セザリシ爲メ出願者ニ實行ノ誠意アルモノ少ナク充分ナル成績ヲ舉ケ難キヲ以テ森林令ニ於テハ之ヲ廢シテ林野貸付ノ制ヲ採リ時ニ無料ノ場合ヲ定メ或ハ苗木ノ無代下付ヲ行ヒ植林成功ノ曉ニハ林地ヲモ舉ケテ之ヲ造林者ニ讓與スルヲ得ルコト、ナシ之ヲ周知セシメタル結果大ニ世人ノ同情ヲ買ヒ多數ノ貸付出願造林希望者ヲ見ルニ至レリ然レトモ果シテ眞ニ其誠意アリテ然ルモノカ否ヤ尙今後數年ヲ待ツニアラサレハ知ル能ハス又偶進ンテ私財ヲ投シテ植樹ヲ營ムモノナキニアラサルモ多クハ技術上ノ知識ニ暗キカ爲メ未タ良好ノ成績ヲ舉グル能ハサルモノアリ

個人トシテハ鏡城地方ニ二千圓ノ資ヲ投シテ松ノ造林ヲ營メル今西某ナルモノアリ其他内地人ノ來テ林業ヲ經營セルモノナキニ非ラサルモ概ネ農業ニ附隨セルモノニシテ全力ヲ之ニ傾注セルモノ殆ント鮮シ

尙現今朝鮮ニ於テ稍廣ク養苗事業ヲ營メルモノトシテハ纔ニ左ノ少數ニ過キス

四十五年春ノ產苗數百五十萬本	京畿道富平郡馬場面	加藤嘉平
同上	慶尙南道密陽郡三浪津橋	詰某
同上	二百萬本	
同上	二百萬本	
同上	林田敬吉	

第四款 林役權

林役權ハ其ノ種類多ク其ノ成立ノ方法一様ナラスト雖トモ林業ニ對シ幾多ノ妨碍タルコトハ殆ント咸ナラサルナシ元ヨリ森林ノ事業發達シ其收益ノ増大スルト一方農工業ノ改良セラレテ合理的ニ經營セラルハニ至ラハ自ラ消滅ニ傾クヘキモノナリト雖トモ亦以テ朝鮮ノ如ク産業幼稚ニシテ農業未タ發達セス林業トシテ林野ノ利用未タ全ク洽カラス加フルニ積年誅求ノ餘弊ヲ享ケテ細民ノ多ク山地ニ遁入シ山間ノ人家各所ニ散在スル地ニアリテハ假令火田開墾ノ方法ニ付テハ別トスルモ林野ノ保護ナクハ全ク農業ヲ經營スル能ハサル所アリ人民ノ生命ヲ維持難キ理由アリ即チ部落生存ノ必要條件トシテ林役權ノ存續ヲ餘義ナクセサル可ラサル場合アルナリ

朝鮮ニ於ケル畜産ハ後ニ詳述スヘケレトモ主トシテ預託ナル方法ニヨリテ行ハレ大規模ノ牧場又ハ放牧地ト稱スヘキモノナシ往時ハ本土ニ於テモ牧官牧使ノ官ヲ置キ之ヲ管理セシメントアルヲ聞ケトモ今ハ全ク其跡ヲ絶チ只島嶼ニ於テ古來森林ノ思想單純ナル時代放牧ハ森林ヲ害セサルモノトシテ禁山ニ於テモ之ヲ行ヒタル事例アリ且ツ禁山ノ制大ニ弛ミテ後近クハ統監府時代ニ於テモ牧賭ナル税目ヲ存シ之ヲ納ムルモノハ公許ヲ得タルモノト思料シ海島ノ山林ヲ濫伐シテ之ニ放牧スルモノ今尙少カラス

又曩ニ敘シタル如ク朝鮮ニハ古來無主ノ公山ナルモノ存シ國ニ於テ封山禁山ノ如ク特殊ノ管理保護ヲ加ヘスシテ地元住民ノ產物採收ニ委シタルモノアリ此等ハ其自家ニ供スルノ外遠ニ營利ノ目的ヲ以テスルモノヲ出タシ今日森林荒廢

ノ一因ヲ作スニ至リシモノナレトモ其ノ營利目的ニ出ツルモノハ別トシ其自家用ニ供セラルモノニアリテハ運輸交通不便ニシテ彼等ノ大部分カ財ニ餘力ナキ貧弱ノ民トシテ附近ノ山林ニ其生活必需ノ資ヲ求ムルハ蓋シ人情已ム可ラサル所ニシテ從來永ク彼等カ慣習上ノ權利トシテ續行シ來リタルモノナリ

朝鮮ニ於ケル林役の慣習トシテ舉クヘキモノハ以上ノ兩項ニシテ舊森林法カ後者ノ林役ヲ視奪シ一切產物ノ自由採取ヲ禁シタルニ拘ハラス森林令ニ於テ朝鮮古來ノ慣習ト其地民特別ノ事情ヲ參酌シテ承役林ノ位置區域ヲ定メ且ツ其採取スル產物ヲ副產物ニ限定シ一方其報償トシテ承役林ニ造林ヲ命シ成功ノ曉ハ之ヲ讓與スルノ制ヲ採ルニ至リシハ蓋シ機宜ヲ得タルモノト云フヘキモ但之ニ關スル監督ノ機關未タ完備セサルカ爲メ規定ノ實功ヲ舉グルハ尙多少ノ歲月ヲ要スヘキハ論ヲ俟タス

第五款 森林ノ租稅

森林ニ對シ地租所得稅財產稅ノ一若ハ二箇ヲ科スルハ各國多ク然ラサルナシト雖トモ朝鮮ノ森林ノ如ク官民有ノ區分サヘモ普ク具體的ニ決定セサル今日且ツ森林ノ合理的利用殆ント開カレスシテ林地ノ平均生産力ニ相當スヘキ收額モ企業上ノ收益モ期望價ナルモノモ發見シ難キ現在ニ於テ森林租稅ノ賦課シ能ハサルハ蓋シ當然ノコトナルヘシ從來朝鮮ニ於テ耕地ニ對シテハ課稅ノ種類甚タ多ク之ヲ約言シテ田(畑)稅(水田)稅ノ二種トナスコトヲ得ヘキカ森林山野ニ對シテハ古來方今ノ所謂租稅ヲ課セラレタルモノナシ唯タ松田、竹田ニ付テハ課稅セルモノナキニアラサレトモ是レ一旦畑地ト見做シテ田稅賦課地ニ編入セラレタルカ又ハ其初メ田畚ノ課稅地ナリシモノハ上ニ松竹ヲ植栽シタルニ由ルモノニシテ斯ルモノニ對シテハ其儘從前ノ田畚稅ヲ賦課シタルニ止マル初メヨリ山林原野ナリシモノヲ松田竹田トナスモノハ依然トシテ課稅ヲ行ハス又火田ハ之ヲ耕作セル間ハ元ヨリ之ニ課稅シタルモノニシテ各面ニ對シテ特定ノ火田稅ヲ課スレトモ火田カ再ヒ林地ニ變セルトキハ何等ノ賦課ヲ受ケサルナリ此他柴場即チ草刈地ニ對シテ賭

税或ハ柴山税山麓税等ト稱セラル、税目アレトモ實ハ租税ノ性質ニアラスシテ國有林野ニ入りテ燃料若ハ牛馬ノ飼料ヲ採取スルノ料金トシテ徵收セラル、ニ過キス要スルニ朝鮮ニ於テハ從來森林ニ對シテハ全ク租税ナシト云ヒテ可ナリ

第六款 森林盜伐火災ノ狀況及之カ取締

屢陳フル所ノ如ク朝鮮林野ニ對シテ官民有ノ區分未タ確定セサルモ、甚タ多キノミナラス林政ノ衰頽年久フシテ禁制全ク行ハレサル所諸山ノ入林ハ敢テ良心ノ咎責スルモノナク濫伐ノ罪報ハ漸ク木材ノ不足ヲ告ケ燃料ノ缺乏ヲ來スニ及ンテ益暴威ヲ振ヒ其手腕ノ達スル所ニ委シテ探伐ヲ擅ニ來リシコトハ生活ノ急迫上當然ノコト、ナシ恬然何等蓋ナキ行爲トシテ永ク其慣習的觀念ヲ馴致シ彼等ノ腦裏ニハ他人ノ財物ヲ盜伐スルノ明確ナル犯罪意思ナキモノ其大部分ヲ占メ今日ニ至リ其叱責ニ遭ヒテ却テ奇驚ノ念ヒヲナセルモノ少ナカラサルヘシ而シテ今此カ監督取締ノ機關未タ充分ニ備ハラサルカ故ニ所謂盜伐ノ正確ナル數ヲ知ルコト能ハサレトモ精密ニ調査スレハ恐ラク鮮人ノ大部ハ皆其犯人ニシテ立木地ノ過半ハ皆其犯所ナラサルハナカルヘク又此ノ不完全ナル警察機關ヲ以テ偶之ヲ檢舉セル所ノ數ハ實際盜斫ノ數ニ比シテ寔ニ九牛ノ一毛ニ外ナラサルヘシト雖モ試ニ其檢舉セラレタルモノニ付テ見ルニ中ニハ用材ノ盜伐亦少ナカラスシテ一例ヲ云ヘハ十數人群ヲナシ食糧ヲ調ヘ遠ク平安南道陽德郡ヨリ來テ咸鏡南道通川郡安平郡ノ諸山ニ入り盜伐木ヲ山中ニ造材シテ一尺五寸乃至一尺八寸位ノ角物長サ二十五尺ノモノサヘモ作リ其搬出ニ方テハ賃金ヲ與ヘテ部落民ヲ使役シ之ヲ河邊ニ拉シ梅雨季水量多キ時ヲ利用シテ海上ニ流シ更ニ之ヲ元山ニ運ヒテ市場ニ出スカ如キ彼等トシテハ多少大仕掛ノ方法ヲ以テシ部落民ハ其賃金ヲ得ルヲ徳トシ犯人ヲ隱匿シテ檢舉ニ不便ヲ與ヘシコトアリ或ハ永興本宮(陵)ニ配屬セル官吏タルヲ利シテ本宮境内ニアル松ヲ盜伐シ之ヲ自己從前ノ負債償却ノ資ニ充テタルカ如キアリ後者ノ如キハ犯意ノ認識ヲ有シ動機ノ惡ムヘキモノナルカ尙此外最近大規模ノ盜伐トシテハ雲山郡ノ事

件アリ之ハ一千萬圓ノ資本ヲ以テ米人某ノ設立スル所ニ係リ年産額公稱三百五十萬圓、其純益ノ幾分ヲ王室(今ハ總督府)ニ上納スルコト、シ鑛業令ノ支配外ニ立チテ雲山郡北鎮ニ於テ經營セル鑛山會社カ明治四十二年統監府外事局ト協約シテ楚山郡碧童郡ニ於テ面積約八萬町步(内立木地約二萬九千町步)ヲ一箇年二萬五千圓ヲ以テ十箇年ノ年期拂受ヲナシタルモノナルニ明治四十四年ニ至リ警察官署ノ報告ニヨリ調査スル所ニヨレハ昌城郡即チ拂下區域以外ニ互テ鑛業用木ヲ不法ニ伐採シ其盜伐立木地面積大約二萬町步ナルコトヲ知り交渉ノ機會社ハ更ニ之ヲ買受ケンコトヲ申出デシモ價格折合ハスシテ小官出張中尙其局ヲ結ハサリシモノナリカ、ル大計畫ノ盜伐ハ犯具ノ幼稚ナル朝鮮人ニハ到底行フ能ハサル所ナルモ彼等ノ常業トシテ憚ラス若ハ微罪トシテ寛假セラレタル燃料盜伐ノ事件ニ至テハ實ニ其數數フルニ追アラス尤モ日韓併合以後各所ニ憲兵分遣所ヲ置キ遲鈍ナカラモ盜伐ヲ檢舉シ其不法ヲ論スニ至テ幾分彼等ハ其非ヲ覺リ若ハ威嚇ノ效ヲ奏シテ多少其犯數ヲ減シタル感アルモ今ヤ生存元資ノ窮乏ハ如何トモスル能ハス眞ニ是レ猫前鼠頭ヲ吊シテ其食ハサランコトヲ叱咤監視スルニ異ナラサルノ概アリ

林野ノ火災ニ付テハ彼等ハ極メテ已ムヲ得サル場合ノ外煙管ヲ放タサルカ爲メ偶其煙草ノ火ヨリ山野ヲ燒キ盡シタル例ヒナキニアラサルモ概ネ火田ノ開墾ノタメ若ハ其レヨリ火田區域以外山林ニ延燒シタルモノ多キニ居ル由來朝鮮人ハ普通ノ農業ニ付テモ肥料製造ノ方法極メテ幼稚ニシテ火田ノ如キハ自然其燒棄セラレタル樹木カ分解セラレテ土地ニ養分ヲ與フルカ爲メ之カ開墾ニヨリテ相當ノ收穫ヲ期シ得ルト往時謀求ヲ遁レテ山ニ入りタル餘勢ニヨリ巧ニ火田ニ耕作シテ馬鈴薯粟大小豆蕎麥等ヲ作リ三年乃至五年ニシテ地力減退スルニ至リ更ニ稚樹發生地ヲ逐ヒ火田ヲ求メテ移住スルヲ常トセルモノナルカ故ニ云ハ、山地ノ放火ハ彼等生活ノ條件トシテ之ヲ行フモノニシテ夏季ニ於テモ往々之ヲ見ルコト少ナカラサレトモ春秋二季最多ク朝鮮全土ヲ舉ケテ到ル所天色爲メニ灰變セントス而シテ其暴威ノ跡最慘然タルモノヲ江原道トナス

以上ノ如ク今日ノ勢ヲ以テハ盜伐火災ハ容ク之ヲ絶滅スルコトヲ得サルヘク之ヲ犯ス者多數ニシテ其區域又廣キニ

互ルカ故ニ少数ノ憲兵ヲ以テ取締ランコト殆ント隔靴搔痒ノ難ナクンハアラス元ヨリ其監視保護ノ任ニアル憲兵ハ所在地部落民ニ對シ分遣所内ニ夜學校ヲ起シ之ニ内地語ヲ教ウルノ傍及巡回出張ノ都度山林ノ重ンスヘキコト盜伐放火ノ犯罪ヲ構成シ共同ノ利益ヲ滅盡スルニ至ルヘキコトヲ説示スルト共ニ僅カナカヲモ之ヲ檢舉スルニ及ンテ只彼等ハ山林ノコト困難トナリ來レリト云フカ如キ感想ヲ發シ從前ニ比シ幾分其犯數ヲ減少スルノ傾向ヲ示スニ至リシハ喜フヘキ現象ナリトス面シテ此等取締上ノ制裁トシテハ他人ノ森林ニ放火シタルモノ自己ノ森林ニ放火シタルモノ因テ他人ノ森林ヲ燒燬シタルモノ森林ニ火ヲ失シ又ハ濫ニ焚火シタルモノ森林產物ヲ竊取シタルモノ濫ニ他人ノ森林ヲ開墾シタルモノ等ニ對シテ財刑若ハ體刑ヲ科スヘキ規定嚴トシテ森林令ニアリト雖トモ前例犯意ノ惡ムヘキモノハ別トシ屢云フ如ク生存ノ急迫上已ムヲ得サルニ出テタルモノニ對シテハ其生存難ヲ救済スヘキ道ヲ講セスシテ啻ニ千篇一律嚴格ニ此規定ヲ適用スルカ如キハ酷烈ヲ免レサル場合アルノミナラス政策上却テ害アルヘシ即チ此規定ノ如キハ造林ヲ獎勵シ稚樹ヲ撫育シ燃料ヲ與ヘ未墾地ヲ開發シテ農地ヲ増設シ彼等生存ノ資ヲ供スヘキ施政ト相俟テ併行スルニアラスンハ以テ法制ノ美ヲ得タルモノト稱ス可ラス當局ノ眼固ヨリ然ルヘキヲ疑ハス

第七款 造林獎勵ニ關スル行政

朝鮮ノ林野面積約千六百萬町歩ノ内稚樹ノ發生地ハ其百分ノ四十二即チ約六百七十二萬町歩無立木地ハ百分ノ二十六即チ約四百十六萬町歩ナリトス後章陳フル所ト重複スルコトヲ避ケテ茲ニ之ヲ評論セスト雖トモ今日林政ノコト稚樹ヲ擁護シテ無立木地ノ造林ヲ行フヨリ急ナルハナシ今森林令規定スル所ヲ見ルニ荒廢若ハ之ニ傾キ又ハ經營拙劣ナルモノニ對シテハ森林ノ所有者若ハ占有者ニ營林ノ方法ヲ指定シ又ハ造林ノ命令ヲ下シ或ハ副產物採取ノ入會地ニ向テ其地元住民ニ造林ヲ命シ或ハ共同施業ノ必要アル場合ハ共同ノ造林ヲ命シ各制裁ヲ附シテ之ヲ實行ヲ督勵セルノミナラス又舊森林法部分林制度カ誠意アル造林者ヲ招致シ難キヲ察シテ單ニ林野貸付ノ制ニ依リ入會地造林ノ場合ト共ニ

其ノ事業ノ成功シタルモノニ對シ林地ヲモ之ニ讓與スルノ道ヲ開キ舊法ノ處分ニヨル貸付及部分林モ新令ノ貸付トナシ得ルノ便法ヲ定メ大ニ造林ノ期成ヲ喚ハントスルモノアルハ誠ニ適當ノ法令ト云ハサル可ラス然レトモ法ノ效果ハ實行ノ如何ニヨリテ定マル今其實行セラレツ、アル造林獎勵ニ關スル行政ノ事項ヲ掲ケンニ國家直營ノ造林ハ主トシテ京城附近ニ行ヒ一般ノ造林ハ之ヲ地方人民ノ施設ニ俟ツコト、ナシ植林ノ思想薄キ彼等ニ或ハ苗圃又ハ造林地ヲ觀覽セシムルノ外地方在勤ノ技術者ヲシテ林業講話ヲナサシメ或ハ模範苗圃模範造林ヲ造成シ或ハ彼等カ種苗ヲ得ルコトノ困難ナルヲ想ヒテ種苗ノ下付ヲ行ヒ一般ノ造林ヲ獎勵スルノ外四十四年神武天皇祭ノ日ヲトシテ各道ニ紀念造林ヲ行ハシメ殖林ノ思想ヲ普及スルコトニ力メ努力成績共ニ見ルヘキモノアリ今少シテ各項目ニ互リテ陳ヘンニ
造林獎勵行政ハ地方道廳ヲシテ之ヲ分掌セシメ獎勵方法ハ前陳ノ如ク一、模範造林ノ經營 二、種苗ノ下付 三、苗圃 四、造林ニ關スル講話及講習 五、印刷物ノ配布等ヲナシ 六、更ニ四十五年度ヨリハ苗圃經營者ニ補助金ノ交付ヲ行ハントス

一、模範造林

四十年ヨリ京畿道、慶尙北道、平安南道ニ施行セリ其ノ精細ハ之ヲ第三章造林ノ部ニ記スヘシ

二、種苗下付

四十二年度ヨリ施行セリ其ノ四十二、四十三年度ノ分ハ第一號表ノ通りニシテ四十四年度ノ分ハ苗木約四百三十五萬本種子約二百五十石ノ見込ナリ
而テ苗木ハ「クマギ」「アカマツ」「クリ」「ニセアカシヤ」「白楊樹類ヲ主ナル樹種トシ一般公眾ニ無償下付シ種子ハ殆ト「クマギ」「クリ」「ニセアカシヤ」ノ三種ニ限リ主ニ府郡金融組合等ノ公衙及民間苗圃經營者等ニ無償下付ス
三、國ノ造林及一般無償下付ニ供スル苗木ヲ養成スル爲メ國費經營苗圃ヲ設ク其現在ハ十二箇所ニシテ其ノ詳細ハ第二號表ノ如シ外ニ四十四年度中ニ江原道及忠清南道ニ各一箇所設置ノ豫定ナリキ現在苗圃十二箇所ノ產苗力ハ

約一千二百萬本ニシテ四十四年秋ニハ約九百萬本ノ生産アル見込ナリ既往ニ於ケル生産成苗數等第四號表ノ如シ
四、造林ニ關スル講話及講習

現在業務多端ニシテ講話等實行ノ機會少ナキモ時々行ヒツ、アリ四十四年春ハ平安南道廳ニ於テ朝鮮人ノ苗圃事業實地講習ヲ行ヒ其成績良好ニシテ業ヲ卒ヘタルモノ十四名ナリ

五、印刷物ノ配付
無償下付苗木ノ植栽方法ヲ教示シ或ハ一般造林上ノ獎勵ヲ爲ス爲メ各道ニ於テ簡易ナル印刷物ヲ調製シ篤志者ニ配付シツ、アリ

六、四十五年度ヨリ交付セントスル苗圃事業經營補助金ハ大凡左ノ標準ニ依リ其ノ額ヲ定メントス
イ、個人經營苗圃ニハ其所要農具及種子ニ要スル經費ノ約半額但シ大資本ヲ以テ經營スルモノニハ補助ノ限ニアラス

ロ、地方費經營郡苗圃ニハ其ノ擴張ニ要スル經費ノ約半額
國費以外ノ苗圃現在數ハ第三號表ノ如シ

第一號表 下付種苗道別一覽表

道別	四十二年度		四十三年度		計
	種	子苗	種	子苗	
京畿道	四、六〇〇	二八、五七九	九、三三〇	二八、四四五	一〇〇、〇〇〇
忠清南道	三、三五〇	九、七〇〇	六、九七三	二七、〇〇七	二七、〇〇七
忠清北道	一、〇〇〇	九、五〇〇	三、三三六	三三、六四六	一七、七四〇
全羅南道	一、五〇〇	三、〇〇〇	一、八九〇	三、八五〇	六、二八五〇
全羅北道	二、〇〇〇	三、〇〇〇	一、七五〇	三、〇〇〇	三、八九〇〇

道別	四十二年度		四十三年度		計
	種	子苗	種	子苗	
慶尚南道	七、七七五	二六、八〇〇	五、三六七	一五、七二〇	一〇〇、〇〇〇
慶尚北道	七、七七五	二六、〇〇〇	三、六〇一	一五、四四五	一〇〇、〇〇〇
江原道	二、五五〇	六、〇〇〇	一、九二〇	七、〇〇五	一〇〇、〇〇〇
咸鏡南道	一、七〇〇	三、三〇〇	七、一〇〇	一、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
咸鏡北道	二、一九五	三、〇〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	一〇〇、〇〇〇
平安南道	三、二六五	三、〇〇〇	二、一四一	二、六三八	一〇〇、〇〇〇
平安北道	三、二六五	一、九〇〇	二、三六八	八、五二七	一〇〇、〇〇〇
黃海道	二、四一五	八、五〇〇	九、一〇〇	一、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
計	二、四一五	五〇、三一九	三、三六八	一、〇六三、七五七	三、三五、九一〇

第二號表 苗圃現在表

苗圃名	所在道	面積	設置年月	苗圃名	所在道	面積	設置年月
京城畿道	京城畿道	一四、〇〇〇	四十二年四月	海州	黃海道	六、〇〇〇	四十四年四月
忠清北道	忠清北道	一八、〇〇〇	四十四年四月	平壤	平安北道	八、〇〇〇	四十四年四月
慶尚北道	慶尚北道	六、〇〇〇	四十四年四月	咸鏡南道	咸鏡南道	二、〇〇〇	四十四年四月
慶尚南道	慶尚南道	八、〇〇〇	四十四年四月	咸鏡北道	咸鏡北道	四、〇〇〇	四十四年四月
全羅南道	全羅南道	七、〇〇〇	同右	計		五、〇〇〇	四十二年四月
全羅北道	全羅北道	五、〇〇〇	同右			九、二〇〇	
木浦	全羅南道	九、〇〇〇	四十二年四月				

第三號表 國費以外ノ苗圃現在表

種別	箇所	面積	積
地方費經營	四〇		三九

恩賜金經營	五二
個人經營	一五
計	一〇七

第四號表 生産苗數表

道	生 産				苗 數
	四十一年	四十二年	四十三年	四十四年見込	
京 畿 道	三、九〇〇	一五七、九〇〇	三、二六八、四四三	一、五四二、八三三	六、二二七、三五七
忠 清 北 道				六〇、七八七	一、八一、七八七
慶 尙 北 道		七六、四四五	五三三、二二二	一、一九六、三三〇	四、〇〇〇、五三五
慶 尙 南 道				二、一八二、七六八	一、六九、四〇〇
全 羅 北 道				一、六九、四〇〇	二、二五、四〇〇
全 羅 南 道				三、三九、三三〇	一、二七、七四〇
黃 海 道				六六、〇〇〇	六六、〇〇〇
平 安 南 道	三、〇八三	一一七、二一〇	四、〇〇、〇〇〇	一、〇〇七、二〇〇	一、九六六、五九四
平 安 北 道				一五、八七一	一五、八七一
咸 鏡 南 道				七六、〇〇〇	七六、〇〇〇
咸 鏡 北 道				六二六、五〇九	八五三、一〇九
計	二五、九八三	三三三、五五五	三、三九一、一八七	三、六七七、四四五	一七、〇七三、六八三

苗圃ニ於テ養成スル主ナル樹種ハ「アカマツ」、「ニセアカシヤ」、「クマギ」、「クリ」、「白楊ノ類ナリ
尙参照ノ爲メ明治四十四年二月京畿道訓令紀念樹栽規程ヲ掲ケンニ

紀念樹栽規程 (明治四十四年二月十三日朝
鮮總督府京畿道訓令第六號)

第一條 本道ハ愛林思想涵養ノ爲メ神武天皇祭日ヲ以テ紀念樹栽日ト定ム同日天候其他已ムヲ得サル事故ノ爲メ樹栽シ

難キ時ハ順延トス

第二條 府尹、郡守及學校長ハ毎年樹栽日ニ部下職員及生徒ヲシテ樹苗ヲ植栽セシムヘシ

第三條 府尹、郡守ハ樹栽日ニ公共團體、組合其他一般人民ヲシテ成ルヘク附近地ノ紀念樹栽ニ参加セシメ又ハ別ニ樹栽地ヲ設ケ協同樹栽ヲ行ハシムヘシ

第四條 紀念樹栽地ハ成ルヘク左ノ順序ニ依リ府尹、郡守ニ於テ之ヲ選定スヘシ

- 一 官公署、學校等ノ構内又ハ其ノ附近
- 二 路傍(道路並木ヲ造ル目的ヲ以テ)又ハ公園其ノ他ノ公共用地
- 三 部落周圍(部落周圍林ヲ造ル目的ヲ以テ)
- 四 山野堤防等

第五條 樹栽日ノ植栽用樹苗ハ苗圃ヲ設ケ養成スヘシ
但シ當分ノ間ハ其ノ樹苗及苗圃用種子ト挿穂トヲ本道ヨリ配付シ尙經費ノ幾部ヲ補給スルコトアルヘシ

第六條 苗圃ハ府尹、郡守ニ於テ成ルヘク官公署、學校、郷校等ノ構内又ハ其ノ附近適當ノ場所ヲ選定スヘシ

第七條 樹栽地及苗圃ハ府尹、郡守ニ於テ之ヲ管理ス

第八條 苗圃ハ府郡及學校ニ於テ之ヲ施業ス

第九條 學校ノ職員生徒ハ左ノ標準ニ依リ樹栽スルモノトス

- 一、十歳未満ノ生徒ハ三本以下
 - 二、十五歳未満ノ生徒ハ五本以下
 - 三、十五歳以上ノ生徒及職員ハ十本以下
- 第十條 府尹、郡守ハ其ノ管理區域内ニ於ケル學校長及公共團體組合並一般人民ノ代表者ヨリ豫メ樹栽日ノ出動人

員、所要苗木見込數、植栽豫定地其ノ他必要ナル事項ヲ徵スヘシ

第十一條 府郡ニ樹栽及苗圃臺帳ヲ備ヘ左記ノ事項ヲ記入スヘシ

樹栽臺帳記載事項

- 一、植栽年月日
- 一、樹栽地(府、郡、面、里、洞、何學校構内或ハ何街道或ハ何山等)
- 一、樹栽地ノ面積
- 一、植栽樹種、本數
- 一、植栽人員(學校ニテハ何年何名何本)
- 一、植栽ニ要セシ費用
- 一、手入年月日及其ノ狀況
- 一、樹栽地ノ圖面(圖面ニハ四圍ノ目標、官衙、學校等ヨリノ距離ヲ明ニスヘシ)
- 一、出働者氏名
- 一、其ノ他必要ナル事項

苗圃臺帳記載事項

- 一、設置年月日
- 一、所在地
- 一、苗圃地面積
- 一、種子、種穗ノ種類及數量
- 一、手入年月日及其ノ狀況

一、設置及手入費用

- 一、床替年月日、苗種、數量及之レニ要セシ費用
- 一、樹苗ノ處分(年月日、樹種、本數、床替又ハ何所植栽)
- 一、其ノ他必要ナル事項

第十二條 府尹、郡守ハ毎年一月ヨリ樹栽日迄ノ狀況ヲ四月中ニ樹栽日後ヨリ十二月迄ノ狀況ヲ一月中ニ道長官ニ報告スヘシ

第八款

森林思想竝ニ森林ト地方人民トノ關係

朝鮮ニ於テ古者各地森林ノ鬱然トシテ翠ヲ披メシモノ蓋シ法制ノ力能ク此ニ致シタルニ外ナラス中世禁治カラスシテ諸國ニ濫伐起リ植栽ノコト顧ミラレスシテ火田冒耕盛ニ行ハレ纔ニ深山陵墓ノ山林ヲ除カハ峰巒殆ント童濯ヲ致セルヲ見ルモ愛林ノ思想ニ乏シキハ之ヲ知ルコトヲ得ヘシ然レトモ情彼等カ爲セル迹ヲ見ルニ全ク森林ニ關スル觀念ヲ缺如セリト認ムルコト難ク唯斯道ノ知識乏シクシテ森林ノ存在カ社界民衆ニ向テ如何ナル效用ヲナシ其ノ荒廢カ如何ナル毒刃ヲ振フモノナルカヲ自覺セサルカ爲メ之ヲ養護シ之ヲ撫育シテ利用厚生ノ道ヲ圖ルヘキコトヲ知ラスト云フニ外ナラス今彼等カ單純ナカラモ樹木若ハ林木ヲ一定ノ用途ニ供セルモノヲ見レハ或ヒハ松ヲ植栽シテ之ニ保護ヲ加ヘ父祖ノ墳墓ヲ飾リテ其ノ風致ト尊嚴ヲ維タンコトヲ圖レルアリ或ハ部落ノ前面ニ方リ樹幹目通徑尺以上ニ及ヘル長狹ノ松林往々數町歩以上ニ亘レルモノヲ造成シテ部落民燃料ノ資ヲ採ルノ外部落ノ曝露ヲ防カントスルニ出テタルモノアリ或ハ殊ニ江原道海岸ニ於テ屢々存スルカ如ク樹齡百年乃至百五十年以上ニ達セル數町歩以上ノ防風林ヲ造レルアリ此等ハ全ク林政ノ沿革中ニ敍シタル所謂海岸ヨリ三十韓里内ノ禁山ナリシモノ、遺物ナリト認メラル又樹木ヲ利用シタル一例ニ付テ云ヘハ朝鮮ニテハ古來並木ノ制度盛ニシテ必ス十韓里ニシテ楡、五韓里ニシテ赤楊ヲ植エタルモ

ノナリ故ニ今猶檢ヲ十里木(しゆむにむく)赤楊ヲ五里木(かりなむ)ト云ヘリ又村崗ニ一株ノ樺ヲ植エタルモノアリ尤モ北韓地方ニ於テハ罕ニ楡、鹽地、枝垂柳ヲ以テスルモノアレトモ要スルニ此等ハ村民カ談話又ハ協議ノ爲メ此樹下ニ集會スルノ場所トシテ特ニ之ヲ植栽シタルモノニシテ朝鮮ノ方言之ヲ亭子木(ちよぐぢやむく)ト云フ聞説今日世界ノ森林國トシテ範ヲ諸國ニ垂レツ、アル獨逸ニ於テモ昔者神木トシテ部落ノ附近ニ柏ヲ植エ此樹下ニ村會ヲ開キシコトアリテ今猶其ノ餘風遺リ名木トシテ之ヲ保存シ之ヲ郷黨ノ旗幟トシテ愛郷心鼓舞ノ具ニ供セリト云フ豈前陳朝鮮ノ事情ト似タラスヤ只朝鮮ニ於テ惡ムヘクモ半解ノ耶蘇教徒迷信打破ヲ主張シテカ、ル樹木ヲモ伐除セシ箇所少カラスト云フニ至テハ遺憾甚シトス然レトモ要スルニ以上ノ事例ニ徴シ朝鮮人カ森林ニ關スル思想ハ稚鈍ヲ免レスト雖トモ尙血脈ノ通セルモノアリテ之ヲ啓發スルニ方法ヲ以テシ之ヲ指導スルニ道ヲ講セハ愛林思想ノ普及ヲ圖ルコト決シテ悲觀スヘキモノニアラサルヲ信ス現ニ總督府採所ノ造林獎勵ノ方策ニヨリテ近時漸ク面目一新ノ曙光ヲ現出シタルノ觀アルハ爭フ可ラサルコトナリ

次ニ森林ト地方人民トノ關係トシテハ其山間若ハ地元住民ノ生活狀態ニ關係アル事項ハ之ヲ他章ニ讓ルコト、シ從來各地ニ松契又ハ樵契ト稱シ殖樹ニ努メ濫伐ヲ警メ以テ契員各自ノ薪材供給ヲ完フセントスル組合アリキ例ヘハ道光二十一年ノ建設ニ係レル在平壤植松碑蹟蹟ナルモノ、碑文ヲ見ルモ「云々丙寅觀察使李公勉鏡與故老謀所以植松擇十一人俾作以錢十萬植而排納至十年畢而有餘資矣於是衆人同其心力云々而施役勞於封殖勤於守護松日以就今如是茂盛此十一人力也云々」ト勒シテ松契植樹護林ニ貢獻シタル事歴ヲ傳フルモノアリ而シテ此契今猶其形骸ヲ留ムルカ故ニ之ヲ利用善導シテ森林ノ共同施業ニ活動セシムレハ林野ト人民トヲ觸接セシメ森林經營ヲ完カラシムル上ニ於テ裨益スル所其幾何ナルヲ知ラス

願ミルニ朝鮮ノ地山嶽丘岡全土ノ大半ヲ埋メ遠ク展開セル大野殆ント鮮ク自然地方ト山林トノ關係大ニ密邇シ善惡トナク其羈絆ヲ脱スルコト能ハス影響寔ニ峻激ナリ而シテ特定ノ小部分ヲ除クノ外ハ西海ノ孤島尙且ツ概不童兀ノ狀態ナルカ故ニ林産ニ窮迫コソスレ森林ニヨリテ經濟上ノ恩惠ヲ享受スルモノ殆ント罕ナルノミナラス林荒ノ害毒ハ切實ニ地方ヲ壓シ天旱大水屢産業ヲ梗塞シ氣候ノ節調ヲ傷テ人間ノ節制ヲ亡ホシ森林ノ雄嚴崇美全ク滅シテ民心ノ豪邁氣銳ヲ奪ヒ遊蕩濫情終日長キ煙管ヲ啞ミテ東西ニ彷徨セルモノヲ出セルハ因果ハ循環常ナシト雖トモ全ク方今無キニ如カサル土壤瘠壞ノ惡感化ヲ與ヘテ地方民人ヲ支配セルニ職由セスンハアル可ラス要スルニ兩者ノ關係今日ノ如ク慘烈不幸ナルモノナク將來森林經營ノ遲速ハ確ニ地方死活ノ問題ニ關係スルモノ極メテ多キハ疑ヲ容レサル所ナリ

第九款 森林ニ關スル管理監督

森林行政ノ機關ハ屢言ヘル如ク朝鮮林野ノ現在カ未タ官有及要存不要存ノ區別モ具體的ニ確定セサル場合及ヒ財政之ヲ許サ、ルモノアルニ因リ未タ之ヲ完備スルノ機運ニ到ラスト雖トモ統監府時代ニ於テハ光武十一年即チ明治四十年農商工部ニ林業科ヲ置キ農商工部大臣主管ノ下ニ森林ニ關スル政務ニ當ラシメ隆熙二年即チ明治四十二年一月官制改革セラレ、ニ及ヒテ農商工部ニ山林局ヲ設置シ國有林野及一般林業ニ關スル庶政ヲ管掌シ地方ニハ京城大邱平壤木浦鏡城ノ五箇所ニ林業事務所ヲ配置シテ國有原野ノ造林國有森林ノ行政其他一般林野ニツキ諸般ノ調査ニ關スル事項ヲ司ラシメタリ又別ニ國有森林山野處分審查會ヲ設置シ事實上ハ未タ曾テ開議ヲ行ハサリシカ國有森林山野ニ關スル重要ナル處分ニ付キ其審查裁決ヲ經ヘキ機關トセリ然ルニ明治四十二年十月朝鮮總督府官制ノ實施セラレ、ニ方リ農商工部ハ總督府ノ一部トナリ下ニ殖産局ヲ置キ之ニ山林課ヲ配屬シテ森林山野ニ對スル從來ノ政務ヲ行ハシメ地方ノ林業事務所ノ事務ハ各道長官ノ權限ニ移シ國有林野ノ造林苗木ノ養成及配付等事業ニ關スルモノハ勿論凡テ地方ノ森林ニ關スル行政ノ事務ハ各道長官ノ活動ニ俟ツコト、ナレル外各所駐在ノ警察官ヲ以テ管理監督ノ任ニ當ラシムルコトトナレリ

以上ノ設備ニ基キ保安林ノ監督ノ如キ舊森林法カ皆伐開墾ヲ禁止シタルニ拘ラス新森林令ニ於テハ絶對ノ禁止ハ常ニ

保安林ニ伴フヘキモノニアラストシ又舊法カ箇々ノ命令ヲ以テ產物採取ノ制限禁止又ハ林野ノ保護ヲ命シタルニ反シ新令ハ其必要ナル場合ヲ規程ニ列舉シテ地方長官ノ許可ニヨリ初メテ之ヲ行フコトヲ得サラシムルノ方法ニ出テ又林野ノ所有者占有者ニ經營ノ要略ヲ指定シ又ハ造林ヲ命シテ營林ノ監督ヲ行ヒ入會地ノ整理ヲ圖リテ之ニ造林ヲ強制セントシ其他林野ノ保護トシテ或ハ森林ノ使用收益ニ關スル弊風ヲ一洗シ或ハ必要アルトキ一地方一齊ニ害蟲ノ豫防驅除ヲナサンコトヲ企テ或ハ一定ノ利ヲ啗ハセテ地元住民ノ連帶責任ヲ以テ國有林野ヲ保護セシムルノ制ヲ採リタル等中ニハ朝鮮現時ノ林況ニ對シテハ活用ノ場合甚タ少ナキモノアルモ要スルニ將來ヲ慮リ現在ニ鑑ミ善良ニ之ヲ管理監督セントスルノ道ハ茲ニ樹立セラル、ニ至レリ尙陵園墓附屬林野ノ管理保護ニ付テハ別ニ守護員ヲ配置セリ其各墳ニ對スル人員給額ハ左表ノ如シ

第一 一般陵園墓山林守護員調表

陵園墓名	山林守護囑託		山		山		人員計	金額
	人員	金額	人員	金額	人員	金額		
永懷園	三人	一〇〇〇	—	—	—	—	三人	一〇〇〇
洪慶陵	—	—	—	—	—	—	—	—
興慶陵	—	—	—	—	—	—	—	—
獻陵、仁陵	—	—	—	—	—	—	—	—
宣陵、靖陵	—	—	—	—	—	—	—	—
光陵、徽慶園、寧嬪墓	—	—	—	—	—	—	—	—
禧陵、孝陵、睿陵、照慶園	—	—	—	—	—	—	—	—
恭陵、順陵、永陵	—	—	—	—	—	—	—	—
章陵	—	—	—	—	—	—	—	—
思陵、光海君墓	—	—	—	—	—	—	—	—
泰陵、康陵	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—	—	—

陵園墓名	人員	金額	人員	金額	人員計	金額
裕園	—	—	—	—	—	—
照寧園、綏吉園	—	—	—	—	—	—
健元陵、顯陵、穆陵、綏陵、景陵、崇陵、墓陵、元陵、景陵	—	—	—	—	—	—
順康園	—	—	—	—	—	—
敬陵、昌陵、明陵、翼陵、弘陵、順昌園	—	—	—	—	—	—
隆建陵	—	—	—	—	—	—
原慶墓、永慶	—	—	—	—	—	—
義慶陵	—	—	—	—	—	—
齊慶陵	—	—	—	—	—	—
德安陵	—	—	—	—	—	—
定和陵	—	—	—	—	—	—
純慶陵	—	—	—	—	—	—
淑慶陵	—	—	—	—	—	—
肇慶陵	—	—	—	—	—	—
英寧陵	—	—	—	—	—	—
智長陵	—	—	—	—	—	—
莊昌陵	—	—	—	—	—	—
孝慶陵	—	—	—	—	—	—
誠慶陵	—	—	—	—	—	—
綏慶陵	—	—	—	—	—	—
貞寧陵	—	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—

計	員	10,000	員	3,000	員	1,000	員	4,000	員	1,000	員	10,000
---	---	--------	---	-------	---	-------	---	-------	---	-------	---	--------

第二 京城府内陵園墓山林守護員調表

京城府内	内地人山監		鮮人山直		計
	人員	金額	人員	金額	
三	11,000	1,500	1,500	11,000	二八
					110,000

備考

一、右表中洪陵及獻陵、仁陵、裕陵、健元陵、顯陵、穆陵、綏陵、徽陵、崇陵、惠陵、元陵、景陵ノ五區十五陵ノ森林ハ五月二十五日付ヲ以テ李王職へ引繼セルヲ以テ該陵職員モ同日付ヲ以テ解職セリ孝昌園、懿陵、慶嶺墓、綏慶園、懿寧園、貞陵ハ京城府内ナルヲ以テ六月三十日限解職シ第二表ノ内地人山監ニ一人ノ増員ノ上保護セシムル見込

二、第一表ノ人員ハ凡テ朝鮮人ニシテ守護囑託及山監ハ陵園墓ノ職員ニ手當ヲ給シ森林保護ニ當ラシム山直ニハ陵園墓ノ職員ト否ラサルモノトアリ

三、第二表ノ山監(日本人)山直(朝鮮人)ハ皆専任者ナリ

第二章 森林狀態

第一款 地勢氣候

朝鮮ハ咸鏡北道ノ北端北緯四十三度二分ヨリ全羅南道濟州島ノ南端三十三度四十六分ニ至ル約十度即南北ノ延長二百五十里ノ長キニ互リ東西ノ幅員ハ廣キ所ハ六十里ニ達スルモ狹キハ其ノ一半ニ過キス而シテ全面積實ニ一萬三千六百

方里ヲ占メ本州ノ九割一分、舊日本全土(樺太ヲ除ク)ノ四割七分ニ當ル今仁川觀測所ノ調査ヲ見ルニ

一、山脈 半島ニ於ケル山脈ノ主要ナルモノハ北境ニ長白山アリ西南西ヨリ東北東ニ走り恰モ大陸ト半島トノ連接帶ヲナス又之ト略々直角ヲナシテ半島ノ主軸タル朝鮮山脈アリ長白山中ノ主峰白頭山(長白山、白山等)稱アリ山海經ニ所謂不咸山ナリ)ヨリ出テ南走シテ永興灣ノ北方ニ於テ中絶スルモ元山ノ南方ニ於テ更ニ隆起シ東海岸ニ沿ヒテ南岸ニ達ス此山脈中ニハ海拔一千米以上ニ二千米ニ達スルモノ少カラス其他半島ノ北半部ニ於テハ主トシテ東西ニ南部ニ於テハ略々南西ヨリ北東ノ方向ヲ爲セル數條ノ山脈アリ而シテ之等ノ横山脈ノ朝鮮山脈ト交叉スル所ニ於テハ山嶽殊ニ重疊ス斯ノ如ク國內ニ縱横ノ山脈アルカ故ニ到處高峯秀嶺ノ蜿蜒タルヲ見ルモノ半原ノ大ナルモノ甚タ少シ殊ニ北部咸鏡道及平安道ノ内陸地方ハ純然タル高原ニシテ平安道ハ平均六百米咸鏡道ハ一千米ノ標高ニ在リト稱セラル南部ニ於テ主要ナル山脈ハ江原慶尙ノ境界ナル小白山ニ發シ慶尙忠清ノ界ヲナシ秋風嶺ニ於テ京釜鐵道線ヲ過リ更ニ南西ニ走り慶尙全羅ヲ分ツ所ノ小白山脈ノ北部ニハ高峰嶽ナカラサルモ南進スルニ從ヒ山勢緩漫トナリ其ノ他ノ諸山脈モ北部ニ於ケルカ如ク險峻ナラス只山腹ノ傾斜急ニシテ山地ト平野トノ區別截然タルヲ以テ特色トス故ニ一朝多量ノ降雨ニ際會セハ山腹ノ流水忽チ平地ニ流積スルヲ以テ年々雨期ニ際シテ水害ノ厄ヲ見ルモノ蓋シ地勢ノ與ル所少シトセス

二、河川 斯ノ如ク主軸山脈ハ東岸ニ接シテ南走スルヲ以テ東岸ハ傾斜急峻山腹直ニ海ニ入り咸鏡南道咸興附近ニ於テ海岸ヨリ約十里ノ平野アルノ外殆ト平地無シト云フモ可ナリ之ニ反シ西方ハ傾斜稍緩ニシテ黃海沿岸ニハ多少ノ平野アリ從ツテ江河モ多ク西流シテ黃海ニ注ク其主ナルモノハ灌漑舟楫ノ便アルヲ以テ著名ナル都邑ハ多ク其流域ニアリ即チ義州龍岩浦ノ鴨綠江ニ於ケル平壤鎮南浦ノ大同江ニ於ケル京城仁川ノ漢江ニ於ケル群山全州ノ錦江ニ於ケル木浦光州ノ榮山江ニ於ケル皆然リトス又南海ニハ蟾津江ニ河東アリ洛東江ニ大邱釜山等アリ然ルニ東海岸ニハ國境ニ一ノ豆滿江アルノ外河川ノ稱スヘキモノナク從ツテ元山城津ノ開港場ヲ除キテハ古來ノ都邑トシテハ一ノ

三、海流 朝鮮近海ニ於ケル主要ナル海流ハ琉球諸島ノ西方ヨリ分離セル黒潮ノ一支流ノ半島附近ニ至リテ其東西兩岸ニ沿ヒテ北進スルモノ之ナリ即西流ハ黃海ヲ北流シテ殆ント關東州ニ達シ東流ハ對島海峽ノ東西水道ヨリ入りテ咸鏡北道ノ西岸舞水端附近マテ達ス又別ニ西伯利亞沿岸ヨリ南下スル寒流ハ同所附近ヨリ東行シ鬱陵島方面ニ過キ本州ノ西岸ニ沿フテ北上北海道ニ到ル

四、氣象觀測 現今ニ於ケル組織的氣候觀測ノ起源ハ日露戰役ノ開始ニ際シ滿韓ノ各地ニ臨時觀測所ヲ設置スルニ當リ釜山、木浦、仁川、龍岩浦、元山、城津ニ之ヲ置キタルニアリ其後韓國政府ハ更ニ京城平壤大邱ニ之ヲ設置シ現今ハ仁川ニ觀測所ヲ置キ他八箇所ヲ測候所トナシ別ニ簡易ナル觀測ヲ施行スルモノ四十五箇所ヲ有スルヲ以テ氣候調査ノ組織トシテハ略遺憾ナキニ近シ今明治三十七年以來ノ觀測ニ基キ半島ノ氣候ヲ左ニ概敘スヘシ

五、氣溫 年平均氣溫ハ釜山地方ハ攝氏(以下之ニ同シ)十三度餘ニシテ漸次北方ニ遞減シ京仁地方ヨリ元山地方ハ十度餘又龍岩浦附近ヨリ城津附近ハ八度内外ニシテ北部内陸ニ入レハ五度乃至四度トナル之ヲ本土ニ比較スレハ南海ハ福井地方ニ中部ハ信濃地方ニ比スヘク又北方ノ沿海地方ハ函館地方ニ内陸高原ハ恰モ北海道内陸ト相似タリ而シテ年中最暖ナルハ八月最寒ナルハ二月ニシテ其差南部ハ二十三度、中部ハ二十七度、北部ハ三十二度内外ナリ本州ニアリテハ中部ノ沿岸地方ハ其差概ネ二十一度内陸ハ二十四度北海道内陸ハ三十度弱ナルニ比スレハ寒暑ノ差稍大ナルヲ見ル今各地ニ於テ從來觀測セル氣溫高低極ヲ舉ケレハ左ノ如シ

木浦	京城	天津	高		低	
			極	極	極	極
三四、一	(一) 八、七	(一) 一五、八	三四、六	(一) 一五、四	三三、六	(一) 二六、六
三五、五	(一) 二一、四	(一) 二一、四	三三、六	(一) 二六、六	三三、六	(一) 二六、六
			三三、八	(一) 一一、三		

釜山	元山	平壤	壤
三八、二	(一) 二六、三		三五、五
三三、六	(一) 一〇、三		

即チ暖極ハ西岸及南岸地方ハ三十四度内外其他ニアリテ三十五度乃至三十八度ニ達ス斯ノ如キ暑氣ハ本土ニアリテハ到處ニ遭遇スル所ナルモ寒氣ニ於テハ零下十五度乃至零下二十度以下ニ下ルハ北海道ノ各地ニシテ更ニ零下三十度以下ニ下ルハ北海道内陸ノ十勝上川地方ニ間々起ルノミ故ニ寒氣ニ於テハ本土ノ各地ニ比シ稍甚シキヲ見ル氣溫晝夜ノ差モ亦稍著シク中部以南ノ沿岸ハ八度内外ニシテ中部ノ内陸ハ十三度餘北部ノ内陸高原ニ於テハ十七度ニ達スル地方アリ

六、風 全半島ヲ通シテ季節風ノ勢力卓越セルモノアルヲ以テ主風ノ方向ハ季節ニヨリ略一定セリ即チ十月ヨリ四月迄ハ北乃至北西風ニシテ六月ヨリ八月迄ハ一般ニ南東風ナリ雨季節風ノ交代期ナル五月及九月前後ハ風向區々ニシテ一定セス又西岸ハ冬季ノ北西風ヲ受クルカ故ニ此季節ニ於テ風力殊ニ強ク之ニ反シ東岸ハ朝鮮山脈ニ遮ラル、ニヨリ概シテ弱シ而シテ冬季大陸方面ニ高氣壓ノ發達セル時ニ際シ適々日本海方面ニ低氣壓ノ通過スルモノアルトキハ強烈ナル北乃至北西風ヲ起スト共ニ氣溫頓ニ下リ甚シキ時ハ前日トノ差十度以上ニ達スル事アリ然レトモ氣壓ノ配布舊ニ復シ高壓部ノ衰退スルト共ニ風力減シ寒氣亦退クヲ以テ冬季ニ於テハ寒暖ノ日交錯スルヲ常トス俚俗ニ三寒四溫ノ語アルハ蓋シ之ヲ謂フナリ

七、雨雪 雨雪ノ年量ハ半島ノ大部分ハ八百乃至千耗ニシテ南岸ハ此ヨリモ多ク釜山地方ハ千四百耗ニ達ス東岸元山附近ニモ亦多ク千五百耗ニ達ス蓋シ此地方ハ半島ニ於テ最多雨地方タリ而シテ北部内陸高原地方ニアリテハ六百耗内外ニ過キス之ヲ本土ニ比スレハ南岸地方ハ略々瀬戸内海地方ニ比スヘク元山地方ヲ除ク中部以南ハ信濃及兩毛地方ト相似タリ已ニ氣溫ニ就テ此等兩地方ノ相似タルヲ述ヘタルカ氣候ノ斯ク相似タルニ見ルモ近年蠶桑ノ半島ニ適スルヲ稱導セラル、所以ノ偶然ニアラサルヲ知ルヘシ而シテ北部霖雨ノ地方ハ本土ニ於テハ之ニ比スヘキ地方ナシ

然レトモ半島ニ於テハ季節ニ依ル降雨ノ差異著シク十月ヨリ三月ニ至ル乾燥期ニ際シテハ其量極メテ少ク此ノ六月間ノ合計ハ降雨期一箇月ノ量ニモ充タス之ニ反シ六月ヨリ八月ニ至ル間ニ雨量ノ大部分ヲ降下スルヲ常トス故ニ北部地方ト雖トモ降雨期ノ量ヲ以テ比較スルトキハ北海道地方ト敢テ讓ラサルヲ見ル斯ク冬季ノ量寡少ナルヲ以テ北部ニ於テモ積雪ハ甚少シ雨天日數ハ概シテ年百日内外ニシテ南岸及元山地方ハ百三十日内外ニ達ス降雨期ニ於テハ月ノ三分ノ一以上ヲ算スル事アルモ概シテ降雨ノ時間短ク本土ニ於ケルカ如ク霖雨數日ニ互ル如キハ殆ント見サル所ナリ

八、蒸發 斯ノ如ク雨量少ク空氣乾燥ニシテ且ツ日照多キヲ以テ蒸發量ハ甚タ多シ雨量ハ北部ハ千耗餘西岸ハ千四百耗餘南岸釜山地方ハ千五百耗餘ナリ本土ニ於テ蒸發量ノ多キ瀬戸内海地方ト雖トモ半島ノ蒸發寡少ナル地方ト相匹敵スルノミ西岸地方ニ於テ天日製鹽ノ著々效ヲ收メツ、アル故アリト云フヘシ而シテ東岸ノ西岸ニ比シテ蒸發ノ少キハ前述ノ如ク同地方ノ風力弱キモノ其ノ一原因ナラン

九、霧 朝鮮近海ノ濃霧ハ日露戰役以來世人ノ注意スル所トナリシカ濃霧ハ先ニ述フル所ノ東西沿岸ノ暖流方面ニ四月ヨリ八月ニ至ル間ニ屢起リ殊ニ七八月ニ最モ頻繁ナリ濃霧一度襲來スルトキハ溟濛トシテ所謂咫尺ヲ辨セサル程ニシテ其甚シキモノハ三晝夜ニ互リ衰退セサルコトアリ之ヲ爲シ船舶ノ航行ヲ妨クラル、コト尠カラズ

以上概説スルニヨリ半島風土ノ大要ヲ明ニスルコトヲ得ヘシ從來半島ノ事情ニシテ内地人ニ誤傳セラレタルモノ尠カラス氣候ノ如キハ其ニシテ朝鮮全土ヲ以テ寒暑甚ニ酷烈ナリトナシ又ハ雨量寡少ニシテ農耕ニ適セストナスカ如キ説ヲナスモノ間々アリ然レトモ從來ノ實測ハ全然ラサルヲ示スノミナラス却テ本土ノ或地方ニ比スレハ居住ニ適順ニシテ且農桑ニモ佳良ナルモノアルハ近來ノ實績ニ徴スルモ明ナリ況ンヤ暴風雨ノ如キモ本土ニ比シ極メテ尠ナクシテ稍強烈ナルモノハ年ニ一二回ニ過キス又本土ニアリテハ時々多大ノ損害ヲ齎ス所ノ地震ノ如キモ朝鮮ニハ全ク無シト云フモ可ナレハ天然ノ風土ニ於テハ半島ハ眞ニ樂土ト稱スヘキナリ

第二款 森林ノ分布及狀況

朝鮮林野面積ハ約千六百萬町歩ニシテ無立木地ヲ除キタルモノハ千八百八十四萬町歩即チ全面積ノ百分之七十四ニ相當スルモ稚樹發生地タル百分ノ四十二即チ六百七十二萬町歩ハ屢火災ノ難ニ遭ヒ林相ニ變化ヲ重ネシモノニシテ成林地ハ僅ニ百分ノ三十二即チ五百十二萬町歩ニ過キス今其林相ノ大體ヲ云ヘハ濟州島及鬱陵島ハ内地ノ森林ト殆ト差異ナシト雖トモ「ブナ」「トチ」「スギ」「ヒノキ」等自然生ナキハ著シキ事實ナリトス

莞島及南方海岸一帶ハ海流ノ影響ヲ受ケテ其ノ林相稍母國ニ類スレトモ乾燥ニ弱キ樹種ハ生育困難ナリ北方ニ進ムニ從ヒ林相ハ漸次滿洲的ニ變移シ針葉樹ノ分布ハ内地ヨリモ反テ北海道樺太ニ類似スルニ至ル

京城以南ノ丘陵地ハ荒廢最甚シク「アカマツ」ヲ主林木トシ高山ニ上ルニ從ヒ漸次ニ潤葉樹ヲ増加ス

江原道ハ「アカマツ」及潤葉樹ノ廣キ混淆林ヲ有シ南鮮地方ニ於ケル唯一ノ林業地タリ

黃海道及以北諸道ノ沿海地方ハ潤葉樹ノ稚樹地多ク中央山脈ニ近ツクニ從ヒテハ火田侵襲地ヲ除キ漸次原生林ヲ増加スルノ狀態ナリトス森林分布圖及地質圖ハ款末ニ添附ス

遮莫一般ニ森林ノ荒廢甚シクテ森林帶ノ境界ヲ明確ニ知ルコト困難ナルハ當然ナレトモ前款掲グル所ノ如ク朝鮮ノ地南北二百里ニ互リ氣候自ラ異ルカ故ニ植物分布ノ狀況亦一樣ナラス元ヨリ北緯三十三度ヨリ同四十三度ニ至ルモノナルカ故ニ之ヲ水平的ニ云ヘハ朝鮮植物帶ハ暖溫二帶ニ過キサル理ナルモ大陸氣候ノ爲メニ左右セララル、ト又垂直的ニ多少高山ノアルアリテ朝鮮全土ノ森林帶ハ暖溫寒ノ三帶ヲ具備セリト云フヲ得ヘシ

第一節 暖帶

本帶ノ北境ハ概ネ木浦ノ稍北方北緯三十五度ノ附近ニ達シ朝鮮本土ノ南海ヨリ東方ニ進ミ釜山ニ達シテ止ム

暖帶南部 本帶ハ濟州島ノ低地ヲ領スルニ止マリ其所屬ノ現在有用樹種ハ「クスノキ」「イスノキ」ノ二種ニ止マリ其
他ノ樹種トシテハ「ヤマモ」「ヤマビハ」「モッコク」「ダイダイ」「ミカン」等アリ聞ク所ニ依レハ濟州島ハ往時樟林
ヲ以テ蔽ハレ居タル證トシテ現今大靜郡江汀村内河岸ニ野生ノ老大樟樹數株存セルノミナラス嘗テ内地人ニシテ樟ノ
苗木ヲ養成シタルニ霜除ケヲ要セシハ一年生ノ冬期ニ於テノミニ止マリ數年經過ノ今日成長良好ニシテ漢羅山ノ南面
ハ千尺以下北面ハ五百尺以下ノ地ニ於テ充分ノカ造林ヲ經營スルヲ得ヘシト

暖帶北部 本帶ハ水平的ニ云ヘハ北緯三十二度半ヨリ三十五度ニ及ヒ全羅南道ノ約半部慶尙南道南海岸ノ一部及ヒ其
沿岸諸島ヲ包ム之ヲ垂直的ニ云ヘハ濟州島漢羅山ノ南面二千尺北面千五百尺ニ達シ全羅南道莞島ニアリテハ五百尺附
近ニ及フ本帶所屬ノ現在有用樹種ハ主トシテ「カシ」類ニ止マリ此他ノ樹種トシテハ「シイノキ」「ツバキ」「ヤブ
ニッケイ」「カラタチ」「モッコク」「ヤマハゼ」「サルスベリ」等ヲ産ス濟州島二千尺附近ニ於テハ火田ノ慘害ヲ免レタ
ル箇所ニ於テノミ群狀ノ小森林アルモ從來鮮人ノ輪用材トシテ盛ニ伐採セラレ今殘存セルモノハ節瘤樹ニ止マリ只鐵
道枕木車輛材トシテ之ヲ用ウルコトヲ得ヘシ又莞島ノ森林ハ概ネ直徑六寸以下ノ薪材材タルニ過キス「シイノキ」「カ
コカシ」「モチノキ」等ノ森林アレトモ利用シ得ヘキ域ニ達セル程ノ蓄積ナシ

第二節 溫帶

之ヲ水平的ニ云ヘハ半島ノ大部ハ之ニ屬シ明瞭ニ其區別ヲ附シ難シト雖トモ北方ニ偏スル樹種ト南方ニ集マルモノト
アリ即チ柞樹「ミツナラ」「ハリキリ」「シナノキ」「シホジ」「ハルニレ」等ノ樹種ト大體北緯三十九度以北ニ於テ「ク
リ」「コナラ」「アカシデ」「イヌシデ」「イテブ」「ケヤキ」等ノ樹種ハ北緯三十九度以南ヲ以テ各其本據トセリ

溫帶南部 水平的ニ於テハ本帶ハ北緯三十五度ヨリ同三十九度ニ至リ全南慶南ノ北半部全北慶北忠清南北京畿江原
黄海ノ諸道及平南咸南ニ於テハ平壤元山ニ達ス其垂直的ニハ濟州島漢羅山ノ二千尺ヨリ三千八百尺ニ智異山（慶尙全

羅ノ境ニアリ）ノ山麓ヨリ二千尺ニ首陽山（黃海道南海岸）ノ一千尺ニ雪嶽（江原道）ノ八百尺、金剛山（同上）ノ五百尺
ニ及ヒ平壤元山ノ平地ニ達ス元ヨリ其南北兩端ハ夫々暖帶北部溫帶北部ト其樹種互ニ交錯セルハ勿論ナルモ「アカマ
ツ」「イヌシデ」「アカシデ」「コナラ」「アベマキ」等ノ有用樹種ヲ産シ殊ニ「アカシデ」「イヌシデ」ハ最モ豐富ニ
シテ智異山漢羅山表忠寺林（慶南密陽郡）小白山脈等ノ森林ニ存在ス故ニ本帶ニ於テハ椎茸及「コルグ」ノ製造其他柞蠶
ノ飼料ニ利用セラレツ、アリ

而シテ本帶ノ北部黃海江原道ノ如キハ廣ク火田ノ蠶蝕ヲ重ネ變化ヲ加ヘテ遂ニ今日耐火性ニ富マル柞樹、「カシハ」、
「ミツナラ」等ノ稚樹杯甚タ多キニ至レリ

溫帶北部 本帶モ同シク其南部ハ溫帶南部ト境ヲ接スルカ故ニ樹種ノ交雜ヲ免レスト雖トモ大體北緯三十九度ヨリ以
北朝鮮全土ハ其中ニアリ即チ平安南北咸鏡南北之ニ屬ス垂直的ニ云ヘハ漢羅山ノ三千八百尺ヨリ五千尺智異山ノ二千
尺ヨリ四千五百尺雪嶽山ノ八百尺ヨリ三千八百尺鳥嶺附近及小白山脈ノ千二百尺以上五臺山附近ノ千尺以上金剛山ノ
五百尺ヨリ三千五百尺狼林山ノ山麓ヨリ三千三百尺ニ及フ

本區域ハ北方ニ傾クカ故ニ漸次人口稀薄トナリ大體ニ於テ森林ノ荒廢比較的甚シカラサレトモ平地ハ尙開墾其他火田
ノ侵害ヲ被リ今日朝鮮ニ於ケル潤葉樹林ハ主トシテ本帶ニ存ス主林木トシテハ柞樹、「ミツナラ」「オノヲレ」「ハリ
キリ」「シナノキ」「ハルニレ」「ヤマザクラ」「キハダ」等ニシテ其混淆林ヲ現出セリ又往々赤松ヲ混スルノミナラ
ス鳥嶺小白山脈中五臺山附近、雪嶽山附近金剛山腹中、平安南道陽德郡及平北白馬山等ニハ赤松ノ森林ヲ構成セリ但
白馬山ノ赤松林ハ殆ント既ニ伐盡セラレ雪嶽山附近ノ麟蹄方面ハ伐採中ニ屬ス

第三節 寒帶

本帶ハ朝鮮ニ於テハ平地ニ在ラスシテ垂直的ニ之ヲ存ス即チ漢羅ノ五千尺以上全部、智異ノ四千五百尺以上全部、雪

嶽ノ三千八百尺以上、金剛ノ三千五百尺以上、狼林ノ三千三百尺以上之ニ屬シ但金剛ノ頂上五千六百一尺ノ附近及
狼林ノ五千七百尺以上ノ地ハ偃松ノ區域トナス

本帯ノ樹種ハ「シラベ」、「トウヒ」、「クロエツマツ」、「トヤマツ」、「テフセンマツ」、「アラ、ギ」、「ネヅコ」ノ針葉樹
及「シラカンバ」、「マカンバ」等其他ノ闊葉樹ヲ産シ有用樹種多キノミナラス林相亦美ニシテ蓄積豊富ナリ

森林ノ狀況ハ概シテ之ヲ言ヘハ屢陳フル如ク陵園墓林及運搬不便ニシテ人跡ナキ場所ノ外成林地ナルモノナク其他ハ
稚樹發生地及無立木地ナリ其各占領面積ノ比例ハ既ニ掲ケタルカ故ニ茲ニ之ヲ言ハス唯稚樹發生地ハ豫想ノ外多大ニ
シテ以テ朝鮮ノ林業カ絶望スヘキモノナラサルコトヲ證セリ而シテ朝鮮森林中其最大ナルモノハ鴨綠江豆滿ノ流域ニ
於ケルモノニシテ江界慈城厚昌ヨリ長津三水ノ流域一體ヲ蔽ヒ茂山ノ上流地帯ヲ合セテ白頭山下ニ拱集シ大約百八十
萬町歩ノ原生林ナリ樹種ハ森林ノ分布ニ付テ陳ヘタルカ如ク紅松縱落葉松唐檜等ヲ主トシ此外白楡、「アラ、ギ」、「バ
ラモミ」、「ビヤクシン」及闊葉樹トシテ「シラカバ」、「イタヤカヘデ」、「マカンバ」、「オノオレ」支那人之ヲ車輛車輪ニ
使用シ需用多クシテ價格高シ「ヒロバヤナギ」朝鮮人ノ食器ハ主トシテ之ヨリ製作ス「イトヤナギ」、「ハルニレ」、
「シナノキ」、「サハグルミ」、「センノキ」、「コナラ」、「ミツナラ」、「シホジ」等ノ雜木ヲ混淆セリ然レトモ用材トナル
ヘキモノハ比較的多大ナラスシテ徑三尺ヲ越ユルモノ寔ニ少數ナル狀態ナリ

次ニ江原道東海岸ヲ西南ニ連瓦シ北漢江ノ水源地一體ニ蜿蜒セル金剛山成林地約六萬町歩ノ大森林アリ山中屹立天ヲ
摩スルモノ一萬八千峰其最高キモノヲ昆魯峰ト稱シ海拔一千七百米突ナリ樹種ハ朝鮮松、朝鮮檜、「アラ、ギ」、赤松、
「ミネカヘデ」、「シナノキ」、「ミツナラ」、「ハリギリ」、「オノオレ」、「ヤマザクラ」、「シホジ」、「マカンバ」、「ネヅコ」、「ハイ
マツ」等ナリ

次ニ全北ト慶南ノ道界ニ跨リ龍江(洛東江ノ支流)ノ上流ト蟾津江トノ抱フル所約四萬五千町歩ノ智異山アリ海拔一千
百米突唐檜、「シラベ」、海松、赤松、櫟、「ナラ」、「シデ」、雜ノ混淆林ナリ

鳥嶺ハ慶北忠北ノ道界ニ蟠リ開慶ヨリ之ニ入ル往時禁伐林ナリシモ損木ハ之ヲ賣却シタルヨリ自然放火ヲ促スノ狀況
トナリ漸次荒廢ヲ告グルニ至リ周圍六方里ト稱セラレトモ成林地ハ約其半ナランカ赤松ノ純林ノ外「オホナラ」、「コ
ナラ」、「カヘデ」、粟、朝鮮檜、檀木等ノ混淆林亦多シ

莞島ハ全南ノ南海ニアリ林野面積一萬六千町歩ト云ハル、モ二十七年護林機關撤廢後盜伐彌激シテ現今立木地ハ
山ノ中腹以上ニアルノミニシテ其面積ハ林野面積ノ三分ノ一ニ滿タサルヘシ樹ハ椎、櫟、「アキニレ」、「ビヤクシン」、
「アカマツ」、「グロマツ」、「キハダ」、「ツバキ」、「クヌギ」、「ナラ」、雜ノ混生林ニシテ其最モ大ナルモノモ胸高直徑約
二尺高サ五間位ノモノニ過キス

華山ハ京畿道水原府ヨリ西方約二里ノ所ニアル隆陵及健陵ノ陵林ニ係リ荒廢セル森林多キ朝鮮ニ於テ眞ニ群鷄ノ一鶴
トシテ讚美スヘキ大人工造林ニシテ面積約一千三百町歩株數約四百萬本ノ赤松ノ純林ナリ

邊山ハ全羅北道興德灣ノ北方ニ聳ヘ林野面積約一萬五千町歩ニシテ古ハ松ノ美林ナリシト雖トモ今ハ山火多ク草生地
及稚樹地大部分ヲ占メ成林地ハ全面積ノ約三分ノ一位タルヘク用材林木少クシテ松、櫟、「ナラ」、雜ノ薪炭用森林ヲ形
成セルノミ

尙江原ノ麟蹄及平南寧遠森林ノ林況ハ略ホ後章施業ニ關スル事項ノ中ニ之ヲ明ニセルカ故ニ茲ニ陳ヘス
以上ノ外濟州島漢羅山ハ一萬五千町歩松、櫟、「シデ」、櫟、「ナラ」、雜等ノ樹種ヲ有シ忠南安眠島ハ九千三百三十町歩松、
櫟、「ナラ」、雜等江原ノ鬱陵島ハ三千町歩樺一位雜其他平北ノ狼林山ハ海松、「エツ松」、「トヤマ松」、落葉松、雜等ヲ有シ
此等ノモノハ朝鮮ニ於テ有名ナル森林ナリトス

第三款 林木ノ生長量

朝鮮ノ殘存森林ハ近頃造林シタル極メテ小範圍ノモノヲ除ク外ハ原生林往時ノ人工林ニ係リ殆ント老齡林ニシテ林木
中生長ノ停止シ若ハ腐朽ニ傾クモノ多ク結局其壯幼木ノ連年増加スル生長量ト相殺セハ朝鮮森林ノ全體ヲ總括シテ其

大半ハ生長量ニ増減ナク固定セルニ均シト云フヲ得ヘシ
 樹木ノ生長量ハ樹種樹齡林地ノ高低傾斜ノ緩急方位風向日照其他土地ノ理化學的性質ノ相異ルニヨリテ同様ナラサル
 ハ明ナルモ今朝鮮ニ於ケル原生林ニ付キ考フルニ北鮮ニ於テハ例ヘハ咸北ノ西頭水流域ノ如キハ其主要樹種ナル落葉
 松一箇年平均生長量ハ

樹齡	伸長平均生長量	直徑平均生長量	全材積一町步平均生長量
五十年生	一、二〇	〇、一三	五、〇〇
百年生	〇、八四	〇、一〇	四、八〇
百五十年生	〇、六四	〇、〇八	三、九〇

尙湍水流域ニ於ケル落葉松ニ付テハ

樹齡	伸長平均生長量	直徑平均生長量	一町步平均材積生長量
三十年生	一、五〇	〇、一五	一〇、〇〇
三十五年生	一、四五	〇、一五	一〇、〇〇

ニシテ同流域針潤混浴ノ壯幼齡林ニアリテハ生長旺盛平均材積生長量ハ十二尺ノ雜木林ハ四乃至七尺ノ算ス
 而シテ朝鮮北部ニ於ケル原生林ノ比較的優良ナルモノノ林相ハ大同小異ナルカ故ニ大體之ヲ標準トシテ其林木ノ生長
 量ヲ推知スルヲ得ヘク而シテ美良林一町步ノ蓄積ハ約四百五十尺ニシテ毎町平均材積生長量ハ壯幼齡林ニアリテハ
 約八尺ノ老齡林ニアリテハ約四尺ノ各樹齡ヲ通シテ其平均約六尺ニ云フコトヲ得ヘシ更ニ之ヲ江原道麟蹄郡雪嶺山
 ノ森林ニ付テ云ヘハ赤松ヲ主林木トシ五葉松、「モミ」、「ナラ」等ヲ混シ二十年乃至百八十年ノ樹齡ニシテ比較的老齡
 木多ク且ツ疎林ノ部分多ク一町步平均約二百五十尺ノ位ナルカ故ニ一町步平均材積生長量モ亦僅少ニシテ約三尺ニ
 滿タス然レトモ以上孰レモ尙後適當ナル施業ヲ行フニ至ラハ其生長量ヲ増大スルコト元ヨリ論ナキ所トス

次ニ京城附近ニ於ケル既往ノ造林地ナル陵園ノ赤松林ニ付テ其各樹齡ノ生長力ヲ見ルニ

京城附近赤松林地生産力調査表

地名	號	年齡	高	直徑	一反步台本數	材積	一箇年材積成長量	位置	地況
京城府貞陵	一	三五	一九、〇	三、三	六〇〇	〇、四六五	〇、一八六	東側、緩傾斜丘陵地	
裕陵	二	三三	一六、五	四、一	三九〇	一、八二〇	〇、〇八二	東南、五度傾斜	
	三	二八	一七、七	一、〇	一五〇〇	〇、〇九二	〇、〇三六	平地、沖積土(元畑地跡)	
	四	一八	一六、〇	〇、五五	九〇〇	〇、〇〇五	〇、〇〇〇	同	
	五	一四	一六、〇	一、〇	四〇〇	〇、〇三〇	〇、〇一〇	北方、六七度傾斜丘陵地、	
	六	一四	一六、〇	一、九	五〇〇	〇、〇五〇	〇、〇一九	花崗岩風化土	
	七	一〇	一六、〇	一、九	五〇〇	〇、〇五〇	〇、〇一九	花崗岩風化土	
	八	一〇	一六、〇	一、九	五〇〇	〇、〇五〇	〇、〇一九	花崗岩風化土	
	九	一〇	一六、〇	一、九	五〇〇	〇、〇五〇	〇、〇一九	花崗岩風化土	
	一〇	一〇	一六、〇	一、九	五〇〇	〇、〇五〇	〇、〇一九	花崗岩風化土	
	楊州郡東九陵	一一	三五	一〇、〇	三、七	三三〇	一、五二〇	〇、〇七五	片麻岩風化土、北方二十度傾斜山腹
楊州郡光陵	一二	三五	一〇、〇	三、七	三三〇	一、五二〇	〇、〇七五	片麻岩風化土、南方山腹	
	一三	三五	一〇、〇	三、七	三三〇	一、五二〇	〇、〇七五	片麻岩風化土、南方山腹	
	一四	三五	一〇、〇	三、七	三三〇	一、五二〇	〇、〇七五	片麻岩風化土、南方山腹	
	一五	三五	一〇、〇	三、七	三三〇	一、五二〇	〇、〇七五	片麻岩風化土、南方山腹	
	一六	三五	一〇、〇	三、七	三三〇	一、五二〇	〇、〇七五	片麻岩風化土、南方山腹	
	一七	三五	一〇、〇	三、七	三三〇	一、五二〇	〇、〇七五	片麻岩風化土、南方山腹	
	一八	三五	一〇、〇	三、七	三三〇	一、五二〇	〇、〇七五	片麻岩風化土、南方山腹	
	一九	三五	一〇、〇	三、七	三三〇	一、五二〇	〇、〇七五	片麻岩風化土、南方山腹	
	二〇	三五	一〇、〇	三、七	三三〇	一、五二〇	〇、〇七五	片麻岩風化土、南方山腹	
	二一	三五	一〇、〇	三、七	三三〇	一、五二〇	〇、〇七五	片麻岩風化土、南方山腹	

楊州郡光陵	三	五〇	五二〇	八五	一四〇	一四四七〇	〇二八九四	東南二十五度位傾斜 片麻岩風化土
"	四	五〇	三六〇	四〇	二五〇	二二六〇	〇〇五三五	南方へ傾斜地 片麻岩風化土
"	五	五〇	六五〇	一〇五	一一〇	二六二四〇	〇五六一八	東北二十度傾斜山腹 片麻岩風化土
"	六	五〇	四一五	六五	一六〇	六九七〇	〇一三九四	東南方へ約十五度傾斜 片麻岩風化土
"	七	五〇	六〇〇	八八	二三〇	一九〇八五	〇三六八	西方へ十五度位傾斜山腹 片麻岩風化土
京城府孝昌園	一	三三	二九四	三七	二八〇	一八二〇	〇〇八三	西方へ十五度位傾斜 片麻岩風化土
高陽郡西五陵	一	三六	四四七	六〇	二五〇	六三六〇	〇一六七三	西方へ五度傾斜中腹 片麻岩風化土
"	二	三七	四二七	五〇	三三〇	四二二〇	〇一四〇	平地 片麻岩風化土
"	三	三七	四二七	五〇	三三〇	四二二〇	〇一四〇	片麻岩風化土東南中腹 片麻岩風化土
"	四	三七	四二七	五〇	三三〇	四二二〇	〇一四〇	片麻岩風化土平地 片麻岩風化土
容陵	一	二七	三三〇	四一	三三〇	二〇一〇	〇〇七四四	片麻岩風化土 南方十度へ傾斜地山腹
照慶園	二	二七	三三〇	四一	三三〇	二〇一〇	〇〇七四四	片麻岩風化土 西方十二度傾斜地中腹
容陵	三	二八	三三〇	四一	三三〇	二〇一〇	〇〇七四四	片麻岩風化土山頂 片麻岩風化土
坡州郡恭陵	一	二二	二六〇	二八	二二〇	一四四〇	〇一三五六	片麻岩風化土平地
交河郡長陵	一	二〇	二五〇	二五	二二〇	一四四〇	〇一三五六	片麻岩風化土北面へ傾斜地 片麻岩風化土
"	二	二六	三三〇	三七	二二〇	一四四〇	〇〇七八	片麻岩風化土 南側傾斜地中腹
"	三	二六	三三〇	三七	二二〇	一四四〇	〇〇七八	片麻岩風化土山麓 片麻岩風化土
"	四	二六	三三〇	三七	二二〇	一四四〇	〇〇七八	片麻岩風化土 西方七八度へ傾斜地中腹
"	五	二六	三三〇	三七	二二〇	一四四〇	〇〇七八	片麻岩風化土 十五度北面傾斜地中腹
"	六	二六	三三〇	三七	二二〇	一四四〇	〇〇七八	片麻岩風化土平地

水原郡花山	一	三三	三九〇	六二	一	六九三五	〇三三三	山頂
"	二	三三	三九〇	六二	一	六九三五	〇三三三	傾斜約二十度南西ノ中腹
"	三	三三	三九〇	六二	一	六九三五	〇三三三	北西側傾斜前
"	四	三三	三九〇	六二	一	六九三五	〇三三三	南西ノ傾斜地
"	五	三三	三九〇	六二	一	六九三五	〇三三三	北西側傾斜地
京城府洪陵	一	一一	一一〇	一七	三三	五〇三三	〇七三三	北西側傾斜地
"	二	一一	一一〇	一七	三三	五〇三三	〇七三三	花崗岩風化土
"	三	一一	一一〇	一七	三三	五〇三三	〇七三三	東北面二十度ノ傾斜地中腹
"	四	一一	一一〇	一七	三三	五〇三三	〇七三三	東北側谷地
"	五	一一	一一〇	一七	三三	五〇三三	〇七三三	東北側傾斜地
"	六	一一	一一〇	一七	三三	五〇三三	〇七三三	東向山腹
"	七	一一	一一〇	一七	三三	五〇三三	〇七三三	南西側谷地

次ニ近次造林ヲ獎勵シ鮮人ノ植林思想ヲ喚發セシメンカ爲メニ生長ノ最速カナル樹種ヲ植栽シタルモノ、生長量ニ付テハ次章造林ノ成績ノ款ニ掲グルコト、セン

之ヲ概言スレハ原生林ニ於テハ伐期ヲ經過シタル老齡樹ヲ混スルモノ多ケレトモ一般ニ總括シテ平均樹齡ヲ八十年ト見レハ大差ナカルヘシト信ス然ルトキハ其總蓄積ハ十一億八千九百萬尺ベナルカ故ニ一箇年ノ平均總生長量ハ約千四百八十六尺ベトナル

尙此外ニ六百七十二萬町歩ノ稚樹生育地ノ生長量ヲ平均一町歩二尺ベト見積レハ大差ナカルヘク然ルトキ其總生長量ハ千三百四十四萬尺ベトナル

以上二者ヲ合シタルモノハ朝鮮無木立ヲ除キタル森林地林木ノ總生長量ニシテ即チ二千八百三十萬尺ベトナルノ計算ト云フヘシ

第四款 未利用林ノ蓄積及面積

本事項ニ付テハ未タ正確ナル數ヲ知ルコト能ハサルモ大體ニ於テ云ハ朝鮮全土ノ成林地總蓄積ハ大約十一億八千九百萬尺、其面積ハ屢云フ如ク約五百十二萬町歩一町歩ノ平均材積約二百三十二尺、強トナル今之ヲ營林廠所管地ト其以外ノモノトニ分テハ前者ハ其蓄積約六億尺、其面積約二百萬町歩一町歩平均材積約三百尺、後者ハ蓄積五億八千八百萬尺、ニシテ面積三百十二萬町歩、其平均材積百八十八尺、強トナル
以上ノ蓄積ニ對シテ年々營林廠及個人ニ於テ若干ノ伐採ヲ繼續セルモ其利用未利用ノ總材積ニ至テハ一二ノ箇所ヲ除クノ外今日未タ施業案ノ編成タモ見サル時期ナレハ之カ確實ナル數ヲ知ルコト能ハサルモ大體ニ於テ云ハ其利用シ得ヘキ材積ハ六億六千六百九十萬尺、即チ總蓄積ノ約五分強ニ當リ營林廠所管地内ニテハ官民林ヲ合シテ三億五千萬尺、即チ同所管地全蓄積ノ約五割強同所管地以外ニテハ三億六千五百四十萬尺、即チ其地域全蓄積ノ約六割二分強トナル、即チ此等ヲ總蓄積ヨリ控除シタルモノハ運搬交通不便ニシテ到底林業經營上經濟的價值ヲ有セサル純粹未利用ニ終ルヘキ蓄積トナリ實ニ五億二千二百十萬尺、即チ總蓄積ノ約四割五分弱ニシテ其面積ハ約二百二十五町歩トナルナリ

第五款 適應樹種

朝鮮南北二百五十里森林ノ分布同シカラス即チ樹種ハ氣候、土性、肥瘠、方位、其他理化學的ノ關係ニヨリテ各其適應スル所ヲ異ニスレトモ今日多年荒廢ノ餘ヲ受ケテ殘存セル原生林並ニ既成人工林ノ樹種ハ要スルニ其生存競争ノ優勝者トシテ其適應性ヲ發揮セルモノニ外ナラス
其固有ノ樹種ハ約三百種ナリトハ人ノ稱スル所ニシテ今其普通ノモノヲ各用途ニヨリテ掲ケレハ

一、薪炭村トシテハ

樺、「コナラ」、「オホナラ」、「ミヅナラ」、「カシハ」、「アベマキ」、「ハンノキ」、「アカシデ」、「イヌシデ」、「サハシハ」、「ヲノヲレ」

二、建築材

「イテフ」、「アカマツ」、黒松、朝鮮松、朝鮮樺、落葉松、唐楡、「シラベ」、栗、樺、「シホジ」

三、枕木

落葉松、栗、「ケヤキ」、「シホジ」、「ハリキリ」、「ナラ」

四、抄紙材料

「シラベ」、「トウヒ」、「ドロノキ」

五、燐寸軸木

「シナノキ」、「ドロノキ」、「ノブノキ」、「ヤマナラシ」、朝鮮松、赤松、朝鮮樺

六、器具用

ナラ類、「シホジ」、「ケヤキ」、「ネムノキ」、「イヌエンジユ」、「イデノキ」、「ヤマハンノキ」、「モミヂ」、「イダヤカヘデ」、「ヤマサクラ」

七、叢ノ培養材料

「アカシデ」、「イヌシデ」、「クヌギ」、「ナラ」類、栗

更ニ之ヲ固有樹種ト限ラス、テ現在成育セルモノニ付キ南中北ノ三部ニ分チテ適應ノ樹種ヲ掲記スレハ左ノ如シ

一、南 鮮

「マタケ」、「ハチク」、「イテフ」、赤松、黒松、朝鮮松、栗、樺、「アベマキ」、「ナラ」類、「ケヤキ」、「キリ」、「ネムノキ」、「チヤンチン」、「ヒノキ」、「サハラ」、「ポブラー」、「ドロアカシヤ」、「インビツビヤクシン」

二、中 鮮

「イテブ」、赤松、朝鮮松、落葉松、朝鮮樺、栗、櫟、柏、「アベマキ」、「ナラ」類、「ケヤキ」、「ヤマナラシ」、「キリ」、「シホジ」、「シナノキ」、「ハリノキ」、「ドロノキ」、「ボブラー」、「アカシヤ」
 三、北 鮮
 赤松、落葉松、「シラベ」、唐松、朝鮮松、朝鮮樺、栗、櫟、柏、「アベマキ」、「ヤマナラシ」、「ナラ」類、「シホジ」、「シナノキ」、「ハリノキ」、「ドロノキ」、「ボブラー」、「アカシヤ」

第六款 森林ノ價格

森林ノ價格ハ林地ノ價格ト林木ノ價格トノ合計ニシテ其絕對的林地ナルト關係的林地ナルトニヨリ價格ノ算定ニ自ラ差異アルヘキハ當然ナリ而シテ其絕對的林地ニアリテハ森林生産力ヲ基礎トセル土地期望價及伐期收入ノ後價ヲ樹齡ノ當該年次に於ケル前價ニ改メタルモノヨリ同上年次に於ケル費用ノ前價ヲ控除シタル殘餘即チ林木期望價ノ二者ニヨリテ得タル眞ノ林業上ノ價格ヲ標準トシテ其森林價格ヲ定メサル可ラサルコトモ亦言ヲ俟タズ然レトモ現在朝鮮ニ於ケル森林ハ大部分原生林ニシテ各林木ノ樹齡亦同シカラサルモノ多ク又殆ント全土ニ互リテ完全ナル施業案ノ編成セラレタルモノナク從テ其各所ノ森林ニ於ケル作業ノ種類方法輪伐齡乃至收支計算等ノ確實ナル標準定マラス今之ヲ各林地ニ就キ創始的ニ精密ニ調査セントスルモ多數ノ技術上ノ裝置ト歲月ヲ費ヤスニアラスンハ此意味ニ於ケル眞ノ森林價格ヲ具體的ニ算出スルコトハ不可能ト云ハサル可ラス又元ヨリ從來朝鮮ニ於テカ、ル方法ニヨリテ其價格ヲ算定シテ森林ノ賣買セラレタルモノナケレトモ燃料肥料等ノ採取用又ハ墓地設置ノ目的等ヲ以テ從來行ハレタル賣買ニ付テハ其價格ノ算定法ハ甚タ不明瞭ニシテ尤モ土地ノ便否稚樹ノ疎密及樹種等ニヨリテ價格ニ差異アルハ勿論ナルモ單純ニ相互ノ協定ニ依リテ賣買セラル、ニ過キス殊ニ墓地設定ノ目的トスル場合ノ如キハ恰モ骨董物的ニ其價格ヲ定ムルモノ、如シ唯現今黃海道地方ニ於テハ一箇年ノ平均收入ヲ見込ミ其總額ノ約三倍ヲ以テ賣價ノ標準トスルノ習慣

アリ之モ朝鮮人間ニ於ケルモノハ母國人ニ對スル場合ヨリモ低廉ナルヲ常トスレトモ母國人ニ對シ右ノ方法ニヨリテ計算セラレタル賣價ハ稚樹生育山ハ一町步約十圓乃至十七圓位ノ所トス

次ニ營林廠ニ於テ從來個人伐木ニ對シテ之ヲ買收スルノ外原木料ヲ徵收シテ個人ノ自由賣買ヲ許セルモノヲ見ルニ其

原料ハ

四十一年度	丸角材	三九、五九〇	二三、七四八
四十二年度	〃	三二、八九七	一八、六三〇
四十三年度	〃	六、三六二	三、二五六

ナルカ其造材歩合ヲ從來同廠ノ實行事跡ニ徴シ平均五分七厘トシテ計算セハ右表ノ原木材積及其原木料單價ノ

四十一年度	六九、四五六	原木料單價	〇、三四二
四十二年度	五七、七一四	〃	〇、三二三
四十三年度	一一、一六一	〃	〇、二九二

ニシテ右三箇年ヲ通セル平均單價ハ三十一錢九厘トナル然ルニ可用材ノ伐木モ今後ハ漸次利用困難ノ方面ニ進入スルヲ要スルカ故ニ平均原木料單價ヲ右三十一錢九厘ノ二割減ト假定スルトキハ二十五錢五厘トナル而シテ今單純ニ林木ノ價格ハ即チ森林ノ賣買價格ナリトシ更ニ之ヲ標準單價トシテ見積ラハ前ニ掲ケタルカ如ク在鮮可用總材積ハ六億六千六百九十一萬尺ベナルカ故ニ其總價格ハ實ニ約一億七千餘萬圓トナルノ計算ト云フヘシ

第三章 造林

國ノ經營スル造林事業ハ主トシテ京城府ニ模範造林トシテ施行セリ其面積植付苗數等ハ第一號表ノ如ク主ナル樹種ハ京城附近ニアリテハ「アカマツ」、「ニセアカシヤ」ニシテ其他ノ箇所ニアリテハ「クヌギ」ヲ主トス

第一款 特種ナル造林法

朝鮮ニ於ケル薪炭材ノ缺乏ハ其ノ極ニ達セリ一例ヲ舉グレハ天然樹木ノ比較的スキ平安南道ニ於テスラ江西郡地方ニアリテハ普通農家一日ノ薪炭料ハ二十四錢(温突燃料トシテ松葉ニ把一付八錢)ニシテ彼等生活費ノ過半ヲ占ムルコト明カナリ尤モ薪材ノ大部分ハ國有山野ニ於テ盜採スルモノナルカ故直接如上ノ金額ヲ支拂フモノ少ナキモ彼等カ之レカ爲メ費ス所ノ時日ヲ計算スル時ハ如何ニ國民經濟上薪材林經營ノ急務ナルヤ推知スルニ難カラス況ンヤ滿目荒涼タル朝鮮山野ノ現狀ハ造林ノ急ヲ告グルコト甚タ切ナルニ於テオヤ

而シテ朝鮮ニ於テテハ

一、民力未タ低クシテ家屋ノ建築簡單ナルコト

二、建築ニ多ク土石材ヲ用フルコト

三、空氣一般ニ乾燥シ木材ノ保存期甚タ長キコト

等ノ爲メ今後用材ノ需用額ハ薪材ニ比シ著シキ増加ヲ見サルヘシ故ニ朝鮮ニ於ケル造林ハ薪材林造成ニ重キヲ置カサルヘカラストナシ專ラ此趣旨ニ依リ獎勵ヲ行ハントセリ

薪材林造成ハ如斯急ヲ要スルモ其經營ヲ國費ニテ行フコト容易ナラサルカ故第二章造林獎勵ノ款ニ述ヘタル方法ヲ取リ勉メテ民間ノ造林ヲ獎勵シツ、アリ而シテ荒廢セル山嶽地ノ造林ハ失敗ノ虞アリ若シ一回ト雖失敗スルアラハ造林獎勵上悲シムヘキ影響ヲ及ホスヘク加フルニ民力未タ大造林ヲ營ムニ適セサルノミナラス造林思想亦甚幼稚ナルヲ以テ可成簡易ナル造林方法ヲ執ラシメ且ツ山嶽地ヲ避ケ山麓、河岸又ハ溪谷等ニ於テ隨所ニ展開セル面積餘リニ廣大ナラサル荒蕪地ニ造林地ヲ選定セシムルコトハ最モ其機宜ニ合シタルモノトス

故ニ從來造林獎勵ノ方針ハ

- 一、植栽本數ハ少クトモ多人數ニ普ネク行ハシメ其ノ
- 二、造林スル場所ハ屋敷廻リ、畦畔、山麓、堤防、貯水池上流等ヲ主ナルモノトス
- 三、樹種ハ植栽容易ニシテ生長速ク土地及被害ニ對スル適應力強ク且ツ萌芽性ノモノヲ主トス
- 四、栗ハ材ヲ産スルノ外主トシテ實ヲ採取セシムル爲メ植栽セシムルコト、シ

ロ、保安林

地被裸出シテ普通ノ施業ヲ爲スコトヲ得サル所其他保安林トシテ取扱フヘキ箇所ノ造林ハ個人經營ニ困難ナルカ故國ニ於テ造林スルノ外ナカルヘシ

造林ノ方法ハ普通植栽ト砂防工植栽トアリ普通植栽ハ溪間等ノ草生地ニ施行シ砂防工植栽ハ流砂地ニ施行ス砂防工事ハ張芝工及積芝工ニシテ他ノ工種ヲ用ヒス之レ朝鮮山野ノ荒廢甚シキニ反シ雨量少キカ故内地ノ如ク多費ヲ要スル工事ヲ行フノ要ナキカ故ナリ

植付樹種ハ普通植栽地ハ「ニセアカシヤ」、「アカマツ」ヲ主トシ砂防工地ハ「アカマツ」ヲ主トス而シテ明治四十年以來實行シタル面積苗數ヲ左表ニ示サン

第一號表 既往造林地一覽表

道名	箇所	四十年		四十一年		四十二年		四十三年		四十四年		計
		面積	種苗數	面積	種苗數	面積	種苗數	面積	種苗數	面積	種苗數	
京畿道	京城府	九三、六四八、四六本	—	五〇〇、〇〇〇、〇〇〇本	—	一、五七〇、〇〇〇、〇〇〇本	—	五三三、〇〇〇、〇〇〇本	—	六、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇本	—	八、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇本
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
水原郡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

京畿道	開城郡	成績		樹種	成績		樹種	成績		樹種	成績	
		枯損歩合	生長狀況		枯損歩合	生長狀況		枯損歩合	生長狀況		枯損歩合	生長狀況
小計	九二	六八	六二		五〇	〇〇		五〇	〇〇		五〇	〇〇
慶尙北道	大邱府											
平安南道	平壤府											
小計	四六	三三	四四		一七	七六		一〇〇	〇〇		一〇〇	〇〇
合計	一三八	一〇一	一〇六		六七	〇〇		五〇	〇〇		五〇	〇〇

前表中京城附近ニ造林シタルモノ、大部ハ砂防工植栽ニシテ其ノ面積六四四町八ナリ而シテ植栽後ノ成績ハ概シテ良好ナリ

而シテ朝鮮ニ於テハ此等ノ造林ヲナスニ方リ種子ノ貯藏ヲ嚴密ニスルハ勿論播種期節ノ如キハ南鮮三月下旬北鮮四月上中旬ヲ擇フヘク又北鮮ニ於テハ赤松ノ如キハ霜除ケヲ必要トス又氣候乾燥スルカ故ニ床替ノ際ナト掘取後植付迄根葉ノ水分蒸發セサルヨウ注意ヲ要ス種子ノ採集貯藏ニ困難ナル白楊類ノ如キハ普通ハ挿木法ニ依レリ

第二款 造林地ノ成績

今既往造林地ニ於ケル成績ヲ舉グレハ左ノ如シ

- 一、樹種別、樹種ハ工種ニ依リ異ナルヲ以テ更ラニ之ヲ細別スレハ
- (一) 砂防工地ニ植付クル樹種ハ「アカマツ」及「ニセアカシヤ」ヲ主トシ更ニ「ヤマハンノキ」等適當ノ樹種ヲ加フ其成績左ノ如シ

樹種	成績		樹種	成績		樹種	成績	
	枯損歩合	生長狀況		枯損歩合	生長狀況		枯損歩合	生長狀況
アカマツ	二五%	稍緩	ニセアカシヤ	五〇%	迅速	ヤマハンノキ	四〇%	迅速

(二) 普通植栽ヲナス樹種ハ「グリ」、「クヌギ」、「アカマツ」、「ニセアカシヤ」、「白楊樹種」ヲ主トス其成績左ノ如シ

樹種	成績		樹種	成績		樹種	成績	
	枯損歩合	生長狀況		枯損歩合	生長狀況		枯損歩合	生長狀況
クヌギ	三〇%	稍速	アカマツ	二二%	中	白楊類	一二%	迅速
タヌギ	四〇%	稍緩	ニセアカシヤ	一五%	迅速			

此ノ外少量ノ「クヌギ」播種造林ヲ行ヒシモ成績餘リ良好ナテス
尙北漢山中樑ト松トノ混淆造林ヲ行ヒタル箇所ノ如キハ其生長年々中絶シナカラ遅々タル成育ヲナセルニ松ハ却テ生長可良ニシテ今ハ樑ハ松ヲ保護スルノ力ナキノミナラス松ノ手入間伐ヲナサレハ樑ヲ枯死セシムルノ憂アリ

地方別	成績		地方別	成績		地方別	成績	
	枯損歩合	生長狀況		枯損歩合	生長狀況		枯損歩合	生長狀況
京城地方	三七%	中	大邱地方	三三%	稍良	平壤地方	四五%	稍良
水原地方	三八%	稍良	開城地方	二七%	中			

三、年度別ニ成績ヲ舉グレハ左ノ如シ

年 度	成績		年 度	成績	
	枯損歩合	生長狀況		枯損歩合	生長狀況
四十一年度	七二%	概シテ不良	四十二年度	四二%	概シテ稍良
四十一年度	三四%	概シテ稍良	四十三年度	一一%	概シテ良好

朝鮮ニ於テハ三、四月ノ頃ハ乾燥スルカ爲メ樹木ノ生長中絶シ七、八月ノ頃雨期ニ入りテ之ヲ回復スルモ大體ニ於テ

内地ヨリモ一般ニ生長遅鈍ノ傾キアリ
 然レトモ造林實行ニ關スル成績ヲ見ルヘキ方法トシテ四十四年春總督府山林課ノ調査シタル「ピラミットヤマナラシ」
 シ、「テフセンドロノキ」及「ニセアカシヤ」ノ生長量ノ如キハ旺盛ナルモノナリ左ニ之ヲ舉ケン
 第一號表ノ生長量ハ主トシテ庭園木若ハ並木ヲ標準トシタルモノニシテ造林ヲナシタル場合ニ比シ材積生長稍過多ナルヤノ觀アリ故ニ第二號表ニ於テ造林地ノ收穫豫想ヲナスニ當リ其生長總材積ハ一號表所載材積ト同一ナリト見做シタル場合ヲ甲トシ第一號表所載材積ノ八割ト見做シタル場合ヲ乙トシ一號表所載材積ノ六割ト見做シタル場合ヲ丙トシ三種ニ區別シテ豫想ヲ立テタルモノナリ

一號表 植栽後各年生長量

植栽後年數	ピラミットヤマナラシ			テウセンドロノキ			ニセアカシヤ		
	胸高直徑	樹高	材積	胸高	樹高	材積	胸高	樹高	材積
一	七	一四	〇、〇〇九	六	一一	〇、〇〇六	五	一一	〇、〇〇五
二	一四	二二	〇、〇〇九	一八	一六	〇、〇〇七	一一	一三	〇、〇〇六
三	二二	二七	〇、〇〇三	二四	二一	〇、〇〇五	一七	一七	〇、〇〇六
四	二八	三三	〇、〇〇三	二九	二五	〇、〇〇五	二二	二二	〇、〇〇六
五	三五	三九	〇、〇一〇	三三	二九	〇、〇〇七	二五	二四	〇、〇〇六
六	四三	四五	〇、〇一七	三九	三三	〇、〇〇九	三二	二七	〇、〇〇六
七	五一	五二	〇、〇二二	四四	三九	〇、〇一四	三九	二九	〇、〇〇六
八	五九	六〇	〇、〇二七	四九	四四	〇、〇一七	四五	三三	〇、〇〇六
九	六七	六八	〇、〇三二	五四	四九	〇、〇二〇	五二	三九	〇、〇〇六
一〇	七四	七五	〇、〇三九	六〇	五五	〇、〇二五	六〇	四五	〇、〇〇六
一一	八二	八三	〇、〇四六	六六	六一	〇、〇三〇	六七	五一	〇、〇〇六
一二	八八	八九	〇、〇五三	七二	六七	〇、〇三五	七三	六一	〇、〇〇六
一五	一〇六	一〇七	〇、〇六五	八四	八〇	〇、〇四三	八四	七三	〇、〇〇六

一七	一六	五	二、三六二	八	五	一、一〇五			
二〇	二八	六	二、八九五	九	五	一、〇四〇			

備考

一、「ピラミットヤマナラシ」及「テウセンドロノキ」ハ〇、六ヲ胸高形數トシテ計算セリ
 二、本調査ニ供シタル樹木數ハ「ピラミットヤマナラシ」六十本、「テウセンドロノキ」二十八本、「ニセアカシヤ」二十三本ナリ

二號表 造林地一町歩ノ收穫豫想

其一 ピラミットヤマナラシ

植付本數 三千本

伐期 二十年

年度	間伐年伐	一樹ノ占 顔面積	伐木本數	一本ノ材積			伐採全材積		
				甲	乙	丙	甲	乙	丙
計	二〇		三、〇〇〇	二、八九五	二、三三二	一、七三七	三、七六八	三、〇一五	二、二八二
	一五	一五	七五〇	一、九一四	一、五五五	一、一五二	二、一七一	一、七三七	一、四〇八
	一〇	一〇	四〇〇	〇、七九三	〇、六三三	〇、四七二	八六四	六九一	五二八
	五	五	一、〇〇〇	〇、一〇一	〇、〇〇八	〇、〇〇六	一〇一	八二	六二

其二 テウセンドロノキ

植付本數 三千本

伐期 二十年

適潤地	乾燥地	表土淺キ乾燥地	地況地方
カヘデマ類	アカマツ類	アカマツ類	全南
クサノキ類	ニセアカシヤ類	ニセアカシヤ類	慶全北北
ナラギ類	アカマツ類	アカマツ類	忠慶南
スナギ類	ニセアカシヤ類	ニセアカシヤ類	黄忠海北
ハリギ類	アカマツ類	アカマツ類	江京原畿
クヌギ類	ニセアカシヤ類	ニセアカシヤ類	咸平南
クヌギ類	アカマツ類	アカマツ類	平北
ナラギ類	ニセアカシヤ類	ニセアカシヤ類	咸北
ハリギ類	アカマツ類	アカマツ類	
クヌギ類	ニセアカシヤ類	ニセアカシヤ類	
クヌギ類	アカマツ類	アカマツ類	

ハ、朝鮮ニ適當スヘキ人工造林樹種別表

カシワ類	落葉潤葉樹	薪炭、普通用材	下等地ニ耐ユ	寒氣ニ強シ、性耐有ニ適ス
ナラギ類	同	薪炭、普通用材	同	多クハ寒氣ニ強シ、性耐有ニ適ス
カヘデマ類	同	薪炭、普通用材	中等以上ノ地	種苗稍廉、造林容易、生長旺盛、丸物漆器木地トシテ優良ナリ
クルミ類	同	薪炭、普通用材	上等ノ地	銃床ハ此材ニ限ルモ世界ヲ通シテ缺乏ノ傾アリ、軍事上必要ノ良材ナリ
ヤマハンノキ類	同	銃床用、子實用	下等地ニ強シ	養苗造林稍難キ、缺點アルモ生長稍速地ニ於テモ最旺盛ナリ
ハンノキ類	同	薪炭、普通用材	濕地ニ強シ	養苗稍難キ、缺點アルモ多濕地ニ最モ適長ノ樹種ナリ
ケヤキ類	同	漆器用、普通用材	中等以上ノ地	種苗廉、生長旺盛大ナルハ裝飾用材トナル
ウルシ類	同	小漆液、子實用	稍上等以上ノ地	漆液ハ古來朝鮮ノ名産ナルモ今大ニ衰微ス
ホノノキ類	同	指漆用、普通用材	中等以上ノ地	簡易ナル漆器用材トシテ最良、生長旺盛
ハリギリ(センノキ)	同	普通用材、下駄	同	造林容易、生長旺盛
クロマツ	常緑針葉樹	薪炭、普通用材	沿岸ニ近キ溫暖地ナレハ下等地ニモ強シ	南部ノ海邊地方ニ適ス、魚附林、風致林、防風林ニモ適ス
テフセンゴエフマツ	常緑針葉樹	薪炭、普通用材	中等以上ノ地	造林容易、生長旺盛
シラベ	同	普通用材	同	水源涵養、風致等ニモ適ス
トヤマ	同	同	同	
エゾマツ	同	同	同	
ヒノキ	同	同	中等以上ノ暖キ濕地	
サワラ	同	同	中等以上ノ暖キ濕地	
スギ	同	同	中等以上ノ暖キ濕地	

一、施業面積

事業區名	針葉樹林	潤葉樹林	計
新生	四、〇八六	七、〇九七	一一、一八三
新倉	四、五六七		四、五六七
社倉	一〇、一九五		一〇、一九五
計	一八、八四八	七、〇九七	二五、九四五

備考 新倉、社倉兩事業區ノ潤葉樹林及各區ノ潤葉樹散生地ハ目下利用困難ナルヲ以テ伐採ヲ見合スコト、シ又稚樹火田地ハ將來ノ成林ヲ待テ施業スルコト、セリ

一、樹種

針葉樹林 「エゾマツ」、「シラベ」、「アラ、ギ」等
潤葉樹林 「ナラ」、「モンゴリカシワ」、「カヘデ」類

一、可用材積

事業區名	針葉樹	潤葉樹	計
新生	二、〇八〇、八五九	三、三三三、四三〇	五、四一四、二八九
新倉	二、〇四九、四七八		二、〇四九、四七八
社倉	五、六七七、四六七		五、六七七、四六七
計	九、八〇八、八〇四	三、三三三、四三〇	一三、一四二、二三四

一、施業方法

針葉樹 エゾマツ 連年擇伐喬林作業
潤葉樹 ナラ 連年擇伐喬林作業

一、輪伐期及回歸年

輪伐期 (針潤共) 百二十年

回歸年 三十年

一、擇伐面積及年伐額

事業區名	擇伐面積	年伐額	備考
新生	三七三	三七、二四一	針葉樹、潤葉樹合計
新倉	一五二	一八、二四一	針葉樹
社倉	三四〇	四七、六七一	針葉樹
計	八六五	一〇三、一一三	同

一、山元單價

針葉樹

生泉 兩事業區 尺ベニ付 十一錢四厘

新倉 同 八錢

潤葉樹

生泉事業區 同 六錢九厘

一、運材

斫出 伐木箇所ト機出始點間ノ運材ニシテ雪上挽出ニ據リ從來機其他ノ運材機關ヲ用ヒタルコトナシ
機出 谷ノ終點ヲ始點トシ管流始點迄(一里乃至三里間)雪上牛挽機ヲ使用シ一機積載量ハ平均一尺ベトシ大材搬出

ハ牛二頭ヲ使用ス

管流 春季雪融水ヲ利用シ編筏所迄三里乃至六里(社會事業區ハ更ニ三四里ヲ加フ)ノ間ヲ管流ス
筏流 編筏所ハ寧遠郡永寧面立石里、快樂面生泉、永清面場巨里及徳川郡和順里ニ之ヲ設ケ二十尺乃至四十尺
ヲ一筏トシ徳川郡洞河水(和順里ヨリ數里)ニ至リ合筏シテ約八十尺ノ筏トナシ平壤ニ至ル立石里和順里ヨリ洞
河水迄二日乃至三日洞河水平壤間七日乃至十五日ノ流筏日數ヲ要ス

乙、江原道麟蹄郡雪嶽山事業區假施設案ノ要領

一、場所 江原道麟蹄郡雪嶽山

一、面積

普通施設地 一五、〇八七
施設制限地 四、三二一 合計 二〇、二九六
除地 八八八

一、樹種及林種

「アカマツ」、「モミ」、「ナラ」、「オノオレカンバ」、「シデ」類ノ針潤混合林

一、可用材積

針葉樹 一、四二〇、三〇二
潤葉樹 一、五一四、四四〇 計 二、九二四、七四二

一、作業種

(一)「ナラ」、「オノオレカンバ」ノ喬林擇伐作業

輪伐期 一〇〇年

回歸年 二五年

(二)「アカマツ」前更作業

輪伐期 八〇年

更新期 二〇年

一、年伐面積及材積

年伐區域面積 二八九町
喬林擇伐作業 針葉樹 八、五〇〇
初期年伐材積 潤葉樹 五、二〇〇
前更作業 更新區域面積 九八町
初期年伐材積 針葉樹 五、二〇〇
潤葉樹 一〇、一〇〇
年伐材積合計 二九、〇〇〇

一、山元單價

針葉樹用材 一尺メニ付十錢五厘

潤葉樹用材 同 八錢五厘

潤葉樹薪材 五

錢

一、運材方法

山落シ 急斜地ヨリ谷間迄平均一二町間ヲ轉材ス

小谷出シ 小谷運材ハ修羅機手ニ依ルカ便トス其距離一町乃至十町ナリ

管流 本谷若ハ小谷ノ大ナル處ヨリ行ヒ管流距離四里乃至七里トス

筏流 龍山迄水路六七十里間ノ區域ニ行ハレ出水ヲ俟テ流筏シ十日以内ニ搬出スル事ヲ得

今雪嶽假施設案ノ説明ノ大體ヲ見ルニ

第一地 況

一氣 候

本林地ハ江原道ノ中央部ニ位シ北緯三十七度五五、東經百三十八度ノ附近ニアリ東ノ方五色嶺、馬頭嶺、連水破嶺ヲ

越ユレハ數里ニシテ東ハ日本海ニ達ス土地ハ海拔一〇〇〇米突乃至一七〇〇米突ニ達シ一般ニ高燥ナルヲ以テ夏期ニ涼シク冬期ハ寒威強烈ナリ
未タ氣象ニ關シテ統計的ノ觀測ノ行ハレサル地方ナルヲ以テ茲ニ詳記シ難キモ地元住民ノ語ル所ニヨレハ初霜ハ舊八月下旬ニ之レヲ見晚霜ハ舊三月十日頃ニ至ルコトアリト云フ
降雪最モ多キハ一月中旬以降二月初旬頃ニシテ多キトキハ深サ五六尺ニ達シ毎歲三四尺ヲ降ラスト云フ降雨日數極メテ少キモ所謂雨期(舊六月七月頃)ニ入レハ霖雨數十日打續キ出水ヲ見ル稀レナラス融雪ハ舊二月中旬以降ニシテ木材ヲ搬出スルニ好適ノ時期ナリトス

風向ハ四季ニヨリ多少異ナレトモ常風(主風)ノ方向ハ殆ント西南ナリ林地東海岸ニ近ク南北ニ走ル大山脈ノ西方面ニ位スルヲ以テ直チニ海風ノ襲來ヲ受ケサレトモ又海上ヨリ多量ノ水分ヲ含ミテ來タル空氣ノ其山嶺ニ冷却サレテ雨トナリ或ハ雪トナリテ降下スルアリ從テ冬季及雨期ニ於テハ他ノ山嶺地方ニ比スレハ雨雪ノ量多キヲ見ル今參考ニ供セシカ爲メニ元山及京城ニ於ケル氣象觀測ノ結果ヲ表記セン之レ本林地ハ兩地平均位ノ氣溫ヲ保持スヘケレハナリ
京城及元山ニ於ケル觀測大要ノ最近調査ヲ掲ケンニ

一ヶ年平均氣溫

一	二	三	四	五	京	元	山	京	元	山	京	元	山
月	月	月	月	月	城	山	城	城	山	城	城	山	山
(-)(-)	(-)(-)	六、四	三、四	一、三	一、三	一、三	二、四	二、二	二、一	全	一、三	五、三	四、五
一〇、七	一〇、七	二、九	一〇、一	一〇、一	一〇、一	一〇、一	二、五	二、四	二、四	一、九	一〇、九	一〇、八	一〇、八
一五、二	一五、二	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一三、九	一三、九	一、九	一、六	一、六	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇

平均最低溫度ハ元山京城共何レモ二月ニシテ元山ニ於テハ(一〇、一)京城ハ(一、八)一四二

尙江原道東海岸襄陽及江陵ニ於ケル降霜降雪等ノ季節統計ヲ示セハ次ノ如シ

地名	初霜	晚霜	初雪	晚雪	積雪量	雨期
江陵ノ南部	十月中旬	二月下旬	十二月上旬	三月下旬	一尺内外	六、七、八月
襄陽ノ中部	十月上旬	三月下旬	十一月下旬	四月上旬	二尺乃至三尺	七、八、九月

京城(備考數字ハ回数ヲ示ス)

天	氣	雨、雪、霰、雹	電	雷	霧	霜	快	晴	曇	暴	風
日數	一〇一	一九	三二	六六	八八	八二	二六	均	均	均	均
方	北	北北東	北東	東	東南	南	西南	西	西北	北西	北北西
風	北	北北東	北東	東	東南	南	西南	西	西北	北西	北北西
向	二六	六	二五	四〇	三二	七四	三〇	一〇	二二	一六	一三六
元	山	備考數字ハ回数ヲ示ス									
方	北	北北東	北東	東	東南	南	西南	西	西北	北西	北北西
風	北	北北東	北東	東	東南	南	西南	西	西北	北西	北北西
向	二六	六	二五	四〇	三二	七四	三〇	一〇	二二	一六	一三六

天	氣	雨、雪、霰、雹	電	雷	霧	霜	快	晴	曇	暴	風
日數	一四三	一一	七	一一八	九一	一〇七	四〇	均	均	均	均
方	北	北北東	北東	東	東南	南	西南	西	西北	北西	北北西
風	北	北北東	北東	東	東南	南	西南	西	西北	北西	北北西
向	二四	七三	一三七	九七	一八五	三三	三六	二五	二六	九六	二五三
元	山	備考數字ハ回数ヲ示ス									
方	北	北北東	北東	東	東南	南	西南	西	西北	北西	北北西
風	北	北北東	北東	東	東南	南	西南	西	西北	北西	北北西
向	二四	七三	一三七	九七	一八五	三三	三六	二五	二六	九六	二五三

二、地勢及土質

本事業區ハ其面積一萬九千九百九十餘町歩ニ互リ東西數里南北又數里ニ達スル廣大ナル地域ニシテ東ハ天吼山、馬頭嶺、五色嶺、南ニ雪嶺山、北ニ加歷山、西ニ寒溪山、湯水山等ノ一千米突乃至一千七百米突ノ諸高峰聳立シ北ニ加歷川南ニ魚頭川奔流シ中央百潭寺川ノ貫流スルアリ其間無數ノ小川溪澤ノ流ル、アリ地勢概ネ急峻ニシテ傾斜二十度乃至

五十度以上ニ達ス殊ニ魚頭川ニ沿ヒテ南面セル沿岸一部ノ急斜地並ニ百潭寺川ノ沿岸及加歷川上流ノ北面セル地域ハ
 齊ニ險阻ナルノミナラス岩石露出ノ甚シキヲ見ル
 前述ノ如ク各林班ヲ通シテ殆ント平坦地ト稱スヘキ所ナク緩斜地モ僅カニ其一小部分ニ止マリ他ハ殆ント峻峻ナル山
 嶽地ナルニ係ラス樹木ノ生育比較的良好ニシテ「アカマツ」「モミ」「ナラ」等ノ良材乏シカラサルハ其地層ノ淺カラサ
 ルト朽土ノ適度ニ存シテ其地ノ理學的性質ヲ可良ナラシムルト氣候ノ險惡ナラサルヲ察スルニ足ル
 基岩ハ第三期ニ屬スル花崗岩其大部ヲ占メ稀ニ片麻岩ノ露出ヲ見ル
 土壤ハ重ニ壤土ニシテ處々砂質壤土又ハ礫質壤土ノ存スルアリ稀ニ溪澤ニ介在セル緩斜地ニ埴質壤土地ノ散在スルヲ
 認メタリ地層ハ中庸ニシテ岩石地ヲ除クノ外ハ五寸以上ノ所多シ未立木地ハ稍々乾燥シ易キ輕鬆地ナルモ其他ハ適潤
 ニシテ樹木ノ生育ニ適ス

第二林 況

本事業區ハ其地域廣大ニシテ而モ高嶽重疊シ河川多數ニシテ山嶽起伏ノ狀波濤モ齊ナラサルカ如キ狀態ナリト雖トモ
 其林相概ネ一様ニシテ混濇樹種又殆ト差異ナシサレハ之カ材積調査モ本明年度拂下引渡區域及其附近ハ標準地ニヨリ
 テ査定シ其他ハ目測ニヨリテ推測シタル所少カラス全林殆ト針濇群狀混濇林ニシテ其樹種ノ主ナル者ヲ舉グレハ「ア
 カマツ」「モミ」「ナラ」「ニレ」「セン」「カヘデ」「サハシバ」「オノオレカンバ」「シナ」「ゴエフマツ」等ニシテ其他
 「ドロ」「ドスナラ」「ミツバカヘデ」「ヤマザクラ」等ノ混生スルヲ見ル其混濇歩合ハ「ナラ」「カヘデ」「ニレ」〇、六、
 雜〇、一五、「アカマツ」〇、二、「モミ」「ゴエフマツ」〇、〇五等ノ割合ニ混スル所最モ多ク其歩合ハ林班ニヨリテ多少相
 ニ違ナキ非ラス
 百潭寺川ノ南部ト北部トハ其林相稍趣ヲ異ニス即チ北部ハ一小團地ニ赤松ノ群生スル針濇混濇林所々ニ存スルモ南部

ハ之ニ反シ主トシテ濇過混濇林ニシテ而モ「アカマツ」北部ヨリモ少ク反テ「モミ」「ゴエフマツ」ノ多キヲ見ル一般ニ
 北面セル庇蔭地ニハ濇過混濇林連リ南面セル陽光ノ透射多キ日當リヨキ林地ニハ「アカマツ」群生スル所少カラス稚樹
 ノ發生ハ概シテ少キモ更ニ詳言スレハ濇葉樹ノ方針葉樹ヨリ多キ割合ナリ
 材積調査ノ方法ハ來明年度並明後年度以降一部ノ拂下ヲナスヘキ部分ハ標準地調査ニヨリ他ハ比較調査ノ方法ヲ用ヒ
 テ目測ニヨリテ測定セリ

全林ヲ通シテ一町步平均材積二四〇—三〇〇尺メニシテ其本數一町步二五〇—三〇〇本(直徑三寸以上)ナリ

二十林班中第三、第七、八、一〇、一一、一二、一三林班ハ稍密ニシテ其他ハ凡テ疎ナリ

林齡ノ査定ハ

$$A = \frac{M_1 + M_2 + M_3 + \dots}{a_1 + a_2 + a_3 + \dots}$$

A = 林齡
 M = 第一標準木材積
 M₂ = 第二
 M₃ = 第三
 a₁ = 第一標準木ノ年輪
 a₂ = 第二
 a₃ = 第三

ノ公式ニヨリテ計出スルモ本調査ノ際ハ標準木ヲ選定伐採シテ其調査ヲ行フ能ハサリシヲ以テ林内各所ニ存スル伐根
 ノ年輪數ニヨリ其平均數ヲ以テ全林ノ平均林齡ト看做セリ即チ林木ノ多キハ二十年乃至百八十年生位ニシテ平均スル
 トキハ百年生位ナリ

樹幹ノ形數ハ針、濇兩樹ノ平均ヲ取リテ〇、四五ヲ用ヒタリ尤モ本調査ニ於テハ標準木ヲ選定シテ樹體解剖ヲナスノ
 暇ナカリシヲ以テ稍近似ノ形數ト認メテ使用セリ
 粗密度ハ樹冠ノ閉鎖ヲ標準トシ「アカマツ」「モミ」等ノ混生スル所ナルヲ以テ傍ヲ單位面積ニ於ケル本數ヲ參酌シテ

第三 將來施業ノ見込

本國有林ハ「アカマツ」「モミ」「ナラ」「ニレ」「イタヤカヘデ」等ノ針潤混淆林ニシテ「アカマツ」「モミ」ヲ上木トナシ「ナラ」其ノ他ノ潤葉樹木下木トナリテ混生スサレト從來「アカマツ」「モミ」等ノ良材漸次盜伐セラレシ爲メ今ヤ其數潤葉樹ノ下ニ降ラントシ稚樹ノ發生又比較的少シ而モ潤葉樹ノ發育旺盛ニシテ殊ニ「ナラ」其主位ヲ占ムサレハ喬林擇伐作業ニヨリテ順次老大樹木ヨリ斫伐ヲナシ「アカマツ」「モミ」「ナラ」ヲ主林木トセル針潤混淆林ヲ形成セシメントスル見込ナリ

今直チニ針葉純林ヲ形成セシメンニハ極メテ困難ナリ何トナレハ本林ノ如キ地ニアリテハ天然更新法ニヨルノ外道ナク到底人工植樹ノ如キハ行ヒ難キ處ニシテ而モ現時ノ林相上擇伐法ニヨリテ急速ニ其樹種ノ變更ヲナサントスルハ不可能ニ屬スレハナリ

一、輪伐期ノ選定

輪伐期ハ九十年ト定メタリ其選定理由次ノ如シ

今朝鮮ニ於ケル需用木材ニ就テ市場ノ關係ヲ究ムルニ建築材トシテ最モ廣ク且ツ多額ニ需用セララル、モノハ直徑一尺乃至一尺二三寸位ノ丸太材ナリトス

一般ニ朝鮮ニ於ケル建築材ハ之ヲ内地ニ比スレハ大材ヲ要スルコト少ク直徑一尺ヲ越ユレハ既ニ充分其用ニ堪ユサレハ地方ノ需用ニ應ジテ適當ナル木材ヲ最モ多量ニ供給セント欲セハ胸高直徑一尺一二寸ノ樹木ヲ多量ニ生産シ得ル年齡ヲ以テ輪伐期ト定ムルヲ得策トスルヤ明カナリ

而シテ一方樹木ノ生長量ヨリ之ヲ林内各所ニ存スル伐根ニ就キテ調査スルニ平均一箇年ノ肥大生長量ハ一分二厘乃至

一分五厘以上ニ當ルヲ以テ概ネ九十年ヲ出スシテ直徑一尺乃至一尺二寸ニ達ス故ニ今輪伐期ヲ九十年トスル時ハ最モ多量ニ地方ノ需用ニ適スル木材ヲ供給スルヲ得ヘシ

二、主伐ニ關スル事

本事業區ニ於テハ既ニ伐期ヲ經過セル針潤老大樹木少カラス就中第一、二、三、四、十一、十二、十四等ノ林班ニ於テ多數ナルヲ認メタリサレハ此等ノ林班ハ第一施業期ニ編入シテ初期十箇年間ニ順次伐採ヲ行フヲ要ス而シテ擇伐材積モ或ハ豫定ノ量ニ超過シテ多量ニ伐採スルヲ得策トスル場合ナキヲ保シ難シカ、ル狀態ナルヲ以テ熟期ニ達セサル林木ノ伐採ヲ爲シテ豫定ノ量ニ達セシメントスルカ如キ必要ヲ認メス第一施業期中ニ伐採ヲ豫定シタル林班ニアリテハ其施業面積ノ大小ニヨリテ多少其ノ年伐面積ヲ増減シ可成面積ヲ平分シ各年ノ主伐額ヲ均一ナラシムルニ努メタリ間伐ハ之レカ施行ヲ要スル箇所ナシ

以上ハ施業案ノ定マリタルモノニ關ス右ノ外瞭昧ナル鮮人中稍具眼ノ士ハ其ノ所有ノ稚樹生育地ニ對シ元ヨリ何等ノ保護ヲ加フルニアラサルモ喘氣ナカラニモ五年乃至七年ノ輪伐期ヲ定メテ之ヲ刈リ取り跡地ハ自然ノ生育ニ委シテ其ノ更新ヲ圖リ以テ連年絶ヘス薪炭ノ資ヲ之ニ得ツ、アルモノナリ此等ハ罕ナル例ナレトモ這輩ノ存スルコトハ彼土ノ森林經營上稍人意ヲ強フスルニ足ルモノアルヲ覺エシム

營林廠ノ如キハ未タ施業案ヲ編成スルニ至ラズト雖モ朝鮮有數ノ寶庫タル鴨綠圖們兩江流域ニ於ケル利源ヲ開發スルコトヲ以テ任シ軍用木材廠ノ餘風ヲ繼キテ其ノ森林ヲ伐採スルコトニ努メリ四十五年度ヨリハ造林ノ計畫ヲ實行スヘキコトヲ聞キタレトモ更ニ大ニ發奮シテ無立木地ニ伐跡地ニ造林ヲ大成スルニ至ランコトヲ希望セント欲ス而シテ其伐木ハ今ヤ漸ク利用困難ノ地ニ進マサル可ラサル木材價格ノ平衡ヲ維持センカ爲メニ四十五年度ヨリ幾分之レヲ手

控フルノ形勢アリ

兎ニ角合理的方案ヲ立テ、施業ヲナサントスルモノニ付テハ右ニ陳フル所ノ如クニシテ繼續的ノ事業トシテ相當ノ設備ヲ具ヘテ森林ノ利用ヲ圖レルモノハ朝鮮ヲ舉ケテ營林廠事業ノ右ニ出ツルモノナシ以下項ヲ逐フテ其ノ事業ノ概要ヲ敘述セント欲ス

第二款 實行ニ關スル事項

圖們江流域ハ當時伐採ヲ中止シ其既ニ伐採セラレタル殘材ノ處分ヲナスニ止マリ殊ニ四十二年七月會寧製材工場燒失セシヨリ只其燒餘ノ製材器械ニ修理ヲ加ヘテ使用スルノ外手挽製材ヲナシ其四十三年度ニ於ケル製材數量ハ約一萬七千尺ベニシテ其原木數量ハ約二萬四千尺ベナリトス而シテ四十四年度ノ初メニ於テ殘レル材ハ約十三萬尺ベニシテ內六萬尺ベハ會寧兵營建築材料トシテ其八割ヲ引渡シ尙其二割ハ引渡未濟ニ屬シ殘餘七萬尺ベハ山元ニ存置シ販路ノ考究ヲ了スル迄運材中止ノ姿トナレリ此ノ如クナルカ故ニ事業トシテ見ルヘキモノハ鴨綠江流域ニ於ケルモノナリトス

第一節 概論

伐木ニ付テハ從來營林廠直營ノモノ、請負ニヨルモノ及個人伐木ニヨルモノト三種アリ請負ニヨルモノハ伐木地又ハ土場又ハ後班ニ於テ之ヲ檢收シ個人伐木ニヨルモノハ伐木搬出々願者取扱規程ニ據リ之ヲ許シ伐採木ハ木材檢査買收規程ニヨリ所要ノモノハ之ヲ買收シ必要ナキモノハ所定ノ原木料ヲ徵收シテ彼等ノ自由賣買ヲ許可スルモノナリ直營伐木事業ハ四十年五月ヨリ鴨綠江流域甲山郡ニ於テ開始シ四十二年度迄ニ約五十二萬尺ベノ立木ヨリ約三十一萬尺ベノ角材及丸材ヲ造材シ四十三年度ニ於テハ約十萬尺ベ四十四年度ニ於テハ約十八萬尺ベヲ造材スル豫定ナリ豆滿江流域ニ於ケル伐木事業ハ四十年十二月ヨリ茂山郡ニ於テ開始シ四十二年度迄ニ約二十五萬尺ベノ立木ヨリ約十五萬

尺縮ノ角材及丸材ヲ造材シテ事業ヲ停止セリ

鴨綠江側ノ直營伐木ハ四十年五月二十日ヨリ開始シ惠山鎮支廠專ラ之ニ當ル伐木地ハ初メ木材廠ト同シク甲山郡新開溝及東薪洞附近ノ森林ナリシカ漸次伐採シ盡スニ及ヒ四十一年五月通南洞ニ同年九月明化洞ニ作業班ヲ新設シ四十二年ニ及ヒ更ラニ長津江流域及袖田里等ノ各地ヲ加ヘタリ而シテ通南洞東薪洞及長津江流域ニ於テハ主トシテ丸角材ヲ造材シ新開溝袖田里附近ヨリハ電柱小丸丸太雜丸太ヲ造材シツ、アリ其伐採立木材積及造材々積ハ第一號表ノ如ク又樹種及材種別內譯ハ第二號表ノ如シ

豆滿江側ノ伐木ハ四十年十二月二十一日ヨリ開始シ會寧出張所專ラ之ニ當ル伐木地ハ茂山郡延岩附近及西溪水附近ニシテ伐木ノ目的單ニ羅南兵營建築用材ノ供給ニアリシヲ以テ本年以後ハ全ク伐木ヲ中止シ運材ノミトナレリ其伐採立木材積及造材々積ハ第一號表ノ如ク又樹種別內譯ハ第二號表ノ如シ

事業地トシテハ其主力ハ上流地方ニアリ而シテ惠山鎮以北ノ上流地方ニ於テハ伐木造材運材共ニ之ヲ請負ニ付シ唯惠山鎮以下ノ下流ノ流後ノミ直營トナセリ要スルニ惠山鎮上流ニ於テハ事業ハ主トシテ通南洞川、吾是川、儀化洞川及五溪水ノ流域ニ行ハレ其下流ニ於テハ長津江、南社水、慈城江ノ各流域ニ行ハレ共ニ丸角材ヲ伐採セリ惠山鎮上流ハ木材廠並ニ營林廠ノ手ニヨリ引續キ數年來經營シ來リタルカ故ニ各林區ニ通スル交通ノ便開ケ且ツ作業ノ準備モ整ヒ居ルニヨリ將來上流ニ於ケル經營ハ比較的經濟ニ施行スルヲ得ヘシサレト惠山鎮上流ハ既ニ數年來搬出ニ便宜ナル林地ハ概ネ利用シ盡サレタルニヨリ將來ノ作業ハ益搬出不便ナル箇所ナルモ川造ヲ始メ輕鐵ノ利用等甚タ便宜多キ故充分見込アル作業ヲ計畫シ得ヘシ

惠山鎮上流ニ於テ下流ト林相ノ異ナルハ落葉松ノ生立セルニアリ即チ落葉松ハ氣候ノ關係上惠山鎮上流ニ限リ長津江以下ニハ之ヲ見ルコトナシ故ニ鴨綠江ニ於ケル落葉松ノ伐出ハ惠山鎮附近ニシテ盛ニ落葉松ノ丸角材ヲ伐出セリ此上流ニ於ケル利用材積ハ大約五葉松十八萬尺ベ落葉松十萬尺ベ合計二十八萬尺ベトス

次ニ慈城川流域ノ地理的關係及交通ニ付テ云ヘハ慈城川ハ水源ヲ遠ク狼林山脈ノ一部ヨリ發シ西北ニ流レテ鴨綠江ニ注ク流程約三十里朝鮮側ニ於ケル鴨綠江支流中屈指ノ一トシテ數ヘラル水勢稍急ナルモ甚シカラス水量又平水ニ於テ三四尺ニ及ヒ水途概シテ宜シク間々岩石多ク木材ノ流下ヲ妨クル箇所アルモ少シク工事ヲ施サハ容易ニ完全ナル水途トナスコトヲ得ヘシ該流域ハ比較的開豁セル土地多ク從テ部落モ多ク居民饒多ナリ農地モ多ク平作ニ於テハ農産物ノ收穫少カラス他ノ支流即チ長津江、南社水流域ノ如キハ農地ニ乏シク居民稀少ニシテ交通甚タ不便ナルモ慈城川ニ沿ヘル道路ハ割合ニ宜シク牛馬通シ厚昌江界ノ都邑ニ至ル通路アリテ物資輸送ノ便開ケ且ツ冬期ハ氷上輸送行ハレ鴨綠江沿岸各地ノ交通容易ニシテ夏期ニ於テモ日本式川船並ニ支那「ヂヤンク」ニヨリテ遠ク安東縣ヨリ慈城河口（慈城川ノ鴨綠江ニ合スル河口）迄輸送ヲナシ得ルカ故惠山鎮上流附近ノ馬背ノミニ頼ルモノニ比スレハ交通便利ナリトス本流域ノ利用材積ハ大約五葉松三十五萬尺、樺（支那杉松）三十一萬尺、計六十五萬尺ベトス

次ニ南社水ハ厚州古邑ニ於テ鴨綠江ニ注ク流域ニシテ流程約二十里、水量川幅共ニ支流中屈指ノ一タリ交通ノ便ニ至リテハ慈城川流域ノ如ク開ケサルモ江界若クハ長津方面ニ交通シ得ラレサルニアラス少シク道路費ヲ投スレハ物資ノ輸送ニ差支ナキ程度ニ開拓シ得ヘシ流域ニ沿フテ部落少ク人煙稀少ナルカ故ニ從テ農産物ニ乏シク物資ハ山越シニ江界方面ヨリスルカ若クハ結水中鴨綠江水ニ輸送ヲナスヲ最モ便宜トス本流域ノ利用材積ハ大約五葉松五十萬尺ベトス長津江ハ新登坡鎮ニ於テ鴨綠江ニ注ク流域ニシテ支流中屈指ノ一タリ流程實ニ三十餘里水量河身共ニ宜シク流筏ニ適ス南社水流域ニ於ケルト同シク此流域ニハ人煙少ク耕地開ケス物資ノ輸送不便ナルモ長津ノ都邑ニ通スルヲ以テ咸興方面ヨリ仰グコトヲ得ヘシ地況ハ南社水流域ト大差ナク林相ハ少シク劣レリ河流ノ狀況ハ長津江本流ハ可ナルモ新昌洞小川ハ殆ント水途通セス川浚ヘニ多大ノ經費ヲ要スヘシ

本流域ノ利用材積ハ大約五葉松二十八萬尺、樺類二十萬尺、計四十八萬尺ベトス

此ノ如ク樹種ハ五葉松落葉松ヲ主トシ五葉松ノ大部ハ角材ト爲シ落葉松ハ九角混合伐採セリ而シテ四十三年度中ニ於

ケル伐木數及伐木單價ハ左ノ如シ（四十四年度ヨリハ唐檜ノ市價呼聲高キ爲メ之ヲ伐採スルコト、ナリシモ其數量ハ判明ナラス）

材種	材積	伐木價	摘
丸材	五、一三四	〇八〇	
角材	一三、一六五	〇六五	最高
電柱	一、二七三	〇四五	最高
雜丸	五、〇〇〇	〇四五	最高
特丸	三、三三五	一、六三〇	最低

次ニ伐木搬出出願者取扱規定ニヨリ伐木搬出ヲ許可セシ森林ハ三水、厚昌、慈城、江界、楚山、碧瀧、昌城、朔州ノ各郡ニシテ當廠ニ於ケル買收數並自由賣買許可木材原木料等左ノ如シ

材種	買收木材	自由賣買許可木材	原木料
丸材	九二、三三本 八一、七尺	一、〇五〇本 二、四六尺	一、九七一、二七五
角材	一三、八七四 一三、四九〇尺	二、三三四 六六〇尺	一、〇五二、二五六

個人經營ノ造材積及徵收原木料等左ノ如シ

材種	四十年度		四十一年度		四十二年度		四十三年度	
	材積	原木料	材積	原木料	材積	原木料	材種	原木料
丸材	三、二六三	三、七四六	三、八九七	一、八三〇	六、三六三	三、二五六		
角材	八、四三七	三、五五五						
買收角材								

買收丸材	四三〇九	一七〇四六	一七七一三	四九五	三〇〇六	三九八八	一五三三	一九七七
車軸	九八八五	一七〇四六	四二四八	四九五	三〇〇六	三九八八	一五三三	一九七七
車軋	九八八五	一七〇四六	四二四八	四九五	三〇〇六	三九八八	一五三三	一九七七
薪炭	九八八五	一七〇四六	四二四八	四九五	三〇〇六	三九八八	一五三三	一九七七
計	九八八五	一七〇四六	四二四八	四九五	三〇〇六	三九八八	一五三三	一九七七

第二節 伐木造材ノ方法

伐木ハ擇伐法ニ依ルモ同種同齡ノ林地ニアリテハ皆伐ヲ行フ場合ニモアリ故ニ更新上ノ回歸年ハ一定セス伐木時季ニ付テハ流後上乾燥ヲ充分ナラシムル爲メニ解氷期ナル四月ヨリ著手シ秋季マテニ終了スルヲ普通トス伐採時期カ材買ニ影響スルノ如何ニ關シテハ深ク顧慮スル所ナク時ニ依リテハ冬季結氷期間ニ伐採スルコト尠カラス要スルニ流後著手期ナル五月頃迄ニ搬出シ得レハ時季ヲ選ハス伐採スルヲ例トス

伐採器具トシテ鮮人間ニ於テハ從來ハ唯一ノ斧(「トッキン」ト稱ス日本斧ト同シ)ニ依リ如何程大ナル材ト雖モ伐採シタルモノナリ支那人伐倒用トシテハ同種ノ斧ノ外ニ造材用トシテ「ハツリ」用ヲ使用ス



日本人ハ普通土佐斧、土佐鋸、「ハツリ」斧ヲ以テス

近來支那人鮮人共土佐斧及鋸「ハツリ」斧ヲ貸與シツ、アリ

此外ニ木皮削リ、墨掛用具、尺等ヲ要スルハ勿論トス

伐木造材ハ凡テ厘袖トシテ尺ノ何錢トシ出來高拂ヲナス普通丸材ハ尺ニ付八錢角材ハ三十錢トス袖夫ハ吉野、木曾邊ノモノ多ク技術良好ニシテ一人一日ノ功程平均五尺ベトス營林廠ニ於テハ鮮人袖夫養成ノ目的ヲ以テ二三年來使役シタル結果今日ニ於テハ殆ント日本袖夫ニ劣ラサル技術ヲ有スルモノ少カラス其他多少ノ支那人ヲ使役シ居ルモ是又墨掛、「ハツリ」、角ノ締メ方等充分注意スレハ見ルヘキ成品ヲ得ルコト難カラス支那人及鮮人ハ起居勞力ノ程度ニ鑑ミ技術ノ點ヲ參酌シテ尺ニ付日本袖夫ヨリ二錢乃至四錢單價ヲ減スルコト、セリ從來營林廠ニテハ連單位ヲ採リ來リタルモノ今日ニテハ凡テ間單位ヲ採リ主トシテ二間、四間ノ二種ニ限り木取リノ關係上止ムヲ得サル場合ニハ一連三間物ヲモ採用スルコト、セリ其寸法長サ等ハ普通二間丈五五寸、三間二十尺五寸、四間二十七尺五寸(總長)太サハ丸材材末口徑八寸以上角材ニアリテハ二間材尺以上四間材尺三以上トシ角材又タハ直徑尺ニツキ二寸四分以下頭巾ハ直徑尺ニ付二寸五分以上トセリ

其他

- 一、木材ハ無節ノ直幹良材ノミニ限り造材シ節材、捻材及枯損木等ハ特ニ指定シタルモノ、外造材セス但シ曲材ハ中央ニ於テ一寸以内ノ單曲ナルモノニ限り直材ト見做ス(第一圖)
- 二、丸太材ニ於テハ表面ノ腐朽シタルモノハ心部ノ健全ナルモノト雖造材セス但シ後來加工シテ角材トナスヘキ見込アルモノ竝ニ心腐シアルモノ柁盤トシテ利用ノ價値アルモノ等ハ特ニ指定ヲ受ケ造材スルモノトス
- 三、伐採スヘキ樹種ハ普通紅松及落葉松ニシテ其他ノ樹種ハ指定スル場合ノ外伐採スルコトヲ得ス
- 四、材種及用途ハ指定ス其木取寸法ハ別表ノ造材表ニ依ル
- 五、丸太材ハ特ニ指定スルモノ、外常ニ剝皮スルモノトス其剝皮ハ全剝タルヘキモ伐採時期ノ關係上止ムヲ得サルトキニ限り長サノ方向ニ念入リニ「ハツリ」剝トナスヘシ但シ皮部ト雖粗皮ヲ存スルコトヲ得ス
- 六、角取ハ成ル可ク正角材トナシ平角材トナス場合ニハ長短兩邊ノ差四寸以内ニ止ムヘシ若小川出シノ關係上流後困

難ナル大材ニアリテハ許可ヲ得テ大割スルモ妨ケナシ凡テ角材ノ木口ニハ五分鑿ヲ以テエ字號ヲ刻ミ込ムモノトス
 七、正角材ナルト平角材ナルトヲ問ハス角材ノ押シ部(マタ)ハ直徑一尺ニ付二寸四分以下トナスヘシ(第二圖)
 但シ三間材ニアリテハ角取ノ都合ニヨリ梢部一間ノ部分ニ限リ本項制限以外「マタ」ノ丸味ヲ大ニスルコトヲ得
 八、玉切ニハ兩端トモ凡テ鋸挽キトナシ頭巾ハ直徑一尺ニ付二寸五分以上トシ斷面ニ對シ四十五度ノ斜面若ハ外曲面
 トナスヘシ(第三圖)
 但シ修羅出シノ如ク破損多キ運材法ニアリテハ頭巾ヲ直徑一尺ニ付三寸以上トナシ尙四間ヲ超過スル長材ニアリテ
 ハ六寸以上トナスヘシ
 九、角材ニアリテハ墨掛ケヲ吟味シテ本末墨通シヲ正シクナシ「ハツリ」ハ枕枕仕上ケ共注意シテ木面ヲ平滑ナラシム
 ヘシ以上

造材表

用途	材種	長サ(尺)		丸太材	角材	備考
		總尺	目賀内			
建築用材	二間	一五、五	一四、〇	一〇、〇	八、〇	
	三間	二一、五	一九、五	一〇、〇	一〇、〇	
	四間	二八、〇	二六、〇	一〇、〇	一〇、〇	
	五間	三五、五	三三、〇	一〇、〇	一〇、〇	
	連尺	二二、〇	二〇、五	一〇、〇	一〇、〇	
	二間	二四、〇	二二、五	一〇、〇	一〇、〇	
	二間	二六、〇	二四、五	一〇、〇	一〇、〇	
	二間	二四、〇	二二、五	一〇、〇	一〇、〇	
	二間	二六、〇	二四、五	一〇、〇	一〇、〇	
	二間	二四、〇	二二、五	一〇、〇	一〇、〇	

電柱用材	長サ(尺)		丸太材	角材	備考
	總尺	目賀内			
二六	二八、〇	二六、五	至五、五		
二八	三〇、〇	二八、五	至五、五		
三〇	三二、〇	三〇、五	至六、〇		
三二	三四、五	三二、五	至六、〇		
三三	三六、五	三四、五	至六、〇		
三四	三八、五	三六、五	至七、〇		
三六	四〇、五	三八、五	至七、〇		
三八	四二、五	四〇、五	至七、〇		
四〇	四四、五	四二、五	至七、〇		
四二	四六、五	四四、五	至七、〇		
四四	四八、五	四六、五	至七、〇		
四六	五〇、五	四八、五	至七、〇		
四八	五二、五	五〇、五	至七、〇		
五〇	五四、五	五二、五	至七、〇		
五二	五七、五	五四、五	至七、〇		
五四	五九、五	五七、五	至七、〇		
五六	六一、五	五九、五	至七、〇		
五八	六三、五	六一、五	至七、〇		
六〇	六五、五	六三、五	至七、〇		
六二	六七、五	六五、五	至七、〇		
六四	六九、五	六七、五	至七、〇		
六六	七一、五	六九、五	至七、〇		
六八	七三、五	七一、五	至七、〇		
七〇	七五、五	七三、五	至七、〇		
七二	七七、五	七五、五	至七、〇		
七四	七九、五	七七、五	至七、〇		
七六	八一、五	七九、五	至七、〇		
七八	八三、五	八一、五	至七、〇		
八〇	八五、五	八三、五	至七、〇		
八二	八七、五	八五、五	至七、〇		
八四	八九、五	八七、五	至七、〇		
八六	九一、五	八九、五	至七、〇		
八八	九三、五	九一、五	至七、〇		
九〇	九五、五	九三、五	至七、〇		
九二	九七、五	九五、五	至七、〇		
九四	九九、五	九七、五	至七、〇		
九六	一〇一、五	九九、五	至七、〇		
九八	一〇三、五	一〇一、五	至七、〇		
一〇〇	一〇五、五	一〇三、五	至七、〇		
一〇二	一〇七、五	一〇五、五	至七、〇		
一〇四	一〇九、五	一〇七、五	至七、〇		
一〇六	一一一、五	一〇九、五	至七、〇		
一〇八	一一三、五	一一一、五	至七、〇		
一〇九	一一五、五	一一三、五	至七、〇		
一一〇	一一七、五	一一五、五	至七、〇		
一一一	一一九、五	一一七、五	至七、〇		
一一二	一二一、五	一二〇、〇	至七、〇		
一一三	一二三、五	一二二、〇	至七、〇		
一一四	一二五、五	一二四、〇	至七、〇		
一一五	一二七、五	一二六、〇	至七、〇		
一一六	一二九、五	一二八、〇	至七、〇		
一一七	一三一、五	一三〇、〇	至七、〇		
一一八	一三三、五	一三二、〇	至七、〇		
一一九	一三五、五	一三四、〇	至七、〇		
一二〇	一三七、五	一三六、〇	至七、〇		
一二一	一三九、五	一三八、〇	至七、〇		
一二二	一四一、五	一四〇、〇	至七、〇		
一二三	一四三、五	一四二、〇	至七、〇		
一二四	一四五、五	一四四、〇	至七、〇		
一二五	一四七、五	一四六、〇	至七、〇		
一二六	一四九、五	一四八、〇	至七、〇		
一二七	一五一、五	一五〇、〇	至七、〇		
一二八	一五三、五	一五二、〇	至七、〇		
一二九	一五五、五	一五四、〇	至七、〇		
一三〇	一五七、五	一五六、〇	至七、〇		
一三一	一五九、五	一五八、〇	至七、〇		
一三二	一六一、五	一六〇、〇	至七、〇		
一三三	一六三、五	一六二、〇	至七、〇		
一三四	一六五、五	一六四、〇	至七、〇		
一三五	一六七、五	一六六、〇	至七、〇		
一三六	一六九、五	一六八、〇	至七、〇		
一三七	一七一、五	一七〇、〇	至七、〇		
一三八	一七三、五	一七二、〇	至七、〇		
一三九	一七五、五	一七四、〇	至七、〇		
一四〇	一七七、五	一七六、〇	至七、〇		
一四一	一七九、五	一七八、〇	至七、〇		
一四二	一八一、五	一八〇、〇	至七、〇		
一四三	一八三、五	一八二、〇	至七、〇		
一四四	一八五、五	一八四、〇	至七、〇		
一四五	一八七、五	一八六、〇	至七、〇		
一四六	一八九、五	一八八、〇	至七、〇		
一四七	一九一、五	一九〇、〇	至七、〇		
一四八	一九三、五	一九二、〇	至七、〇		
一四九	一九五、五	一九四、〇	至七、〇		
一五〇	一九七、五	一九六、〇	至七、〇		
一五一	一九九、五	一九八、〇	至七、〇		
一五二	二〇一、五	二〇〇、〇	至七、〇		
一五三	二〇三、五	二〇二、〇	至七、〇		
一五四	二〇五、五	二〇四、〇	至七、〇		
一五五	二〇七、五	二〇六、〇	至七、〇		
一五六	二〇九、五	二〇八、〇	至七、〇		
一五七	二一一、五	二一〇、〇	至七、〇		
一五八	二一三、五	二一二、〇	至七、〇		
一五九	二一五、五	二一四、〇	至七、〇		
一六〇	二一七、五	二一六、〇	至七、〇		
一六一	二一九、五	二一八、〇	至七、〇		
一六二	二二一、五	二二〇、〇	至七、〇		
一六三	二二三、五	二二二、〇	至七、〇		
一六四	二二五、五	二二四、〇	至七、〇		
一六五	二二七、五	二二六、〇	至七、〇		
一六六	二二九、五	二二八、〇	至七、〇		
一六七	二三一、五	二三〇、〇	至七、〇		
一六八	二三三、五	二三二、〇	至七、〇		
一六九	二三五、五	二三四、〇	至七、〇		
一七〇	二三七、五	二三六、〇	至七、〇		
一七一	二三九、五	二三八、〇	至七、〇		
一七二	二四一、五	二四〇、〇	至七、〇		
一七三	二四三、五	二四二、〇	至七、〇		
一七四	二四五、五	二四四、〇	至七、〇		
一七五	二四七、五	二四六、〇	至七、〇		
一七六	二四九、五	二四八、〇	至七、〇		
一七七	二五一、五	二五〇、〇	至七、〇		
一七八	二五三、五	二五二、〇	至七、〇		
一七九	二五五、五	二五四、〇	至七、〇		
一八〇	二五七、五	二五六、〇	至七、〇		
一八一	二五九、五	二五八、〇	至七、〇		
一八二	二六一、五	二六〇、〇	至七、〇		
一八三	二六三、五	二六二、〇	至七、〇		
一八四	二六五、五	二六四、〇	至七、〇		
一八五	二六七、五	二六六、〇	至七、〇		
一八六	二六九、五	二六八、〇	至七、〇		
一八七	二七一、五	二七〇、〇	至七、〇		
一八八	二七三、五	二七二、〇	至七、〇		
一八九	二七五、五	二七四、〇	至七、〇		
一九〇	二七七、五	二七六、〇	至七、〇		
一九一	二七九、五	二七八、〇	至七、〇		
一九二	二八一、五	二八〇、〇	至七、〇		
一九三	二八三、五	二八二、〇	至七、〇		
一九四	二八五、五	二八四、〇	至七、〇		
一九五	二八七、五	二八六、〇	至七、〇		
一九六	二八九、五	二八八、〇	至七、〇		
一九七	二九一、五	二九〇、〇	至七、〇		
一九八	二九三、五	二九二、〇	至七、〇		
一九九	二九五、五	二九四、〇	至七、〇		
二〇〇	二九七、五	二九六、〇	至七、〇		

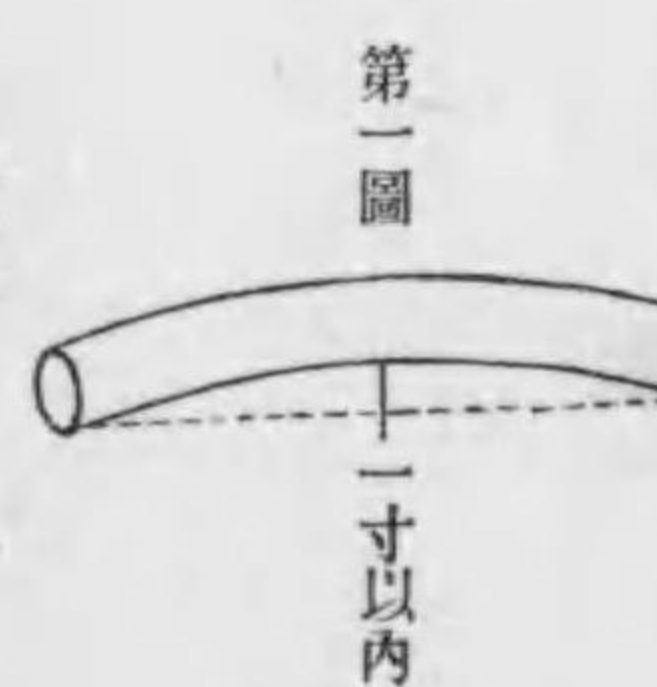
備考 小丸太枕木角材帆柱材其他特種ノ用途ニ充ツルモノニ對シテハ其都度特ニ木取寸法ヲ指定ス
 枕木用材 總長 一九〇、〇 目賀内 一七八、五 徑 八寸ノ一尺一寸 同 一尺一寸ノ一尺六寸 上 落葉松
 帆柱用材 同 九〇、〇 同 八五、〇 同 八寸ノ一尺一寸 同 一尺一寸ノ一尺六寸 上 同 上
 特種用材 (宮殿建築用) 同 三三〇、〇以上 同 三〇〇、〇以上 同 一尺五寸以上 同 上



第三圖



第二圖



第一圖

第三節 集材運材ノ方法及經費

一、集材。山小出シ、山地轉材ノ意味ニシテ運材作業ノ一部ナリトス集材方法ハ運材主線路ニ沿ヒ簡單ナル切開キニヨリテ支線路ヲ縱横ニ切開キ牛曳キ若クハ人手ニヨリテ爲、運材鶴、「トチ」鑿、網等ニテ曳キ出スカ地形ニヨリテハ木馬路ヲ作ルコトアルモ主ニ簡單ナル方法ニヨリ時々多少ノ損傷ヲ期シテ落シヲナスコト少カラス集材人夫ハ主ニ鮮人ニシテ鮮人十名乃至二十名ニ對シ一人ノ日本人監督指導ノ任ニ當レリ鮮人モ近來ハ巧ニ爲鶴等ヲ使用シ掛聲勇シク日本人同様ニ勞役シ得ラル、ニ至レリ集材路切開キハ地形及材積ニヨルモ普通尺ハ五錢乃至七錢ニシテ集材質モ勿論地形ノ難易材積ノ多寡ニヨレトモ普通尺ハニ付十五錢乃至二十錢ノ間トス

二、運材。目下營林廠ニ於ケル運材方法ヲ分チ落シ、牛棧曳、木馬出シ、修羅、輕鐵運搬、五種トス

1、落シ。ハ地形急峻ニシテ他ニ安全ナル搬出方法ナキ場合ニ限リ止ムナク行フ方法ニシテ少クモ二割以上損傷ヲ見込マサルヘカラス

2、牛曳。ハ最モ普通ニ行ハル、簡單ナル方法ニシテ殊ニ山間到處各部落ニ相應ニ強健ナル牛ヲ集メ得ヘキニヨリ便利ナリトス牛曳ハ一萬尺ハ内外ノ搬出ニ恰適ニシテ搬出途中材ノ損傷モ少ク安全ナリトス牛曳路ハ平均尺ハニ付キ五六錢乃至七八錢位ニシテ普通曳質ハ一里ニ付尺ハ十三錢乃至十五六錢トス牛曳質ハ距離ニ應シ一日何回曳キ得ルカ一回幾尺ハ曳キ得ルカ並ニ地形ニ鑑ミテ單價ヲ算出スルモノニシテ一日ノ收得一圓四五十錢見當トセハ可ナリ

牛曳ハ冬季結氷中最モ好適ニシテ小谷氷上ヲ曳キ普通一本曳ニシテ(丸材ハ二本曳トスルコトアリ)其材積普通二尺ハ内外トス

3、木馬出シ。ハ冬季間ニ於ケル作業ニシテ夏季ニ於テハ摩擦方多ク油ヲ要スルコト夥シク不利ナルカ故止ムヲ得

サル場合ノミ行フモノトス

木馬路構築ハ道ノ切開キ盤木ノ据付ニ至ル迄一間ニ付二十錢内外ニシテ普通一尺ハニ付六錢乃至十錢ヲ見込マハ大差ナシ

木馬用材ハ「ミネバリ」、「カエデ」等ニシテ一臺製作價一圓三十錢乃至一圓五十錢トス
營林廠ニテハ數年間鮮人ヲ養成シタル結果今日ニテハ巧ニ操縦シ得ラル、曳子頗ル多シ曳質ハ距離ノ遠近、難易、積載量ニヨリ差別アレトモ普通一里一尺ハニ付二十錢内外トス一人一日ノ功程ハ積込積卸共ニ四尺ハ内外ニシテ技術優秀ナルモノハ六七尺ハニ付上ルモノ少カラス道ハ三四寸勾配最モ適當ニシテ甚シキハ七寸以上ナル場合アリ
斯カル時ハ簡單ナル「ブリーキ」裝置(針金ノ輪ヲ作り木馬ノ鼻ニ括リ附ケ摩擦力ヲ増サシム)ヲナス

4、修羅出シ。從來ノ經驗ニヨレハ修羅出シハ多クハ失敗ニ終リタレトモ地形ヲ充分ニ考査シ且ツ白場土場ノ木直シ等相應ノ設備ヲナサハ左程ニ難キモノニアラスサレトモ如何ニ巧妙ニナスモ修羅滑落ハ不斷ナルカ故土場ノ木直シ殆ント不可能ナルニヨリ自然共突キヲ來シ多少損傷ヲ來スヲ免レス今次ニ四十二年度明化洞ニ於テ實施セル修羅出シノ實例ヲ擧ケンニ

全長一千四十米突(枚數百七十二枚) 一枚ハ二連材ノ修羅數ニツキキ十八尺五寸トス

此工費

- 一金五百三圓八十四錢
- 一金二十五圓
- 一金三千七圓九十五錢
- 一金百三十一圓四十錢
- 計金六百九十八圓十九錢

- 修羅道布設費
- 水樋百本製作費
- 枕、桿、杭等伐出シ並ニ運搬
- 針金七把三分代

之ヲ全線ニ割り當ツレハ一米一間一枚當リ(二連材ナリシ故一丈八尺五寸)平均工賃ヲ示セハ
 一金六十七錢一厘餘 一米ニ付
 一金一圓十七錢九厘餘 一間ニ付
 一金四圓五錢九厘 一枚ニ付

木材轉落ノ狀況ハ平均一日二十六人五分ノ出役人夫ニシテ一日平均百三十二本二分此材積三百〇四尺餘ノ搬出ヲナシ得ヘク一日一人ノ功程本數五本、十一尺五五分ヲ搬出シ得タル割合ニシテ一尺餘轉送費ハ全線ヲ通シ十三錢五厘トス

5、輕鐵運搬。搬出材積多量ニシテ數年繼續シテ作業シ得ル林區ニシテ而カモ地形布設恰適ナル場合ニ行フモノトスサレト輕鐵布設材料即チ軌條、車輛ノ如キ斯カル遠隔ノ地ニ取寄ストセハ頗ル高價トナリ固定資本トシテ收支計算ヲ充分ニ顧慮セサル可カラス營林廠ニ於テハ木材廠時代ニ布設セラレタル材料ヲ其儘引繼ヲ受ケ新開溝及通南洞ニ使用セリ

輕鐵布設費ハ普通一米ニ付三十錢乃至三十五錢トス即チ路盤構築費一米十八錢乃至二十錢枕木採取一米三錢乃至四錢軌條敷設費一米十二錢乃至十四錢トス

輕便ハ普通二人乗リトシ積載量ハ角材九尺ニ乃至十尺(二間材ニテ四本乃至六本)九材六尺ニ乃至七尺(二間材六本)ニシテ乘子ハ鮮人ヲ使役ス木材廠當時ニハ未タ鮮人ノ技術未熟ニシテ死傷者ヲ出シタルコト多カリシモ近來ハ慣熟シテ巧ニ運轉シ得ルニ至レリ目下通南洞ニテ實行セル輕鐵運搬ハ土場ヲ距ル二、三〇〇米乃至七、三〇〇米ノ間ニ集積セル(集積箇所六)三萬二千尺ニ付一尺ニ平均十七錢五厘ノ單價ヲ以テ請負ニ附シ事業者ハ相應ノ利潤ヲ見ルニ至レリ

因ニ記ス木材廠時代ニ於テ購入セル輕鐵材中直線軌條(十二ボンド)一本ニ付八圓臺車金具一臺分十二圓、車輛

(軸共)一輛分二十四圓臺車ノ製作費一臺分五圓ノ高價ナリシヲ見テモ新ニ購入シテ布設セントスルニ當リテハ大ニ收支計算ヲ明ニシテ固定資本ノ回收關係ヲ究メサルヘカラス

三、川出シ。川出シハ管流竝ニ流筏ニシテ管流ハ流筏ノ見込ナキ處若クハ流筏ノ見込アルモ川造費ヲ支出スルニ足サル小材積ノ搬出ニ當リテ行ハレ其他許ス限リハ流筏ノ方針ヲ執レリ管流ニ於テハ堰出シトストキハ比較的安全ニシテ且ツ經費モ少額ナリトス普通管流ハ一里ニ付尺五錢乃至十二錢トス

流筏事業中鴨綠江本流ノ分ト支流ノ小川トヲ分テ後者ハ小川出ト稱ス營林廠ニテハ惠山鎮上流ヲ小川出シト呼ヒ惠山鎮下流新義州迄ヲ流筏ト稱ス

小川出シハ水量ノ關係即チ輸送力ノ制限アルカ故一箇年間ノ流筏最大量ヲ考量シ豫シメ事業ノ計畫ヲ企圖スル必要アリ小川出シノ順序ヲ追テ記述センニ

1、編筏。編筏ニ就テ最初ニ考慮スヘキハ運材ノ際ニ於ケル土場ノ選定ナリトス編筏土場トシテ最モ適當ナル地形ハ堰ニヨリテ充分ニ水量ヲ貯ヘ得ヘキヲ要シ(堰ヲ要セサル場合モアレトモ)且ツ木材ノ土入容易ニシテ常ニ數枚ノ筏ヲ貯フルコト自由ナルヘキ地ヲ選定セサルヘカラス編筏ノ順序ヨリ言ヘハ目賀切ハ主トシテ鮮人ヲ使役シ平均尺ニ付二錢五厘乃至四錢トス目賀切ニ當テ注意スヘキハ目賀内ノ寸法ヲ誤ラサルニアリ不慣、鮮人ナト往々目賀内寸法ヲ誤リ爲メニ編筏ニ當リ不揃トナリテ艱ムコト少カラス

土入。土入トハ土場ニ於テ目賀切ヲ了レル材ヲ編筏土場ニ落シ込ム作業ニシテ茲ニ注意スヘキハ各材種竝ニ長サ別ニ應シ夫々筏ノ組立テヲ考慮シツ、土入セサルヘカラサルニアリ地形ノ難易ニヨレトモ普通一尺ニ付三錢乃至七錢ナリトス

捻木。筏ノ捌ミハ凡テ捻木ニシテ捻木ハ柞木ヲ用ヒ一本ノ採取費普通一錢六厘乃至二錢三厘トス捻木ハ一尺ニ付普通二本ヨリ三本ト見レハ大差ナシ惠山鎮ニアリテハ已ニ數年來捻木ヲ採取シタルニヨリ捻木ヲ得ヘキ雜木林

附近ニ乏シク將來ノ需要ニ鑑ミ柞木ノ撫育ニ努メサルヘカラス
 擲ミ。擲ミノ巧拙ハ後各床ヲ通シテ材ノ組合セ竝ニ捨木ノ使用ニアリトス捨木其ノモノ、良否ハ擲ミニ大關係アルカ故最初捨木ノ選定ハ最モ緊要ニシテ巧ニ作リタル捨木ハ擲ミ易ク意ノ如ク材ノ結ヒ付ケヲナシ得ルモノトス尙擲ミニ當リテハ材ノ裏表ヲ明ニシ繼棒(捨木ノ結付ケヲ縮ムルモノ)ノ挿シ方棍棒ノ附ケ方等仔細ニ吟味セサルヘカラス而シテ擲ミノ功程ハ普通二人乃至三人ニテ後一枚ヲ擲ミ上ケ尺ベニ付六錢乃至八錢トス

2、小川出シ。小川出シハ多クハ堰出シニシテ鐵炮堰ヲ二十町位ノ距離ニ設ケ堰水ヲ充分ニ溜メタル後ヲ後ヲ乘リ下スニヨリ日々二回位ノ乗出シト見サルヘカラス小川出シノ川造リハ堰ノ構築竝ニ水途作りニシテ堰ハ附近ニ材料ノ有無ニヨリテ差アレトモ普通一箇所百圓乃至三百圓トス水途造リハ第一破石、第二川浚ヒ、第三袖堰(服堰)、當テ木等ニシテ破石ハ「ダイナマイト」(惠山鎮著相場一發電管導火索附二十五錢)ヲ用ヒ川浚ヒハ「テコ」棒等ニテ石ヲ片付ケ倒レ木其他支障物ヲ取除ケ袖堰脇堰ハ水流ヲ調整シ且ツ水量ヲ散ラサシメサル必要上幾箇所トナク設ケ一箇所平均二圓乃至十四五圓トス當テ木ハ水流ノ曲リ「カーブ」等ニ宛テ置キ流後ヲ容易ナラシムルニアリ
 小川出シト本流ノ流後トヲ問ハス川出シニ最モ緊要ナルハ川造リ事業ニシテ是レ流後事業ノ骨子ナリトス
 小川出シハ水量水途ノ關係上流後困難ニシテ勢ヒ單價高上スルヲ免レス今次ニ左ノ作業箇所ニ於ケル小川出シ賃ヲ掲ケンニ

通南洞 (惠山鎮ヲ距ル八里、小川二里半)	一尺ベニ付	四十四錢七厘	(編後其三)
東薪洞 (惠山鎮ヲ距ル四里小川約三里半)	同	三十五錢八厘	(同)
明化洞 (惠山鎮ヲ距ル八里小川二里半)	同	四十六錢八厘	(同)
吳山 (惠山鎮ヲ距ル二里餘、小川約一里、本流一里餘)	同	二十九錢一厘	(同)

營林廠ニテハ編後小川出シハ凡テ請負ニ附セリ故ニ請負人自ラ編後夫ヲ募集シ來リ後夫ノ出發手當旅費傷手當

一切請負人ノ負擔トシ惠山鎮著材積ニ應シ普通八分額ヲ支拂ヒ殘二分額ハ全事業終了ノ際支拂フモノトス
 3、惠山鎮ヨリ新義州ニ至ル下流ノ流後

惠山鎮ヨリ新義州ニ至ル鴨綠江本流水路約百五十有餘里ノ長程ニ對シ流後賃角材一尺ベ六十錢九材一尺ベ七十錢ナルニ至テハ實ニ其ノ廉ナルニ驚カサルヲ得ス之ヲ水路一里ニ割リ當ツレハ角材一尺ベ一里ニ付僅ニ四厘九材ハ五厘弱トナリ如何ニ鴨綠江本流カ流後ニ容易ナルカヲ窺フニ足ラン内地ニ於ケル木曾吉野ヲ始メ何處ノ流域ト雖トモ斯クノ如ク低廉ナル賃金ヲ以テ流後シ得ラル、川アラヌ

前述ノ如ク伐木造材其他山地運材ノ如キニアリテハ左程ニ低廉ト云フヲ得サルモ獨リ流後ノミハ著シク低廉ナルニ驚カサルヲ得ス現時營林廠ニ於ケル流後幾ノ梗概ヲ記サンニ鴨綠江本流全流程ヲ四區ニ分チ第一區ハ惠山鎮新坵坡鎮間第二區ハ新坵坡鎮中江鎮間第三區ハ中江鎮高山鎮間第四區ハ高山鎮新義州間トシ各區共ニ出張所ヲ置キ後ノ授受竝ニ漂流木整理ノ任ニ當レリ

丸角材流後賃金一尺ベニ付

第一區 角 丸 〇〇、二七〇〇	第二區 角 丸 〇〇、二七〇〇	第三區 角 丸 〇〇、二七〇〇	第四區 角 丸 〇〇、二七〇〇
-----------------	-----------------	-----------------	-----------------

而シテ各區間乘夫ノ往復日數(後ニテ次區迄下リ歸路ハ陸上徒歩)ハ

第一區 五日	第二區 九日	第三區 八日	第四區 二十日
--------	--------	--------	---------

ニシテ全區ヲ通シ惠山鎮ヨリ新義州迄十七日乃至二十二日ヲ以テ到着スルヲ得ヘク各區流後ノ難易ヲ考フルニ第一區ハ川幅、水量モ少ク且ツ途中羅暖堡ト稱スル所ニ一番ヨリ四番ニ至ル四箇ノ瀧アリテ全流域最難ノ水途トシテ著名ナリ第二區ニ至テハ水勢水量川幅モ宜シク第三區以下ニ至ツテ更ニ恰適ナリ故ニ第一區ニテハ一人後一枚(後ハ角材ノミニテ平均八十五尺ベ九材ノミニテ六十五尺ベ)持ナレトモ第三區以下ニ於テハ普通二枚技術優秀ナルモノハ三枚ヲ持ツモノサハ少カラス之等ノ事情ヲ參酌シテ各區間ノ流後賃ヲ決定シタルモノナリ

編後方法ハ内地ノ新宮式ニ依レルカ支那人ノ編後方法ハ之ニ異リ各材ノ目賀内ニ棒ヲ貫通シテ後床ヲ固著セシメテ各材ノ運動ヲ自由ナラシメス故ニ操縦上却テ不便ナリ而モ後一枚ノ材積約四十尺ノ至六十尺ノニシテ後ノ前後兩端ニ普通各四挺宛ノ權ヲ附ケ一人ノ指揮者ニヨリテ前後各四人ノ後夫カ替ルル々々ニ漕グコト、ナレル故ニ合計普通九人ノ後夫ヲ要スル譯ニテ其構造ニ於テ經費ニ於テ技術ニ於テ遙ニ日本後ニ劣レルモノナリ

營林廠後ノ乗夫ハ多クハ吉野、木曾、紀州邊ヨリ募集シ募集方法ハ各組長ヲ定メ組長ニ人數(十人ナリ二十人ナリ)ヲ限リ技術優秀ニテ身元確實ナルモノヲ選ヒ引率渡韓セシムルモノニシテ官ヨリハ出發手當トシテ乗夫一名ニ付十圓船賃トシテ五圓五十錢(歸國ノ際ハ給セス)ヲ支給シ組長ニハ渡鮮後其組ノ乗夫流後賃稼高拂ノ百分ノ三ヲ取締手當トシテ支給シ責任ヲ組長ニ負ハシム流後開始ハ年々五月十日前後(解氷ハ四月二十日前後)ナルカ故乗夫ハ四月上旬内地出發渡韓シテ九月下旬若クハ十月上旬歸國(上流ノ終後ハ九月初旬)ノ途ニ就クヲ以テ往復ノ日數ヲ算シ七箇月間ハ出稼ニ費スモノト見ルヲ得ヘク其間ニ稼キ得タル流後賃ハ平均一人四百五十圓ニシテ諸雜費二百餘圓ヲ差引一人百五十圓乃至三百圓近クノ貯蓄ヲ郷里ニ提ケ得ルカ故年々乗夫ノ希望者多ク内地町村ニ於テ盛ニ獎勵シ居ルカ如シ勿論木材廠當時ハ暴徒蜂起シテ危險ナリシト異郷ノ風土ニ染マサルト一面ニハ惠山鎮附近ノ衛生行届カス惡疫流行セシ爲メ一時後夫ノ募集ニ困難セシモ今日ハ凡テノ點ニ於テ安全ナルニ至レリ

流後途中流失セシメタル材アルトキハ一尺ニ付九角五十錢ノ辨償金ヲ徵收シ若シ拾得セシ材アルトキハ五ニ補填ヲ爲シ其過不足ノ分ニ對シ辨償金ヲ徵シ若クハ流後賃ヲ給スルカ如ク規定セリ

第四節 現時市場ニ於ケル木材ノ價格ト生産費ニ於ケル收支關係

前述セル山元ニ於ケル各作業ノ經費ヲ考フルニ

伐木賃 一尺ニ付 三十錢

集材賃(道作り共)	一尺ニ付	二十五錢
山地運材費(同)	〃	七十五錢
編後小川出シ(山元ヨリ惠山鎮迄)	〃	四十五錢
流後費	〃	六十錢
計		二圓三十五錢

之レハ角材ノ直接生産費ニシテ丸材ニアリテハ二圓二十三錢ニテ山元ヨリ新義州ニ著スルヲ得ヘシ然ルニ之ヲ直接ニ要スル尺ニ當リ經費ニシテ此外官吏俸給廳費其他間接ニ要スヘキ經費ヲモ計上セサルヘカラス流下材積ニヨリテ尺ニ當リニ高低アルモ年々十萬尺ニ宛ノ流下ヲ圖ルモノトスレハ一尺ニ付約一圓三十錢ノ間接費ヲ要スルニヨリ一尺ニ總經費ハ角材三圓六十五錢、丸材三圓五十錢トナルヘシ然ルニ新義州安東縣ノ市場價格ヲ見ルニ角材一尺ニ付三圓二十錢乃至四圓五十錢ノ間ニアルカ故平均一尺ニ付利益ハ六十錢内外ナルヘシ

次ニ

- 一、伐木造材ノ材積
- 二、造材樹種及材種別造材々積
- 三、伐木造材賃金及就業人員
- 四、集材運材ノ材積
- 五、集材運材ノ賃金及就業人員
- 六、流後々積
- 七、編後賃金及就業人員
- 八、流後賃年及就業人員

(第三號表) 伐木造材賃金及就業人員調査表

年度	區分	賃金總額	就業人員			就業者一日一人ノ平均收得
			日人	鮮人	清人	
四十	豆滿江	一九三、七三	六五八	二六、四〇	一九三、六	〇、五二
	鴨綠江	四七、八五	五九一	一〇、九三	三、四八	〇、五九
四十一	豆滿江	二二、五五六	一三、一九九	二、〇五三	二、九七五	〇、五九
	鴨綠江	二六、六一九	七、五七九	四、三七四	二、六三六	〇、五〇
四十二	豆滿江	二六、九九九	二、六〇八	二、〇三九	三、〇〇七	〇、五〇
	鴨綠江	一、二二三	一九	二、〇〇	二、九	〇、五〇
合計	豆滿江	三三、三三五	五、六五一	四、九〇	九、五八七	〇、五〇
	鴨綠江	八、八八九	五、四一六	六、三三五	六、三三五	〇、五〇
計	豆滿江	四〇、五二四	一一、二七五	四、九〇	一五、八二二	〇、五〇
	鴨綠江	一、二二三	一九	二、〇〇	二、九	〇、五〇

(第四號表) 集材及運材

年度	流域別	集材々積	運材	年度	流域別	集材々積	運材
四十一	豆滿江	三〇、〇〇〇	三、〇〇〇	四十二	豆滿江	二二、二二七	二、〇〇〇
	鴨綠江	二二、二二七	二、〇一七		計	鴨綠江	四、六九五
四十二	豆滿江	二七、七一	五、〇四一	計	豆滿江	七、四五六	一、〇〇〇
	鴨綠江	八、八五〇	三、三三五		計	鴨綠江	一、〇〇〇
計	豆滿江	八、八五〇	七、四五六	計	豆滿江	二、二二三	一、〇〇〇
	鴨綠江	八、八五〇	二、二二三		計	鴨綠江	九、六九七

備考 運材ハ土場マテ運ヒタルモノヲ云フ

(第五號表) 集材及運材賃金並就業人員調査表

年度	流域別	賃金總額	施業延人員			就業者一日一人ノ平均收得
			日人	鮮人	清人	
四〇	鴨綠江	一一、三三九	一四、九八一	三、四三	一、二四三	〇、四九
	豆滿江	一七、九三三	八四三	二七、七八	六、八三〇	〇、六二
四一	鴨綠江	二二、三三三	三三、〇〇七	一三、八七	三、三三六	〇、五五
	豆滿江	二〇、三三三	二、八三三	三〇、二〇〇	二、〇八、九六〇	〇、四六
四二	鴨綠江	七、九六六	一七、一五三	九、九〇五	一、六、二〇五	〇、五〇
	豆滿江	四、七七八	四、五九	六、三三	六、六九〇	〇、六九
計	鴨綠江	五〇、一四二	五七、一九三	四、三六	五、七五、七二	〇、五〇
	豆滿江	四、一三三	六、四、三九	六、八、三五三	六、八、三五三	〇、五〇
計	鴨綠江	五六、二六四	六八、一四三	四、三六	六、三、一八八	〇、五〇
	豆滿江	四、一三三	六、四、三九	六、八、三五三	六、八、三五三	〇、五〇

備考 本表ノ經費ヲ集材及運材ノ兩者ニ分割比較スルコトヲ得サルハ遺憾トスル所ナルモ鴨綠江側ニ在リテハ大
約半額ツ、ト見テ大差ナシト云フ

(第六號表) 流 後 材 積

年度	流域別	發 後 材 積	著 後 材 積	備 考
四十	豆滿江	四九、一三六	四、一八三	發後材積中四十年度ノ
	計	一六三、四九六	四、一八三	
四十一	鴨綠江	一四、〇八六	一、一〇〇	
	豆滿江	一四、〇八六	一、一〇〇	

年度	流域別	賃金總額	就業人員	就業一日一人ノ平均收得
四十二	計	一七二、六六五	一五八、八八四	〇、八七〇
	鴨綠江	一三、五九五	九八、三三三	〇、六六五
四十三	計	一七二、六六五	一五八、八八四	〇、八七〇
	鴨綠江	一三、五九五	九八、三三三	〇、六六五

發後材積中四十二年度途中停滯材一四、三九六尺³ヲ含ム
發後材積中四十一年度途中停滯材一、五五六尺³ヲ含ム
發後材積中四十二年度途中停滯材八、〇〇〇尺³ヲ含ム

(第七號表) 編後賃金及就業人員表

年度	流域別	賃金總額	就業人員	就業一日一人ノ平均收得
四〇	計	三三、二九一	二〇、六七〇	〇、六六五
	鴨綠江	四、五八四	一六、〇八六	〇、四一五
四一	計	四九、五九五	二七、六一六	〇、七九五
	鴨綠江	四、五五三	四、五三三	〇、三三三
四二	計	四〇、七八三	二二、七四四	〇、三〇〇
	鴨綠江	四、七八三	二、七四四	〇、三〇〇
計	計	一三、四三三	三、七七一	〇、五〇〇
	鴨綠江	一、九四三	一、九四三	〇、五〇〇

(第八號表) 流後賃金及就業人員表

年度	流域別	賃金總額	就業人員	就業一日一人ノ平均收得
四〇	計	四、一八三	一八、八六三	〇、八七〇
	鴨綠江	一、四五六	四、三〇〇	〇、八七〇
四一	計	九、一八一	五、四八六	〇、八七〇
	鴨綠江	七、七三七	六、七三九	〇、八七〇
四二	計	七、七三七	八、〇四六	〇、八七〇
	鴨綠江	七、七三七	三、八九三	〇、八七〇
計	計	六、九五六	一五、八二五	〇、八七〇
	鴨綠江	六、九五六	七、五九九	〇、八七〇

年度	流域別	賃金總額	就業人員	就業一日一人ノ平均收得
四〇	計	四、一八三	一八、八六三	〇、八七〇
	鴨綠江	一、四五六	四、三〇〇	〇、八七〇
四一	計	九、一八一	五、四八六	〇、八七〇
	鴨綠江	七、七三七	六、七三九	〇、八七〇
四二	計	七、七三七	八、〇四六	〇、八七〇
	鴨綠江	七、七三七	三、八九三	〇、八七〇
計	計	六、九五六	一五、八二五	〇、八七〇
	鴨綠江	六、九五六	七、五九九	〇、八七〇

第三款 木材ノ供給力及販路

朝鮮成林地五百十二萬町歩ノ總蓄積約十一億八千九百萬尺³ニシテ其可用材積約六億六千六百九十萬尺³ナルコトハ既ニ陳ヘタル所ノ如シ而シテ曩ニ掲ケタル施業案編成箇所ニ付テ見ルトキハ平安南道寧遠郡國有林ニアリテハ年伐材積約十萬尺³ニ對シ可用材積約千三百萬尺³ナルカ故ニ此儘進行スルトセハ生長量ヲ見込マスシテ三十年ノ供給ヲ繼續スルコトヲ得ヘク又江原道麟蹄郡雪嶽山一體ノ國有林ニアリテハ可用材積二百九十萬尺³ニ對シ年伐二萬九千尺³ナルカ故ニ前同様ノ意味ニ於テ百年間ノ供給ヲ繼續スルコトヲ得ヘシ鴨綠江材ニ付テハ後章ニ於テ説明スル所アルヲ以テ重複ヲ避ケル爲メ茲ニ之ヲ略ス

以上ハ比較的纏リタル事業箇所ニ於ケルモノ、ミニ止マリ朝鮮各所ノ殘存森林カ供給スル所ノ數量ハ右ノ小額ニ止マラサルコトハ元ヨリ明ナリ而シテ此等ニ付テハ何等統計ノ依ルヘキナク從テ其正確ナル數量ヲ知ルコト能ハサルハ遺憾トスル所ナルカ朝鮮全土ノ森林ノ木材供給力ニ付推測ヲ下ストキハ前ニモ云ヘル如ク總蓄積十一億八千九百萬尺³ニ對シ可用材積ヲ六億六千六百九十萬尺³トシ更ニ稚樹生育地六百七十二萬町歩ハ殆ント全部鎌刈リ若ハ火田ヲ以テ

荒ラサレタル跡地ナルカ故ニ全部燃料トシテハ利用シ得ヘキ位置ニアルヲ普通トスヘシ而シテ一町歩見込材積十九尺
 ベトセハ約一億二千七百六十八萬尺ベハ可用材積ト見テ可ナリ又未墾地百二十萬町歩ノ上ニ散生セル稚樹ノ材積ヲ一
 町歩九尺ベアリト見ハ千八十八萬尺ベニシテ既耕地二百萬町歩ノ上ニ生育セル樹木ヲ一町歩十尺ベト見ルトキハ二千萬
 尺ベトナリ以上ハ皆可用ノ材積ト見得ヘキモノナリ然ルトキハ合計約八億二千五百萬尺ベカ利用ヲナシ得ヘキ總材積
 トナルナリ而シテ之ニ對スル生長量ノ全材積ハ（成林地ハ生長ヲ停止セル老齡樹多ク且ツ其朽枯ヲ見込ミ之ヲ生長旺
 盛ナル幼壯樹ト相殺シ大體ニ於テ其生長量ニ増減ナシト見其他ノ上述ノ地ニ於テ）約二千八百萬尺ベアルヘシ（稚樹地積
 年トシテ一箇年二千五百五十三萬尺ベ、未墾地同上二百十
 六萬尺ベ、既耕地積平均四十一年トシテ一箇年五十萬尺ベ）然ルニ今朝鮮ニ於ケル毎年ノ木材消費量ヲ考フルニ朝鮮人現在ノ家屋ハ
 土石大部分ヲ占メ從テ建築ノ用材ヲ要スル量少ナシ又燃料ハ藁、高粱、枯草、牛糞ノ乾キタルモノ等ヲ用ウルコト多キ
 カ故ニ大約日鮮人ヲ平均シテ一箇年ノ一人消費量ハ三尺ベト見テ可ナルヘシ然ルニ在鮮人口ハ大約千三百萬人ナルカ
 故ニ其消費年額三千九百萬尺ベトナル然ルトキハ前記可用材積ノミヨリ計算セル總生長量トノ差約千百萬尺ベノ不足
 トナル若シ外國輸入材ナシトセハ朝鮮材ノ現在可用材積（生長量ヲ見込マサルモノ）ヲ以テ供給セサル可ラサルモノ
 ナリ而シテ既往ノ實跡ニ見テ輸出入材ノ差引輸入材ハ一箇年平均百六十萬圓ニシテ一尺ベヲ十圓ト計算セハ十六尺ベ
 其原木材積ハ約三十萬乃至四十萬尺ベニ過キサカ故ニ大數ニ影響ナシ

以上ノ計算ニヨレハ將來無立木地及伐跡地ノ造林ヲ行ハスハ現在ノ可用材積ノミヲ以テハ僅ニ七十五箇年間ノ供給力
 ノ外ナキ理トナリ加フルニ二年ト共ニ人口増加スルノミナラス鮮人家屋ノ構造一變スルノ機運ニ接セハ其消費量現在ノ
 幾倍ナルカヲ知ラス果シテ然ラハ右ニ所謂七十五年ノ供給ヲ維持スルコト能ハサルナリ元ヨリ不足額ハ他ヨリノ輸入
 ヲ仰クコトハ、朝鮮材ニ付テハ生長量以上ノ伐採ヲ禁スルノ林業ノ原則ニ準據シテ施行スルノ意味ヲ以テセハ現在ノ
 供給力ハ毎年二千八百萬尺ベヲ出ツル能ハサルコトハナルナリ

朝鮮材ニシテ一定ノ販路ヲ有スルモノハ先ツ鴨綠江材漢江材及大同江材ナリトス

漢江材ハ龍山ヲ流ル、漢江上流々域ニアル松材ニシテ材質ハ劣惡不良ニシテ鮮人家屋ノ建築材トシテ用ヲナスニ過キ
 ス其流下數量ハ年ニヨリテ多少ノ異動アルモ大約每歲五千尺ベニシテ京城龍山水原地方ニ供給ス
 大同江材ハ大同江流域ノ赤松雜ニシテ少許ノ白楡、唐楡、胡桃等ヲ混ス材種ハ概ネ丸太柚角及辨甲材等ナルモ材質曲
 惡不良ニシテ大材ハ稀ナリ主トシテ鮮人向ニシテ其流下數量ハ年ニヨリテ同シカラサルモ大約毎年二萬五千尺ベノ見
 當ナリ概ネ平壤市場ニ消化セラル

鴨綠江材ハ探木公司所管ノ側ハ別トシ朝鮮材ニ付テハ紅松ヲ主トシ落葉松杉松雜木ヲ混ス販路トシテハ初メハ紅松材
 ノ如キ支那人ヲ顧客トナシテ販賣容易ナリシモ落葉松ニ至テハ支那人之ヲ黃花松ト稱シテ文字不吉ナルカ爲メ需要
 起ラス主トシテ日本人ニ用途ヲ廣ムルコトヲ圖レリ而シテ四十一年末迄ハ内地材ニ壓倒セラレ日露戰役後一時朝鮮縱
 貫鐵道カ軍用鐵道トシテ管理セラレシ當時鐵道用及兵營用ニ使用セラレシ外廠材ノ勢力振ハサリシカ四十二年ニ至リ
 一ハ廠材ノ使用ヲ獎勵シ其販路ヲ廣ムル必要上統監府ニ於テ官廳ノ建築ハ必ラス廠材ヲ用ウルコトニ限定セシト一ハ
 鐵道局ト特別ノ運賃ヲ協定シ格安ニ販賣セシメシ爲メ俄然勢力ヲ張り倒ニ北海道材内地材ヲ驅逐スルノ狀況ヲ呈スル
 ニ至リ本廠内ニ販賣係ヲ設ケ龍山ニ派出所ヲ置キ盛ニ販路ヲ開拓セリ然ルニ四十二年末頃ヨリハ官廳ノ建築ニハ必ラ
 ス廠材ヲ以テ充ツルノ制限ヲ罷メ請負人ノ選擇ニ委メルコトハナリ尤モ廠材ヲ用ヒサル可ラサルヤウ仕樣書ヲ作製セ
 ルモ材質ノ優良ハ内地材ニ及ハス且ツ一般ニ内地人ノ永住的思想ヲ懷クモノ漸次増加シ木材商人モ種々ノ方法ヲ以テ
 内地材運賃ヲ低廉ナラシメント圖レル爲メ廠材ノ勢力モ今ヤ旺盛時期ヲ下降シツ、アルカ如ク消費地トシテハ京
 城ヲ第一トシテ其以北及南滿洲ヲ主トシ大體ニ於テ京城以南及朝鮮東海岸ニハ大ナル勢力ナシ
 要スルニ販賣高ノ如何ニ拘ハラス販路トシテハ原木ハ南滿洲朝鮮挽材ハ朝鮮内大部ハ度支部及朝鮮駐劄軍建築部ナリ
 朝鮮内需用地ハ平壤鎮南浦京城龍山仁川大邱馬山釜山ニシテ板類ノ需用最多ク紅松挽角之ニ次ク

第四款 林業労働者ノ状態

朝鮮ニ於テ林業労働ヲ專業トセルモノハ營林廠事業ニ使役セラル、モノ、外ハ多クハ農業ノ副業的意味ニ於テ林業ニ使役セルモノナリ勞銀ニ至テハ勞務ノ種類及地方ニヨリテ異ルハ當然ナルモ林業ト云フヘキモノハ永ク彼等ノ腦裡ニ存在セサルカ故ニ其雇傭ニ關スル慣例モアラサレトモ農業ニ關スルモノニアリテハ年雇月雇日雇其他請負労働ノ種類モアリテ何レモ彼等ノ生活程度ヨリ云フトキハ労働ヲ厭フノ結果比較的勞銀高價ノ感アリ殊ニ内地人ヨリ使役セラルル場合ハ彼等間ニ於ケルモノヨリモ高價ナルヲ普通トス而シテ年雇月雇ハ食料等一切ヲ雇主ヨリ給付スルヲ普通トシ日雇ニアリテハ食料酒煙草等一切自辨ノモノト雇主負擔ノモノトアリ多ク日貨又ハ鮮貨ヲ以テ支拂ヘトモ時ニハ概ラ以テ之ニ代フルコトアリ而シテ造林地苗圃等ニ使用スル朝鮮人夫ハ其專業タル農業ノ勞銀ヲ標準トスル場合多ク稀ニ燃料ノ採取又ハ開墾支障木除伐ノ爲メ松ノ稚樹類ヲ伐採セシムル場合ノ如キハ其伐採量ヲ折半シテ其勞銀ニ代ユルコトアリ又ハ手入除伐等ニ付テハ伐採取經ノ結束迄一人一日平均三十五把ノ功程ニ對シ十八把(約三十五錢ニ當ル)ヲ勞銀トシテ與フル實例モアリ然レトモ通例最高鮮人男三十錢乃至三十五錢同女十六錢乃至二十錢最低男二十錢女八錢位トス而シテ木浦附近鮮人ノ如キハ苗圃開設以來生活状態良好トナリ從來小作ニヨリテ辛クシテ生活シタルモ苗圃事業ノ恩恵ニヨリ幾分生計ニ餘裕ヲ生スルニ至リシ傾アリ而シテ是レ獨リ木浦ニ限ラス各地ノ苗圃造林地附近ノ鮮人ヲシテ幾分ツ、其生活ヲ向上セシメツ、アルハ疑フ可ラサルコトナリ

然レトモ永ク養成セラレタル無恒心ノ觀念ハ彼等ヲ驅テ容易ニ貯蓄ノ美風ニ泥マシメ難キモ漸次彼等ノ間ニ之カ必要ヲ唱導セルモノヲ出セルハ喜フヘキ現象ナリ例ヘハ慶南咸安郡ニテハ明治四十四年中生産勸励貯金組合ヲ設ケ男女五六十名加入シ嚴格ナル規約ニ基キ各自勵行ヲ盟約シ新加入者ヲ勸誘セルアリ又ハ水原勸業模範場ニ於テハ小作人ニ一箇年十圓ノ貯金ヲ強制スルコト、ナシ毎夜十間ノ製繩ヲ命シ之ヲ市價ヨリモ低ク彼等小作人ノ直接賣拂代價ヨリモ高

ク模範場ニテ買入レ之ヲ郵便貯金ニ預入レシムル方法ヲ執レルカ如シ

次ニ營林廠事業ニ使役セラル、労働者ノ状態ヲ見ルニ大略ハ前款伐木造材運材ノ所ニ絞シタルモ尙之ヲ布行スレハ營林廠流後作業ノ爲メ鴨綠江沿岸要所ニハ人後夫ヲ移住セシムル必要ヲ認メ四十年ニ於テ木曾、大和、徳島、紀伊、岐阜等ノ地方ヨリ募集シ伐木地タル惠山嶺ト新義州トノ間ニ配置シ新加坡嶺ニ十一戸中江嶺ニ十九戸高山嶺ニ八戸ヲ移住セシメタリ移住當時ハ風土ニ慣レサルト不便ナル爲メ艱難ヲ訴フル者アリシカ漸次風土ニ慣レ河川ノ狀況ニ通シ技術ノ熟達スルニ及ヒ收得モ増加シ一方ニ於テハ本業ノ休止期ニハ伐木運材ニ從事シ家族ハ後夫ノ宿屋又ハ農業ヲ副業トスルカ故ニ生計潤澤トナリ鮮人トノ感情モ平和ニ融通シ四十二年ヨリハ中江嶺ニ日鮮人協同シテ學校ヲ設ケル等概ネ好都合ニアリ而シテ其使役人員ハ鴨綠江流域ノミニ於テ製材事業以外ノモノ

伐木造材人夫延數平均一箇年	朝鮮人 一萬九千五百三十人
内地人 一萬七百七十五人	計 三萬一千九百三十九人
支那人 二千四百五十人 <small>(但シ四十年四十二年ニ於テノミ使用セリ)</small>	
集材運材人夫延數平均一箇年	朝鮮人 十七萬二千三百九十八人
内地人 一萬八千四十七人	計 十九萬一千九百四人
支那人 二千八百八十九人 <small>(但シ四十年四十二年ニ於テノミ使用セリ)</small>	
編後人夫延數平均一箇年	朝鮮人 一萬二百八十九人
内地人 一萬五十五人	
計 二萬三百四十四人	
流後人夫延數平均一箇年	朝鮮人 二萬一千七百七十八人
内地人 二萬九千四百九十三人	

計 五萬 千二百七十一人

九十六

右ノ内支那人ハ伐木造材ノ外ハ集材運材ニハ四十一年迄使用シ編筏流筏ハ一モ之ヲ使役セス故ニ内地人及朝鮮人ノミ
ノ總延數平均一箇年各事業ヲ通シタルモノヲ計算セハ

内地人 六萬八千三百七十人 朝鮮人 二十二萬三千九百九十五人

計 二十九萬二千三百六十五人

而シテ人夫賃ハ功程拂ナルモノ一日平均ノ人夫賃ヲ見ルニ鴨綠江流域製材以外ノ事業ニ於テ

伐木造材

内地人 一、二五 朝鮮人 〇、四二

支那人 〇、五二(但四十一年ノミ使用ス)

集材運材(兩者合計)

内地人 一、二三 朝鮮人 〇、四五

支那人 〇、五二(但四十一年ノミ使用ス)

編筏

内地人 三、〇〇 朝鮮人 〇、六三

流筏

内地人 二、三三 朝鮮人 〇、四八

此等ノ労働者ハ私人ノ營業セル人夫合宿所ノ如キモノ、中ニ居住セル鴨綠江畔各要所ニ假小屋様ノモノヲ建設シテ
之ニ無代居住セシムルコト、セリ而シテ之ニ對シテ購買組合労働保險等ノ制度設ケラレサルモ衛生上ノ設備トシテハ
惠山鎮ニ於テハ守備隊附軍醫ニ囑託シテ彼等ノ診療ニ充ラシメ藥價ノ如キモ幾分低減セリ浴場ノ設備トシテハ營林支

廠附屬ノ浴室(男女別)ヲ設ケ身分ニヨリテ入浴時刻ヲ定メ官吏以下之ニ入ルコトヲ得セシム貯金思想ハ初メハ少ナカ
リシモ近時大ニ節約ノ風ヲ生シ料理店(惠山鎮ニハ約九軒アリ)ノ如キモ逐次不景氣ヲ訴フルニ至レリ流筏一期間ニ
最モ慘憺ニシテ技術アルモノハ約二百圓ノ貯蓄ヲ郷里ニ齎ラスモノアルコトハ前既ニ陳ヘタル所ナリ然レトモ凡テノ
労働者皆然ルニアラス高山鎮(營林廠出張所々在在)地方ノ如キハ從來復乘夫間ニ金錢貸借ノ習慣生シ同所ヨリ新義
州ニ流下シテ再ヒ歸來スル迄ノ期間約二十日間ノ貸借ニ於テ初メ流下ノ際支那銀一圓ヲ借りタルトキハ歸來ノ後日本
貨幣一圓ヲ以テ返済スルコト、ナレリ其當時ノ相場日本貨一圓ハ支那貨ノ約七十六錢位ニ當ル高利ト云ハサル可ラス
同出張所ニテハ之ヲ避ケシメントシテ乘夫ニ前貸ヲナスコト、セルモ尙右ノ貸借行ハル、カ如シ

第五章 山地住民ノ生活狀態及木材以外ノ林產物

由來鮮民ハ積年誅求收斂ノ結果進ンテ産業ノ發展ヲ企テントスル事渺ナク唯三面海ヲ以テ洗ヒ漁獲數量モ比較的多大
ナルト古來重農主義ヲ以テ國ヲ建テタル關係上農漁ノ二ハ朝鮮産業中比較的進歩セルヲ見ルト雖生存競争ニ敗レテ山
地ニ遁入シタル者ニ於テ産業ノ觀念アル筈ナク殊ニ此輩ニ至テハ何等資力ナキノミナラス一定ノ地ニ永住スルモノ少
キヲ以テ永年ニ互ル林業ノ如キモノヲ生業トスルモノナク何ヲ本業トシ何ヲ副業トスルノ區別ヲナスコト能ハサルナ
リ而シテ彼等山地住民ハ多數集團スルコトヲナサス互ニ懸絶シテ到ル所蟹屋蟹舍ヲ造リテ住居シ何等生活向上ノ思慮
ナキハ勿論貯財ノ念全ク缺如セルハ言フヲ俟タサル所ゴシテ或ハ林内ニ侵入シテ薪ヲ採取シ山ニ蜜蜂ヲ放チ江邊ニ漁
獵ヲ試ミ又ハ火田ヲ開墾シテ以テ僅カニ口ヲ糊スルヲ常トス故ニ一朝歲凶ナラハ殆ント生活ノ途ニ苦シミ林内ヲ彷徨
シテ樹實草根樹木ノ嫩芽嫩葉ヲ食シテ僅カニ生命ヲ維持スルノ慘況ヲ呈スルコトアリ其北鮮森林深キ地ニアリテハ木
杷(樵夫)砲夫又ハ砲手(獵夫)控金賊(採金業者)藥草採取者等ノ巢窟ニシテ藥草採取者ハ山人蔘、黃芪、細辛、木通、
太刀子等ノ蔘材ヲ集收センカ爲メニ猛獸風雪ハ何等介意スル所ナク數日ノ糧食ヲ調ヘテ深山幽谷ヲ跋涉スルナリ獵夫

九十七

ハ禽獸ヲ逐フテ居住ヲ定メサルモノト茅屋ヲ構ヘテ時ニ出獵スルモノトアリ又何レノ山間僻陬ノ域ト雖寸尺ノ耕地ナキモノ少ナク彼等ハ農作地ヲ山麓溪谷ノ間ニ覓メテ巧ニ耕作ヲ施シ鴨江沿岸地方及江原道地方ノ如キ農ノ傍ヲ柞蠶ノ養成ヲナセルモノ亦甚タ多シ要スルニ彼等ハ世運ノ消長ニ對シテ何等關知スルノ概ナク斯クノ如クニシテ單純ニ天壽ヲ終ルモノナリ唯此山地住民ノ職業中朝鮮氣候風土ノ關係上養蠶ノ如キハ好適ノ産業トシテ益其獎勵發達ヲ禱ランコトヲ欲ス

尙彼等カ生活ノ間ニ從事セル作業ノ主ナルモノヲ列記セハ概次ノ如シ

- 一、捕鳥獸
- 二、養蠶(ハリクワ)ニテ養蠶スルモノ)
- 三、製紙(カウブ)ヲ用ユ)
- 四、麻布棉布製作眞席製作
- 五、製炭及造薪
- 六、油製造(樟油ハ香料ニ用ヒ「ハベウルシ」、「カラスノ山椒油ハ燈油又打摺用」サンシヨウ「モ原料ニ用ウ)
- 七、椎茸採取及製造
- 八、樹實採取(「クリ」、「イチヂク」、「シイ」、「クルミ」、「デウセンマツ」、「クヌギ」、「ナラ」)
- 九、蠟石器製造
- 十、編竹業(竹細工、方笠即帽子、笠帽、傘、籬圍、扇、子籠竹席)
- 十一、木材ヲ原料トシテ製作セラル、器具類ヲ列記スレハ次ノ如シ
 - (イ) 棉線器(「クヌギ」)
 - (ロ) 膳(「イチヂク」、「マツ」)
 - (ハ) 木履(「マツ」、「ヤナギ」、「シンジュ」)
 - (ニ) 櫛(「カシ」)
 - (ホ) 箆(「カシ」)
 - (ヘ) 麥打器(「エゴノキ」)
 - (ト) 扞(「カシ」、「シヅキ」)
 - (チ) 鋤臺(「カシ」)
 - (リ) 農具柄(「マツ」、「カシ」)
 - (ヲ) 櫛(「クヌギ」、「竹ヲ主トシテ用ユ」)
 - (ル) 棺(「本主マツ」、「シンジュ」)
 - (ヲ) 木枕(「上等」、「ビヤク」)
 - (タ) 船(「マツ」、「クヌギ」)
 - (カ) 硯箱(「ビヤクシン」、「クヌギ」、「マツ」)
 - (ヨ) 船釘(「ネツシサシ」)
 - (ツ) 掘木器(「流シ又ハ牛馬飼食ヲ與フ」)
 - (ネ) 太鼓(「エノキ」)
 - (ソ) 粗(「マツ」、「クヌギ」)
 - (ナ) 輿(「シンジュ」、「マツ」)

- (ラ) 祭盤(椀皿等ノ木製シタルモノ)
- (ム) 馬具(「クヌギ」)
- (ウ) 椽臺(「マツ」)
- (キ) 榊(「マツ」)
- (ノ) 木綿織器(「マツ」、「ヤナギ」)
- (オ) 洗棒(「ヲノオレカンバ」)
- (ク) 箕(「ヤナギ」、「竹ヲ用ユ」)
- (カ) 籬(「松ノ赤太ヲ曲ケ用ユ」)
- (ヨ) 臼(「マツ」ノ切株石ヲ用ユ)
- (タ) 煙管(「クヌギ」、「ワレオンカンバ」)
- (レ) 柳ノ「グリモノ」(「食器等ヲ入ル、大ナル盆ナリ」)

十二、樹皮採收(「アキマキ」皮ヲ割キ「タン」ニシテ取リ)

十三、獸皮ノ製作(熊、黒貂、狐、「カハヤソ」)但シ近時ハ銃器ノ使用ヲ禁シタル故其量少シ
以上列記シタル各林産物製造中養蠶ノ如キハ到處多少從事セサルハナキモ製紙事業等ハ(羅州)(潭陽長城)谷城求禮郡方面盛ナリ又製炭造薪モ森林地方最多ク油製造ハ濟州甫吉莞島等トス蠟石器製造ハ主トシテ珍島石水營ニ於テ盛ニ行ハレ竹器ト共ニ全南ノ名産トス編竹業ハ主トシテ竹林多キ地方ニ行ハル、ハ勿論ナルカ竹細工其他帽子類製造ニ名アルハ羅州務安方面トス濟州島ニ於テハ主トシテ帽子製造ニ從事スル如シ而シテ木材原料ノ各器具類ハ有林地方ニ於テ製造セラレ殊ニ各地方ニ散在スル小樹林即チ寺有林内ニ於テ製造セラル、モノ最モ多キヲ占ム其産額ハ極メテ微微タルモノニシテ亦粗雜ナルモノニ過キサル也而シテ椎茸ハ濟州島及智異山ノミト云フモ不可ナキカ如ク就中濟州島ニ於テハ天然生ノ椎茸ヲ採取セシコトハ其起原甚太古ク從來土人入山伐倒シテ之ヲ放置シ發生期ニ於テ槓打ヲナスカ如キ粗放ノ方法ニシテ採取時期及乾燥等ニ留意セス申トナシテ日乾ニスルノミナルカ故品種劣等内地尙又ハ輸出品タルノ價值ナク此等ハ主トシテ釜山京城等ノ鮮人ニノミ供給セラレ百斤二十圓乃至三十圓ノ相場ナリ大凡明治三十九年頃ヨリ日本人ニ於テモ種々經營シテ屢失敗ヲ重ネシモ本島ノ椎茸原木タル「シデ」、「ナラ」樹ハ本島ニ於テ椎茸栽培ニ最モ適當ナルコト地勢氣候濕氣ノ最モ適當ナルコト土地力濕氣ノ透過ニ適當ナルコト人夫賃ノ低廉ナルコト等ハ本島ノ本業ニ就テ嚆望スヘキモノトシテ經營ヲ怠ラス採取額ハ年次増加シ四十一年ニハ二百三十九斤ナリシモノ四十二年ニハ千二百〇九斤四十三年ニハ約三千斤ナリ而シテ成績品ハ傘薄ク香氣亦不良ナレトモ大葉多ク内地尙キトスルコト

トヲ得大阪ニ於ケル相場ハ大約六十五圓乃至八十五圓位ノ所ニアリ現在尙創業ノ時期ニシテ成績ノ未タ見ルヘキモノ
ナケレトモ將來益有望ナルモノ、如シ

第六章 林業ノ經濟

第一款 農牧業ト林業ノ關係及其ノ收益歩合

朝鮮ニ於ケル林業ノ狀況ハ既ニ陳ヘタルカ故ニ茲ニ農牧ト林業トノ關係ヲ敘スルニ先タチ農業及牧畜業ノ極メテ概況
ヲ記サント欲ス

朝鮮ノ面積約二千二百萬町歩ノ内農地面積ハ畑百二十五萬町歩田八十五萬町歩合計約二百十萬町歩ニシテ大約全面積
ノ一割ニ當リ母國ノ全面積ニ對スル農地ノ一割四分、瑞西ノ一割六分ヨリモ寡少ナリ又總人口約一千三百萬戸數二百
八十一萬ノ内農業者ノ人口約一千萬、戸數約二百二十二萬ナルカ故ニ總戸口ニ對シ約八割ハ農業ニ從事セルモノト云
ハサル可ラス而シテ一戸平均ノ農地面積ハ約九反四畝歩ニ當リ内地ノ一町二畝ヨリモ少ナシ又右ノ農地面積ニ對シ作
付反別ノ比例ハ大體左ノ如シ

米 三割二分三厘 麥 二割一厘 大豆 一割二分八厘

雜穀(小豆、粟、稗、黍) 三割四厘 特用作物(棉、大麻、苧麻、煙草、荳蔻) 四分二厘 桑 二厘

而シテ米ノ一反歩收穫ハ從來ノ平年作ニ於テ約一石一斗三升、麥ハ七斗九升、大豆ハ六斗ノ割合ナリ其ノ年收穫ハ平
年米八百萬石(四十三年度ハ約九百萬石)麥三百九十萬石、大豆百六十萬石、雜穀合計約四百三十五萬石、特用作物中
棉二百九十萬貫、大麻百十三萬貫、苧麻三萬貫、煙草三百十萬貫、荳三萬四千石トス而シテ產額ノ最大ナルハ米ハ慶
尙北道麥及棉ハ全羅南道大豆ハ黃海道トナス即チ農產地トシテハ如何ニスルモ北鮮ヨリ南鮮ノ方氣候地勢地味等ノ關
係上優良ノ地ニアルコトヲ知ルヘシ

蠶業ハ曩ニ陳ヘタル如ク朝鮮ハ到ル所之ニ適セサルナク其ノ收購額モ從來ハ約一萬二千石ト稱セラレシカ本業ハ朝鮮
ニ於テ寔ニ有望ナル事業ノ一ニシテ蠶業傳習所ヲ設ケテ養蠶ノ方法ヲ教ヘ桑樹ノ栽培ヲ獎勵シ四十四年度ノ如キハ恩
賜金ノ利子及獎勵費合計三十萬圓ヲ斯業ノ爲メニ費セル狀況ナリ朝鮮現在ノ經濟ニ對シテハ過大ノ觀アリシモ效果空
シカラス從前ノ繭ノ彈力少ナク大小不揃ニシテ作業困難ナリシニ右ノ傳習及獎勵ノ結果新ニ生産シタルモノハ其ノ光
澤大サ彈力等成績良好ニシテ從前ノモノニ比スレハ全ク別個ノ觀ヲ呈セリ

又果樹ノ栽培ニ至テハ朝鮮ハ實ニ果樹ノ理想的郷土ニシテ歐洲種生食用及釀造用葡萄西洋梨貯藏用種茶果貯藏用種最有
土ヲ含有スルカ故ニ朝鮮ハ實ニ果樹ノ理想的郷土ニシテ歐洲種生食用及釀造用葡萄西洋梨貯藏用種茶果貯藏用種最有
望ニシテ此他ノ果樹モ各地盛ニ栽培セラレ

要スルニ農産物ニ關シテハ今ヤ各勸業模範場及各支場ニ於テ調査研究中ニ屬スト雖トモ能ク耕地整理ヲ行ヒ利水ノ道
ヲ全フシ兼テ未墾地ノ開拓(作業極メテ困難ノ地多シトス)ヲ施サハ少ナクトモ現在收穫ノ約五割ヲ増加スルコト容易ナルヘシ

元ヨリ治山ノ策ヲ建ツルコトハ農耕ノ健全ナル發達ヲ保證スヘキ根本ノ必要問題タルニハ相違ナキモ荒廢ノ度甚ダ進
メル現時諸山ノ狀況ト農事獎勵ノ一日モ止ムヘカラサルトニ照セハ治山ノ計畫ノ外ニ直接農事保護ノ道ヲ樹テサルヘ
カラス故ニ全州平野ニ於テハ既ニ數十萬圓ノ資ヲ投シテ水利組合ヲ設立シ又ハ水原勸業模範場ニ於テハ場内ノ西湖ヲ
利用シ平均水面積二十七町歩ノ瀦水池ヲ建設シテ大ニ利水ノ方策ヲ講スルニ至レリ

次ニ牧畜事業ハ主トシテ牛畜ニ關スルモノナリ馬ハ體軀矮小脚ノ速力遲鈍ニシテ只現在ニ於テハ農耕ニ用フルモノハ
極メテ稀少(皆無ニアラス)主トシテ交通ノ開ケサル現下ニ於テ一種ノ交通機關トシテ缺クヘカラサルモノタルニ止
マル牛ニ至テハ其ノ體格偉大ニシテ強健、脚敏捷ニシテ蹄堅ク性質溫良ニシテ粗食ニ甘シシ勞力ニ耐エ一日ノ功程約
四十貫ノ重量ヲ負フテ六里ニ到ルコトヲ得ヘク肉用ニモ好適シ六、七歳ニシテ約四百斤内外ノ肉量ヲ有シ價格モ低廉
ニシテ母國ニ輸入セラレタルモノ約四十圓乃至六十圓ナリ原產地ニ於テハ元ヨリ此以下タルハ云フ迄モナシ而シテ其

ノ農耕運輸食用トシテ朝鮮ニ需用セラル、ノミナラス生牛及其ノ産物ノ輸出ハ年ト共ニ増加シ咸鏡道ヨリ露領ニ入ルモノ釜山ヲ經由シテ母國ニ出ツルモノ共ニ尠カラス而シテ其ノ現在數ハ大約八十萬頭ヲ下ラス輸出數ハ近時一箇年平均約二萬頭價格約六十六萬圓ヲ稱シ殊ニ生産力旺盛ニシテ將來誠ニ有望ナル事業ナリ而シテ母國ニ於テハ日露戰役後大ニ經營ノ歩武ヲ進メ大ニ改良ノ點ニ於テ奏效セル趣アルモ其ノ生産數遲緩ノ傾アリ最近ノ統計ニ徴セハ母國畜牛總數約百二十三萬頭内百萬九千頭ハ農用及食用二十餘萬頭ハ乳用及種牡牛ナリ即チ農家四戸四分ニ對シ一頭ノ割合トナリ牛馬耕地二百四十六萬町歩ニ對シ手耕地二百九十五萬六千町歩ノ大面積ナルハ畜牛ノ不足セルト價格ノ高直ナルニ由ルコト多キニ居ラン之ヲ補充スル上ニ於テモ又將來強健ナル國民ノ體軀ヲ養成スル點其ノ他嗜好ノ向進人口ノ増加ヨリ需用ノ増大スヘキ上ニ於テモ古來超然トシテ發達シ成績顯著ナル彼土ニ斯業ヲ發展セシムルハ理由アルコトナリ況ンヤ朝鮮農事改良ノ上ニ於テモ至大ナル關係ヲ有セルニ於テオヤ即チ朝鮮地方ハ朝鮮トシテハ比較的集約ナル農法ニシテ勞働者平均二人耕地一町三反二畝トナリ北鮮地方ハ粗菜ニシテ勞働者平均三人耕地六町歩トナルカ故ニ農事ノ經營ニ家畜ヲ必要トスル程度大ナリト云ハサルヘカラス而シテ其ノ畜牛ノ生産地トシテハ土地未タ開ケス原野ノ牧牛ヲ待ツモノ多ク住民又自ラ牧牛ニ熟練ナル咸鏡道及江原道地方ヲ以テ最トシ農法モ比較的集約ニシテ諸事畜牛ノ力ヲ必要トスル度合ノ比較的少ナキ南鮮地方ハ體格生産共ニ劣リ平安黃海京畿ノ地方ハ其ノ中間ニアリトス

又朝鮮ニ於テ畜牛ノ特種ナル飼養アリテ之ヲ預託ト云ヘリ元來畜牛ノ必要ナル前陳ノ如ク原野ノ到ル所ニ散在スルカ故ニ相當規模ヲ有スル牧場ノ建設アルヘキ等ナルモ從來人民貧弱ニシテ自ラ之ヲ購入スルノ資力ナク農事ノ際之ヲ高賃ヲ以テ借用スルヲ常トス故ニ富有ナルモノハ之ヲ預託シテ利殖ノ道ヲ圖ルコト盛ニ行ハレ少ナキハ四五頭多キハ數十百頭ノ預託ヲ各所ヨリ集メ預ルモノアリ其ノ方法慣習ハ各所異リ例ヘハ木浦附近ニテハ犢牛ヲ借入レ之ヲ使養シ之ヲ返還スル際預ケ主ヨリ飼養料トシテ犢一頭又ハ三圓六十錢許リ與ヘ若シ牝牛ニシテ仔ヲ産ミシトキハ之ヲ折半ス、釜山地方ニテハ所有者ニ於テ飼養料ヲ拂フモノト受託者ニ於テ之ヲ支辨スルモノトアリ前者ハ畜牛ヨリ生スル一切ノ

利益ハ所有者ノ所得トナリ後者ハ其ノ利益ヲ折半スルカ又ハ出産セル第一ノ犢牛ヲ受託者ニ第二ノ産犢ヲ所有者ニ分收ス京城地方ハ犢一箇年又ハ二箇年間預託シ當初其ノ犢牛ノ原價ヲ定メ滿期ノ後之ヲ賣却シ其ノ代金ヨリ原價ヲ控除シタル殘額ヲ折半ス而シテ預託中疾病治療ノ費用ハ所有者ノ負擔トシ斃死シタルトキハ所有者ハ原價ヲ受託者ハ飼養料ヲ損スルモノトス、江原道地方ハ成牛ノ預託期間ハ十箇月トシ使役料トシテ秋期米二斗即チ母國ノ三斗ヲ受託者ヨリ納付シ預託中牛疫ニヨリ死シタルトキハ所有者ニ於テ全部ヲ他ノ疾病ニヨリ斃レタルトキハ其ノ損害ヲ折半シテ負擔ス元ヨリ使役過度又ハ受託者ノ過失ニ基ク斃死ハ受託者ノ負擔トス而シテ犢ハ二十四箇月間飼育セシメ滿期ノ際飼養料トシテ犢牛一頭ヲ與フルカ又ハ成牛ヲ賣却シテ代金ヲ折半分配ス、咸鏡南道ハ犢ヲ預クルコト一箇年ニシテ所有者ハ受託者ヘ預託シタルモノト同地位ノ犢ヲ贈與ス黃海平安道地方ハ犢ヲ預クルコト二箇年ニシテ報酬トシテハ受託者ニ犢一頭ヲ購求シテ之ヲ與ヘ尙五十錢乃至三圓ヲ添與ス斯ノ如キ方法ハ牛畜ノ事業ヲ獎勵シ統一的ニ之ヲ改良發展ヲ圖ラントスル點ヨリ云ヘハ將來尙考ヲ要スヘキ問題タルヘキモ農業資金潤澤ナラサル朝鮮現在ノ狀況ニ於テハ簡便ニシテ一舉兩得ノ牧牛法ト云フヲ得ヘキ乎

右陳フル所ノ如キ牛畜ノ事業ハ朝鮮ニ於テ最モ有望ナルノミナラス農耕ニ一日モ缺クヘカザサル用具ニシテ從來農家ノ副業トシテ經營セラレ來リシモノナリ而シテ農牧ノ事業カ直接若ハ間接ニ森林ノ保護ナクハ成立シ能ハサルコトハ古今東西皆然ラサルナク殊ニ朝鮮ノ如ク農業尙幼稚ナル時代ニ於テハ直接ニ森林ニヨルノ擁護ヲ必要トスレトモ永ク貧弱困憊ノ餘民何等ノ資力蓄財ナクハ收利ヲ百年ノ後ニ俟タサル可ラサルカ如キ林業ニ對シテハ寔ニ冷カニシテ之ヲ專業トスルモノ鮮ク只偏ニ農ニ集ルニ至リシハ實ニ已ムヲ得サル所ナリ由來國土保安ノ關係ヨリシテ之ニ對スル森林事業ノ經營ヲナサントハ殆ン多クノ場合ニ於テ何物ヲ排シテモ之カ完成ヲ期セサル可ラスト雖トモ其ノ他ノ場合ニ於テハ概ネ農牧林ノ三業ハ常ニ相伴フテ調和ヲ維タサル可ラスシテ而モ屢衝突ヲ醸スコト多キモノナリ農牧ニ厚ケレハ林ニ疎ナラサル可ラス林ニ專ラナレハ農牧盛マサル可ラス之ヲ適當ニ案配スルコト爲政者ノ常ニ考慮ヲ要スヘ

今右三業ノ收益部合ヲ考フルニ孰レモ其ノ成績ノ優劣ニ付テハ互ニ地方及關係ヲ異ニシ牧畜ハ北鮮ニ宜シクシテ南鮮ニ宜シカラス而シテ農作ハ之ニ反ス林業亦其ノ地位關係樹種生長度合等ニヨリテ收益同シカラサルハ言ヲ俟タス故ニ同一狀態ノ土地ニ對シテ右三業ノ各一箇ヲ實行シタル場合ニ於ケル收益部合ノ如何ヲ想像シ之ヲ正確ナル計數ヲ以テ表示センコト殆ント不可能ナル觀アレトモ今計算ヲ簡便ニスルカ爲メニ假ニ生活費ヲ度外ニ措キ一定ノ耕地ヲ買收シテ之ヲ小作ニ附シタル場合ヲ假定シ地主ノ收入ナルモノヲ見ルニ朝鮮ニ於テハ麥一反歩ノ收穫ハ平均約一石ニシテ價格モ平均約三圓ナリ而シテ元來小作ニ二様アリテ一ハ麥ノ收穫二分ノ一ヲ地主ニ與ヘテ租稅ハ地主ノ負擔トスルモノト一ハ小作人ニ於テ納稅ヲ負擔シテ地主ハ只一斗落ニ付一斗五升ヲ收ムルコトナリ一斗落ハ土地ニヨリテ異ナルモ平均百坪トセハ一反歩ニ對シ地主カ小作人ヨリ收入スル所ハ四斗五升即チ一圓三十五錢トナル而シテ畑地平均一反歩ノ價格十三圓ナルカ故ニ約一割強ノ收益トナル若シ假ニ原野ヲ買收シテ林業ヲ營ム場合ヲ想像スルニ伐期十五年ノ薪炭林一町歩ヲ造成スル場合ニハ原野買入代苗木代地持運搬植付器具補植手入管理費等ノ支出ヲ四十五圓ト見積リ金利ヲ五分トシ十五年後ニ於ケル元利合計ハ約九十七圓餘トナリ幹枝葉等ノ收量約二萬貫トシ一貫一錢ニ見積リ二百圓ノ收入、收支ノ差百三圓トナリ一箇年ノ利益約六圓八十六錢餘ニシテ支出ニ對シテ七分強ノ純益トナル、而シテ畜牧ニ付テ見ルニ「エアシャ」種種牡牛ニアリテハ其ノ飼料中牧草ノミハ一頭一箇年約二千七百貫、シンメンタール種種牡牛ニアリテハ一頭一箇年約三千三百貫、假ニ平均三千貫トスレハ朝鮮ニ於テ最モ收穫量多キ赤「ツメ」草一町歩收量二萬一千貫ヲ以テ七頭ニ供スルコトヲ得ヘシ但シ此數量ハ褥草ヲ必要トスルモノトシテノ計算ナレトモ實際現時北鮮ノ牛舎ハ南鮮ニ於テ敷藁ヲ給スルニ拘ラス全ク極寒ト雖トモ板敷ノ儘ニ放置セルカ故ニ前記ノ如キ多量ノ牧草ヲ必要トセス從テ裕ニ一町歩ノ株ヲ以テ十頭ヲ養フコトヲ得ヘシ今此ノ十頭ニ對スル收支計算ヲ考フルニ咸鏡北道ニ於ケル預託方法ノ一トシテ生後六箇月以上一年以内ノ犢二頭ヲ三箇年預託シ飼養料トシテ所有者ヨリ其ノ内一頭ヲ受託者ニ與

フルモノアルカ其ノ三歲乃至四歲ノ牛ハ價格約四十圓ト見積ルトキハ二頭ヲ三箇年飼養スルニ四十圓ヲ要スル理ニシテ十頭ノ飼養料ハ三箇年二百圓トナル即チ之ニ當歲當時ノ原價約十五圓ノモノ十頭ニ付百五十圓ヲ加ヘタル計三百五十圓支出シテ此際四十圓ノ成牛十頭四百圓ヲ得タル理トナルカ故ニ差引五十圓ハ三箇年間ニ於ケル收利トナリ一箇年約十六圓六十六錢トナル即チ支出ニ對シテ約五分ノ收益トナル

以上ノ計算ニヨルトキハ收益部合ハ農林牧ノ順位トナレトモ林業ノ如キモ官苗ノ無償下付アリ牧畜ノ如キハ畜牛自體ノ價格以外農耕ニ與フル利益アリ之ヲ計算セハ其ノ收益部合更ニ上ルヘシ要スルニ各事業ニヨリテ收益部合ヲ異ニスルハ免ル可ラサル所ナルカ國家致富ノ基ハ各種ノ産業ヲ相提携シテ各方面ニ發展セシムルニアリ徒ラニ其ノ有形的收益ノ大ナルヲ見テ直ニ之ニ集中シテ他ヲ顧ミサルカ如キ排他的ノ進行ハ一國殖産ノ確實ヲ期スル所以ニアラス畜産ノ如キ單ニ其ノ自體ノ事業トシテハ收益ノ部合到底農林ニ及ハサルモノアルモ之ニヨリテ農耕ノ受クル利益ノ多大ナル又之ニヨリテ人類ノ體力ヲ養ヒ健康ヲ進メ強壯ナル國民ヲ育成スルヲ得ルノ利益ヲ思ハ、大ニ其ノ發展ヲ獎勵セサルヘカラス實ニ日本内地ノ農業ノ如キ農具ノ改良モ去ルコトナカラ耕牛足ラサルカ爲メ産業ノ霸者タル農業ノ生産價格僅カニ十五億圓ニ過キスシテ獨逸ノ六十五億圓ト云フニ對シ甚シキ遜色アルヲ見ルヘシ朝鮮カ斯業ノ畫策實行ニ適地タラハ盛ニ之ヲ獎勵シ之ヲ發展セシメ以テ母國殖産ノ増殖ヲ謀ルノ道ニ供シ健民養成ノ資ヲ作り更ニ進シテ海外輸出ノ向上ヲ期スルコト眞ニ良策タラサル可ラス而シテ畜牛ノ優劣ハ牧草ノ良否ニ基クコト至大ノ關係アルハ明カナルカ故ニ畜産ノ獎勵ハ同時ニ牧草栽培ノ獎勵ニシテ之レニ要スル地區ノ提供已ム可ラサルハ自然ノ數ナリ朝鮮四百十六萬町歩ノ無立木ニ對シテ悉ク之ニ植林ヲ試ミントスルハ決シテ一朝ニシテ達成シ得ヘキ業ニアラス且ツ悉ク國土保安ノ性質ヲ體有セルモノ、ミト云フニモアラス其ノ力ノ能ハサルニ拘ラス徒ニ之ヲ保有シテ絕對ニ之ヲ他業ニ供與スルコトニ吝ナルハ土地産業ノ真相ヲ誤ルコト大ナルモノト云ハサル可ラス又植林面積ノ擴大ハ畜産ノ發展ヲ阻害スルハ爭ハレサル事實ナルカ故ニ恰モ現時多大ノ無立木地ノ存スル時機ニ於テ其ノ幾分ヲ割キ前陳ノ理由ニヨリ初メヨリ早ク

林業地タルヘキ區域ト牧草地タルヘキモノトノ區別ヲ明ニシ若ハ少ナクトモ混牧林業ノ地區ヲ定メテ林牧二業ノ相離レ又ハ相和シテ互ニ其ノ健全ナル發達ヲナサシメシムコトヲ企テサル可ラス母國ニ於テ動モスレハ二業ノ衝突セントスルモノアルハ互ニ提携スヘキヲ忘レ兩者進行ノ步度相一致セサルカ爲メニ外ナラス

又朝鮮全土ノ人口戸數中其ノ大多數ヲ占ムルモノ、農家ナルコトハ既ニ揭記シタル所ナルモ其ノ燃料ハ濶棉等ヲ利用シ木材ヲ使用スル數量ハ比較的少ナケレトモ農家總員ノ消費量トシテハ多大ノ數ニ上リ而モ燃料ノ窮乏ヲ告グルコト多年ニシテ左ナキタニ濫伐ノ迹ヲ益甚シカラシメントスルノ勢アルカ故ニ森林ノ荒廢ヲ防遏スル方策ヨリスルモ將タ農家生存ノ要件ヨリスルモ今後林業ノ經營トシテ薪炭林ノ造成ヲ急カハ彼等ノ燃料ヲ豐富ナラシムルコトヲ得ルノミナラス傍ラ以テ落葉細枝ノ肥料及畜牛飼料ノ資ヲ供スルノ道トモナリ一舉多得ノ方便タルヲ得ン、而シテカノ火田ニ至テハ森林ヲ賊スルコト最モ甚シキモノニシテ逐年林業ノ地域ヲ侵奪セントスルノ勢猛烈ナルモノアリ總督府ハ十五度以上ノ傾斜地ノ開墾ヲ禁シテ之ヲ警メントセルモ地方ニヨリ地勢ニヨリ其ノ狀態相異リ同一ニ律スヘカラサルモノアリ而モ交通不便ニシテ物資ノ供給意ノ如クナラス又貧弱ニシテ之ヲ購フノ資力ナキ山間ノ住民ハ纔ニ火田ノ開墾ニヨリテ其ノ口ヲ糊セルモノナルカ故ニ火田ノ方法ヲ改良シ牧畜ニ付陳ヘタル如ク少ナクトモ混農林業ノ方法ヲ執リテ林農相提携ノ術ヲ行フノ必要アルヘキハ疑ハサル所ナリ

第二款 主要ナル森林地方及木材市場ニ於ケル金利物價及勞銀

四十四年六月末ニ於ケル在鮮各銀行ノ諸貸出金合計二千五百二十四萬餘圓ノ内諸貸付金千三百二十萬圓餘ニシテ手形割引千二百餘萬圓ナルヲ見レハ貸付ハ主トシテ新事業ノ企畫若ハ擴張ノ資金ヲ融通シ割引ハ產物ノ移轉ヲ容易ナラシムルニアルモノトスルハ普通ノ見解ナルカ故ニ以テ朝鮮ニ於テハ產物ノ移轉ヨリモ農工起業ノ熱盛ナルカ如キ觀アレトモ之ヲ前年同月ノ貸出ト其ノ増減關係ヲ見ルニ貸付金ノ增加百八十八萬餘圓ナルニ割引ハ四百三十三萬餘圓ナリ以

テ手形割引ノ増加量ノ多大ナルヲ見ルヘク以テ起業ノ速度カ商業ノ促進ニ伴ハサルコトヲ知ルヘシ試ニ同月末ニ於ケル銀行貸出金ノ用途ヲ見ルニ

農業資金	二百八十五萬七千餘圓	工業資金	百七十八萬四千餘圓
商業資金	千七百七十七萬三千餘圓	雜資金	二百八十二萬八千餘圓

ナルカ故ニ同シク農工業ノ商業ニ比シ振ハサルヲ證スルニ足ルヘシ故ニ農工ノ產物少ナク殊ニ交通運輸ノ便開ケスシテ生産費ヲ要スルコト多ク貨物ノ種類ニヨリテハ市價ノ殆ント大半ハ運賃ニ消費スヘキモノアリ又其ノ產額ノ少ナキ所大部分之ヲ母國ヨリ補フモノナルカ關稅運賃諸費ヲ要スルコト多ク而モ人口ノ漸加ハ益需要ヲ増シ且ツ尙殖民地的狀態ノ通風トシテ中間ノ口錢ヲ食ルコト甚シキ爲メ物價ノ昂騰ヲ來セルハ自然ノ勢ナリ而シテ金利ニ至テハ鮮民ノ多クハ大部分資力乏クシテ財產の信用薄ク移住民ハ今尙假住的狀態ヲ脱セルモノ少ナク信用從テ薄弱ナルカ故ニ金利ノ高ハ當然ニシテ農業ノ如キ母國ニ於テハ三四分位ノ利廻リニ過キサルニ金利ハ八朱前後ヲ動ケルモノナルニ徴シ南鮮ニ於テハ一割五分乃至一割二分ノ農業利廻リヲ告グル狀態ニ對シ金利ノミ獨低カルヘキヲ得サル理ナリ而シテ個人貸借ニアリテハ月一割ノ高利ヲ食レルモノ亦少カラス少クトモ年四、五割ノ利率ハ普通ノ狀態トセリ且ツ尙草創時代ノコトハ銀行ノ支店制度發達セサルト交通不便ノ爲メ地方經濟ノ均衡ヲ得サル關係等ヨリシテ銀行ノ金利モ地方ニヨリテ其ノ高下アルハ當然ナレトモ朝鮮銀行ノ金利ノ低下ヲ率先セルト各銀行競争上ノ關係等ヨリシテ銀行ノ貸出日歩ノミハ平均普通三錢乃至三錢五厘ト云フ比較的低利ノ狀態ニアリ然レトモ朝鮮ノ現狀ハ銀行ノ金利ヲ見テ直ニ地方經濟界ノ金利ヲ推知シ得サルノミナラス又前者カ後者ヲ左右シ得ヘキモノニアラスシテ依然高利貸ノ跋扈ヲ許サハル可ラサル大勢ナリ物價此ノ如ク高直ニシテ金利此ノ如ク不廉ナルカ故ニ一般貧窶ノ鮮人ヲ驅テ其ノ資金ノ回收ヲ永年ノ後ニ俟タサル可ラサル森林ノ事業ヲ專業トシテ營マシメントスルニ由ナク其ノ山林ヲ有スルモノトテモ多クハ單ニ燃料ノ資ヲ仰カンカ爲メニ單純ナル林業ヲ農家ノ副業トシテ行ヘルニ過キサルハ實ニ已ムヲ得サル所トスヘシ此カ

狀勢ナルカ故ニ朝鮮ニ於テ例ヘハ會社ヲ組織セントセハ母國ノ安價ナル金錢ヲ以テ之ニ當ツルノ賢ナルニ如カサル理トナリ現ニ東拓株ノ如キ漸次母國ニ輸出セラレ現金ト變シテ朝鮮ニ於テ高キ金利ヲ吸收セル實況ナリ以上ノ如ク金利高シト雖トモ是レ母國ノ金利ヲ標準トシテノ言ニシテ朝鮮ニ於テハ前陳ノ關係上之カ普通ノ常勢ニシテ其ノ間ニ於テ元ヨリ常ニ強弱高低アルモノナルコトヲ知ラサル可ラス

甲、金 利

今四十四年六月ニ於ケル在鮮各種銀行ノ貸出金利ヲ掲記スレハ左ノ如シ(△印ハ減)

銀行名	不動產		證券		信 用		當座貸越		手形割引	
	高	低	高	低	高	低	高	低	高	低
韓國銀行	三.三	三.六	三.三	三.六	三.三	三.六	三.三	三.六	三.三	三.六
農工銀行	三.三	三.六	三.三	三.六	三.三	三.六	三.三	三.六	三.三	三.六
普通銀行	三.三	三.六	三.三	三.六	三.三	三.六	三.三	三.六	三.三	三.六
東洋拓殖株式會社	三.三	三.六	三.三	三.六	三.三	三.六	三.三	三.六	三.三	三.六
平均	三.三	三.六	三.三	三.六	三.三	三.六	三.三	三.六	三.三	三.六
對前月	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
對前年同月	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

次ニ主要ナル木材市場ニ於ケル金利及其ノ狀況ヲ掲ケシ

一、京城仁川方面

引續米價騰貴ノ爲メ移出盛況ヲ極メ市場幾分活氣ヲ呈セルト半季決算期ニ際シ決済資金等ノ需要アリ金融稍繁忙ヲ告ケシモ金利ハ依然軟弱ナリ

二、平壤鎮南浦方面

米穀ノ移向好況ナルモ金融ハ開散ニシテ少々決済資金ノ小口需要アリシ外概シテ回收勝ニテ各銀行共手許潤澤ニテ金

利ハ弱含ミナリ尙本月中平壤韓銀支店ニ於テ買入タル金、地金ハ約七十六貫目ニ達セリ

三、群山方面

引續キ米穀ノ出廻ナク市場極メテ沈靜ニシテ物價ハ稍下落ノ傾向ヲ示セリ

四、木浦方面

漁業準備ノ爲メ市況稍活氣ヲ呈セリ棉種ノ發芽良好ニシテ今後天候ノ適順ヲ得ハ豐作ナルヘシ

五、釜山大邱方面

本月ニ入り浦瀧方面ヘ粍ノ輸出及内地ヘ向ケ海草類ノ移出盛況ナリシモ農期ニ入り米穀ノ廻荷ナク市況開散ニシテ資金ノ需要更ニナク金利ハ變動ナシ

六、元山方面

貿易ハ移出入共ニ前月ニ比シ減少セル爲メ商況不振ヲ極メ金利ハ下向ナリ今後新規建築工事等ノ著手ト共ニ資金ノ需要ヲ喚起スヘシ

七、清津方面

引續キ市況良好ナルモ粟ノ移入過多ノ爲メ荷間ノ有様ニテ賣急キノ結果相場ハ下向ナリ尙支那馱馬ノ交通ハ依然杜絶セルモ輕便臺車ノ積載量増加セルヲ以テ停滯貨物噸ニ減少セリ

(一) 京城仁川方面(開城、新義、春川、水原、公州、大田地方ヲ含ム)ノ金利

年 月	定期預金		當座預金		小口預金		諸預金		普通貸付		當座貸越		手形割引	
	高	低	高	低	高	低	高	低	高	低	高	低	高	低
六月分	五.九	五.四	九.九	七.七	一.三	一.三	一.三	一.三	六.三	五.三	三.三	三.三	三.三	三.三

